

第三 判決ノ憑據ト爲リタル證書カ偽造又ハ變造ナリシトキ
 第四 證人若クハ鑑定人カ供述ニ因リ又ハ通事カ判決ノ憑據ト爲リタル通譯ニ因リ偽證ノ罪ヲ犯シタリシトキ
 第五 判決ノ憑據ト爲リタル刑事上ノ判決カ他ノ確定ト爲リタル刑事上ノ判決ヲ以テ廢棄若クハ破毀セラレタリシトキ
 第六 原告若クハ被告カ同一ノ事件ニ付テノ判決ニシテ前ニ確定ト爲リタルモノヲ發見シ其判決カ不服ヲ申立テラレタル判決ト抵觸スルトキ
 第七 相手方若クハ第三者ノ所爲ニ依リ以前ニ提出スルコトヲ得サリシ證書ニシテ原告若クハ被告ノ利益ト爲ル可キ裁判ヲ爲スニ至ラシム可キモノヲ發見シタルトキ
 第一號乃至第四號ノ場合ニ於テハ罰セザル可キ行爲ニ付テ判決カ確定ト爲リタルトキ又ハ證據欠缺外ナル理由ヲ以テ刑事訴訟手續ノ開始若クハ實行ヲ爲シ得サルトキニ限り再審ヲ求ムルコトヲ得
 第四百七十條 原狀回復ノ訴ハ原告若クハ被告カ自己ノ過失ニ非スシテ前訴訟手續ニ於テ殊ニ故障又ハ控訴若クハ附帶控訴ニ依リ原狀回復ノ理由ヲ主張スルコト能ハサリシトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得
 第四百七十一條 不服ヲ申立テラレタル判決前ニ同一ノ裁判所又ハ下級ノ裁判所ニ於テ爲シタル裁判ニ關スル不服ノ理由ハ再審ヲ求ムル訴ト共ニ之ヲ主張スルコトヲ得但不服ヲ申立テラレタル判決カ其裁判ニ根據スルトキニ限ル
 第四百七十二條 再審ヲ求ムル訴ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所ノ管轄ニ專屬ス

同一ノ事件ニ付キ二分ハ下級ノ裁判所又一分ハ上級ノ裁判所ニ於テ爲シタル數箇ノ判決ニ對スル訴ハ上級ノ裁判所ノ管轄ニ專屬ス
 督促手續ニ依リテ區裁判所ノ發シタル執行命令ニ對シ再審ヲ求ムル訴ハ其命令ヲ發シタル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス然レトモ其請求カ區裁判所ノ管轄ニ屬セザルトキハ請求ニ付テノ訴訟ヲ管轄スル裁判所ニ專屬ス
 第四百七十三條 訴ノ提起及ヒ其後ノ訴訟手續ニハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケサル限りハ其訴ニ付辯論及ヒ裁判ヲ爲ス可キ裁判所ノ訴訟手續ニ關スル規定ヲ準用ス
 第四百七十四條 訴ハ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ
 此期間ハ原告若クハ被告カ不服ノ理由ヲ知リタル日ヲ以テ始マル若シ原告若クハ被告カ判決ノ確定前ニ不服ノ理由ヲ知リタルトキハ判決ノ確定ヲ以テ始マル
 判決確定ノ日ヨリ起算シテ五ヶ年ノ滿了後ハ訴ヲ爲スコトヲ得ス
 前二項ノ規定ハ第四百六十八條第四號ノ場合ニ之ヲ適用セス此場合ニ於テ其訴ノ提起ノ期間ハ原告若クハ被告又ハ其法律上代理人カ送達ニ因リ判決アリタルコトヲ知リタル日ヲ以テ始マル
 第四百七十五條 訴狀ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス
 第一 取消又ハ原狀回復ノ訴ヲ受クル判決ノ表示
 第二 取消又ハ原狀回復ノ訴ヲ起ス旨ノ陳述
 此他訴狀ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作り且不服ノ理由ノ表示、此理由及ヒ不變期間ノ遵守ヲ明白ナラシムル事實ニ付テノ證據方法又如何ナル程度ニ於テ不服ヲ申立テラレタル判決ヲ廢棄若クハ破毀ス可キヤノ申立又本案ニ付

キ更ニ如何ナル裁判ヲ爲ス可キヤノ申立ヲモ掲ク可シ
 第四百七十六條 判然許ス可カラサル訴又ハ判然法律上ノ方式ニ適セス若クハ其期
 間ノ經過後ニ起シタル訴ハ裁判長ノ命令ヲ以テ之ヲ却下ス可シ
 此却下ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 第四百七十七條 原告ハ口頭辯論ノ期日ニ於テ相手方ノ陳述ノ有無ニ拘ハラズ再審
 ヲ求ムル理由及ビ法律上ノ期間ノ遵守ヲ明白ニスル事實ヲ疏明ス可シ
 第四百七十八條 許ス可カラサル訴又ハ法律上ノ方式ニ適セス若クハ其期間ノ經過
 後ニ起シタル訴ハ職權ヲ以テ判決ニ因リ不適法トシテ之ヲ棄却ス可シ
 第四百七十九條 本案ニ付テノ辯論及ヒ裁判ハ不服申立ノ理由ノ存スル部分ニ限り
 更ニ之ヲ爲ス可シ
 裁判所ハ本案ニ付テノ辯論前ニ再審ヲ求ムル理由及ヒ許否ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ
 爲スコトヲ得此場合ニ於テハ本案ニ付テノ辯論ハ再審ヲ求ムル理由及ヒ許否ニ付
 テノ辯論ノ續行ト看做ス
 第四百八十條 原告ノ不利益ト爲ル判決ノ變更ハ相手方カ再審ヲ求ムル訴ヲ起シ
 テ變更ヲ申立テタルトキニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
 第四百八十一條 訴カ上告裁判所ニ屬スルトキハ上告裁判所ハ再審ヲ求ムル理由及
 ヒ其許否ニ付テノ辯論ノ完結カ係爭事實ノ確定及ヒ斟酌ニ繫ルトキト雖モ其完結
 ヲ爲ス可シ
 第四百八十二條 上訴ハ訴ニ付キ裁判ヲ爲シタル裁判所ノ判決ニ對シ一般ニ爲スコ
 トヲ得ヘキトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得
 第四百八十三條 第三者カ原告及ビ被告ノ共謀ニ因リ第三者ノ債權ヲ詐害スル目的

ヲ以テ判決ヲ爲シメタリト主張シ其判決ニ對シ不服ヲ申立ツルトキハ原狀回復
 ノ訴ニ因レル再審ノ規定ヲ準用ス
 此場合ニ於テハ原告及ビ被告ヲ共同被告ト爲ス
 第五編 證書訴訟及ヒ爲替訴訟
 第四百八十四條 一定ノ金額ノ支拂其他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給
 付ヲ目的トスル請求ハ其請求ヲ起ス理由タル總テノ必要ナル事實ヲ證書ニ依リ證
 スルコトヲ得ヘキトキハ證書訴訟ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得
 第四百八十五條 訴狀ニハ證書訴訟トシテ訴フル旨ノ陳述ヲ掲ケ且證書ノ原本又ハ
 謄本ヲ添フルコトヲ要ス
 第四百八十六條 本案ノ辯論ハ妨訴ノ抗辯ニ基キ之ヲ拒ムコトヲ得然レトモ裁判所
 ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ此抗辯ニ付キ辯論ノ分離ヲ命スルコトヲ得
 第四百八十七條 反訴ハ之ヲ爲スコトヲ得ス
 證書ノ眞否及ヒ第四百八十四條ニ掲ケタル以外ノ事實ニ關シテハ證書ノミヲ以テ
 適法ノ證據方法ト爲スコトヲ得
 書證ノ申出ハ證書ノ提出ヲ以テノミ之ヲ爲スコトヲ得
 第四百八十八條 原告ハ口頭辯論ノ終結ニ至ルマテハ被告ノ承諾ヲ要セスシテ通常
 ノ手續ニテ訴訟ヲ繫屬セシメテ證書訴訟ヲ止ムルコトヲ得
 第四百八十九條 訴ヲ以テ主張シタル請求カ理由ナシト見エ又ハ被告ノ抗辯ニ因リ
 理由ナシト見ユルトキハ原告ノ請求ヲ却下ス可シ
 證書訴訟ヲ許ス可カラサルトキ殊ニ適法ノ證據方法ヲ以テ原告ノ義務タル證據ヲ
 申出テス又ハ完全ニ之ヲ舉ケサル場合ニ於テハ被告カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス

又ハ法律上ノ理由ナキ異議若クハ證書訴訟ニ於テ許ササル異議ノミヲ以テ訴ニ對シ抗辯シタルトキト雖モ此訴訟ニ於テハ其訴ヲ許ササルモノトシテ之ヲ却下ス可シ

第四百九十條 證書訴訟ニ於テ適法ノ證據方法ヲ以テ被告ノ義務タル證據ヲ申出テス又ハ完全ニ之ヲ擧ケサルトキハ被告ノ異議ハ證書訴訟ニ於テ許ササルモノトシテ之ヲ却下ス可シ

第四百九十一條 主張シタル請求ヲ争ヒタル被告ニハ敗訴ノ言渡ヲ受ケタル總ノ場合ニ於テ其權利ノ行使ヲ留保ス可シ

判決ニ此留保ヲ掲ケサルトキハ第二百四十二條ノ規定ニ依リ判決ノ補充ヲ申立ツルコトヲ得

第四百九十二條 被告ニ權利ノ行使ヲ留保シタルトキハ訴訟ハ通常ノ訴訟手續ニ於テ繫屬ス

此手續ニ於テ證書訴訟ヲ以テ主張シタル請求ノ理由ナカリシコトノ顯ハルルトキハ前判決ヲ廢棄シ原告ノ請求ヲ却下シ且其生セシメタル費用ノ全部又ハ一分ノ辨濟ヲ原告ニ言渡シ又前判決ニ基キ被告ヨリ支拂ヒ又ハ給付シタルモノノ辨濟ヲ申立ニ因リ原告ニ言渡ス可シ

右手續ニ於テ原告若クハ被告カ出頭セサルトキハ闕席判決ニ關スル規定ヲ準用ス

第四百九十三條 第四百二十六條及ヒ第四百二十七條ノ規定ハ證書訴訟ニ之ヲ適用セス

第四百九十四條 商法ニ規定シタル手形ニ因ル請求ヲ證書訴訟ヲ以テ主張スルトキ

ハ爲替訴訟トシテ以下二條ニ掲クル特別ノ規定ヲ適用ス

第四百九十五條 爲替ノ訴ハ支拂地ノ裁判所又ハ被告カ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得

數人ノ爲替義務者カ共同ニテ訴ヲ受ク可キトキハ支拂地ノ裁判所又ハ被告ノ各人カ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所各之ヲ管轄ス

第四百九十六條 訴狀ニハ爲替訴訟トシテ訴フル旨ヲ掲クルコトヲ要ス

訴ノ訴ス可キモノナルトキハ直チニ口頭辯論ノ期日ヲ定ム

口頭辯論ノ期日ト訴狀送達トノ間ニハ少ナクトモ二十四時ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

第六編 強制執行

第一章 總則

第四百九十七條 強制執行ハ確定ノ終局判決又ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル終局判決ニ因リテ之ヲ爲ス

第四百九十八條 判決ハ適法ナル故障ノ申立又ハ適法ナル上訴ノ提起ニ付キ定メタル期間ノ滿了前ニハ確定セサルモノトス

判決ノ確定ハ故障若クハ上訴ヲ其期間内ニ申立若クハ提起スルニ因リ之ヲ遮斷ス

第四百九十九條 原告若クハ被告カ判決ノ確定ニ付キ證明書ヲ求ムルトキハ第一審裁判所ノ書記ハ記録ニ基キ之ヲ付與ス

訴訟カ猶ホ上級審ニ於テ繫屬中ナルトキハ上級裁判所ノ書記ハ判決ノ確定ト爲リタル部分ノミニ付證明書ヲ付與ス

判決ニ對シ上訴ノ提起ナキ場合ニ非サレハ證明書ヲ付與スルコトヲ得サルトキニ

限リ上訴ヲ管轄スル裁判所ノ書記カ不變期間内ニ上訴ノ提起ナキコトヲ認メタル證明書ヲ以テ足ル

第五百條 原狀回復又ハ再審ヲ求ムル申立アルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ保證ヲ立テシメ又ハ保證ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ一時停止ス可キコトヲ命シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ爲ス可キコトヲ命シ及ヒ保證ヲ立テシメテ其爲シタル強制處分ヲ取消ス可キヲ命スルコトヲ得

保證ヲ立テシメスシテ爲ス強制執行ノ停止ハ其執行ニ因リ償フコト能ハサル損害ヲ生ス可キコトヲ疎明スルトキニ限り之ヲ許ス

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得其裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五百一條 左ノ判決ニ付テハ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

第一 認諾ニ基キ敗訴ヲ言渡ス判決

第二 證書訴訟又ハ爲替訴訟ニ於テ言渡ス判決

第三 同一審ニ於テ同一ノ原告若クハ被告ニ對シ本案ニ付キ言渡シタル第二又ハ其後ノ闕席判決

第四 假差押又ハ假處分ヲ取消ス判決

第五 養料ヲ支拂フ義務ヲ言渡ス判決但訴ノ提起後ノ時間及ヒ其提起前最後ノ三個月間ノ爲ニ支拂フ可キモノナルトキニ限ル

第五百二條 左ノ場合ニ於テハ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

第一 總テノ住家其他ノ建物又ハ其或ル部分ノ受取、明渡、使用、占據若クハ修繕ニ關シ又ハ賃借人ノ家具若クハ所持品ヲ賃借人ノ差押ヘタルコトニ關

シ賃借人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

第二 占有ノミニ係ル訴訟

第三 雇主ト雇人トノ間ニ雇期限一箇年以下ノ契約ニ關リ起リタル訴訟

第四 左ニ掲ケタル事項ニ付キ旅人ト旅店若クハ飲食店ノ主人トノ間ニ又ハ旅人ト水陸運送人トノ間ニ起リタル訴訟

イ 賄料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ伴フ手荷物ノ運送料
ロ 旅店若クハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲メ預ケタル手荷物、金錢又ハ有價物

第五 此他財産權上ノ請求ニ關シ金額又ハ價額ニ於テ貳拾圓ヲ超過セサル訴訟但其他ノ價額ニ付テハ第三條乃至第六條ノ規定ヲ適用ス

第五百三條 前二條ニ掲ケタル外左ノ場合ニ於テハ財産權上ノ請求ニ關スル判決ニ限リ債權者ノ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

第一 債權者カ執行ノ前ニ保證ヲ立テント申出ツルトキ

第二 債權者カ判決ノ確定ト爲ルマテ執行ヲ中止セハ償ヒ難キ損害又ハ計リ難キ損害ヲ受ク可キコトヲ疎明スルトキ

第五百四條 債務者カ判決ノ確定ト爲ル前ニ判決ヲ執行セハ回復スルコトヲ得サル損害ヲ受ク可キコトヲ疎明シタルトキハ其申立ニ因リ左ノ宣言ヲ爲ス可シ

第一 第五百一條ノ場合ニ於テハ判決ヲ假ニ執行ス可カラサルコト

第二 第五百二條及ヒ第五百三條ノ場合ニ於テハ債權者ノ假執行ノ申立ヲ却下スルコト

第五百五條 總テノ場合ニ於テ裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ債權者豫メ保證ヲ立ツ

ルトキハ假執行ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ宣言スルコトヲ得

債權者カ執行ノ前ニ保證ヲ立ツルコトヲ申出テサルトキハ債務者ノ申立ニ因リ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ供託ヲ爲サシメテ執行ヲ免カルルコトヲ許ス可シ

第五百六條 假執行ニ關スル申立ハ判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結前ニ之ヲ爲ス可シ

第五百七條 假執行ニ付テノ裁判ハ判決主文ニ之ヲ掲ク可シ

第五百八條 職權ヲ以テ判決ハ假執行ヲ宣言ス可キ場合ニ於テ假執行ニ付テノ裁判ヲ爲ササルトキ又ハ判決ノ假執行ヲ宣言ス可キ債權者ノ申立ヲ看過シタルトキハ

第二百四十二條及ヒ第二百四十三條ノ規定ニ從ヒ判決ノ補充ヲ爲スコトヲ得

第五百九條 第一審又ハ第二審ノ判決ニシテ假執行ノ宣言ナカリシモノ又ハ條件附ノ假執行ノ宣言アリタルモノハ上訴ヲ以テ不服ヲ申立テサル部分ニ限リ口頭辯論

ノ進行中ニ爲シタル原告若クハ被告ノ申立ニ因リ上級審ニ於テ其判決ニ假執行ノ宣言ヲ付ス可シ

第五百十條 本案ノ裁判又ハ假執行ノ宣言ヲ廢棄若クハ破毀又ハ變更スル判決ノ言渡アルトキハ假執行ハ其廢棄若クハ破毀又ハ變更ヲ爲ス限度ニ於テ効力ヲ失フ

假執行ノ宣言アリタル本案ノ判決ヲ廢棄若クハ破毀又ハ變更スルトキハ判決ニ基キ被告ノ支拂又ハ給付シタルモノノ辨濟ヲ被告ノ申立ニ因リ判決ヲ以テ原告ニ言渡ス可シ

第五百十一條 第二審ニ於テハ申立ニ因リ先ツ假執行ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲ス可シ

口頭辯論ノ延期ニ付テノ第四百十條ノ規定ハ此場合ニ於テハ之ヲ適用セス

第二審ニ於テ假執行ニ付キ爲シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五百十二條 假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ニ對シ故障ヲ申立テ又ハ上訴ヲ起シタルトキハ第五百條ノ規定ヲ準用ス

第五百十三條 本編ノ規定ニ從ヒ原告若クハ被告ニ保證ヲ立ツル義務ヲ負ハシメ若クハ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲スコトヲ許シタル場合ニ於テハ原告若クハ被告ハ其

普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所又ハ執行裁判所ニ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲スコトヲ得

保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタルコトニ付テハ求ニ因リ證明書ヲ付與ス可シ

第五百十四條 外國裁判所ノ判決ニ因レル強制執行ハ本邦ノ裁判所ニ於テ執行判決ヲ以テ其適法ナルコトヲ言渡シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

執行判決ヲ求ムル訴ニ付テハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ又普通裁判籍ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對スル訴ヲ管轄スル裁判所之ヲ管轄ス

第五百十五條 執行判決ハ裁判ノ當否ヲ調査セスシテ之ヲ爲ス可シ

執行判決ヲ求ムル訴ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ却下ス可シ

第一 外國裁判所ノ判決ノ確定ト爲リタルコトヲ證明セサルトキ

第二 本邦ノ法律ニ依リ強テ爲サシムルコトヲ得サル行爲ヲ執行セシム可キトキ

第三 本邦ノ法律ニ從ヘバ外國裁判所カ管轄權ヲ有セサルトキ

第四 敗訴ノ債務者本邦人ニシテ應訴セザリシトキ但訴訟ヲ開始スル呼出又ハ命令ヲ受訴裁判所所屬ノ國ニ於テ又ハ法律上ノ共助ニ依リ本邦ニ於テ本人ニ

送達セサリシトキニ限ル

第五 國際條約ニ於テ相互ヲ保セサルトキ

第五百十六條 強制執行ハ執行文ヲ付シタル判決ノ正本ニ基キ之ヲ爲ス

執行力アル正本ハ第一審裁判所ノ書記又訟訴カ上級裁判所ニ繫屬スルトキハ其裁

判所ノ書記之ヲ付與ス

執行力アル正本ヲ求ムル申立ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五百十七條 執行文ハ判決ノ正本ノ末尾ニ之ヲ附記ス

其文式左ノ如シ

前記ノ正本ハ被告某若クハ原告某ニ對シ強制執行ノ爲メ原告某若クハ被告某ニ之ヲ付與ス

執行文ニハ裁判所書記署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ押ス可シ

第五百十八條 執行力アル正本ハ判決ヲ確定シタルトキ又ハ假執行ノ宣言アリタル

トキニ限り之ヲ付與ス

判決ノ執行力其旨趣ニ從ヒ保證ヲ立ツルコトニ繫ル場合ノ外他ノ條件ニ繫ル場合

ニ於テハ債權者カ證明書ヲ以テ其條件ヲ履行シタルコトヲ證スルトキニ限り執行

力アル正本ヲ付與スルコトヲ得

第五百十九條 執行力アル正本ハ判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ノ爲ニ之ヲ付與

シ又ハ判決ニ表示シタル債務者ノ一般ノ承繼人ニ對シ之ヲ付與スルコトヲ得但其

承繼カ裁判所ニ於テ明白ナルトキ又ハ證明書ヲ以テ之ヲ證スルトキニ限ル

此承繼カ裁判所ニ於テ明白ナルトキハ之ヲ執行文ニ記載ス可シ

第五百二十條 第五百十八條第三項及ヒ第五百十九條ノ場合ニ於テハ執行力アル正

本ハ裁判長ノ命令アルトキニ限り之ヲ付與スルコトヲ得

裁判長ハ其命令前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルコトヲ得

右命令ハ執行文ニ之ヲ記載ス可シ

第五百二十一條 第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ニ依リ必要ナル證明ヲ爲ス

能ハサルトキハ債權者ハ判決ニ基キ執行文ノ付與ニ付キ第一審ノ受訴裁判所ニ訴

ヲ起スコトヲ得

第五百二十二條 執行文ノ付與ニ對シ債務者カ異議ヲ申立テタルトキハ其執行文ヲ

付與シタル裁判所書記ノ屬スル裁判所之ヲ裁判ス

裁判長ハ其裁判前ニ假處分ヲ爲スコトヲ得殊ニ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシ

メスシテ強制執行ヲ一時停止シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ續行ス可キヲ命

スルコトヲ得

第五百二十三條 債權者カ執行力アル正本ノ數通ヲ求メ又ハ前ニ付與シタル正本ヲ

返還セスシテ更ニ同一判決ノ正本ヲ求ムルトキハ裁判長ノ命令アルトキニ限り之

ヲ付與スルコトヲ得

裁判長ハ其命令ノ前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルコトヲ得

相手方ヲ審訊セスシテ執行力アル正本ノ數通ヲ付與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタル

トキハ其旨ヲ相手方ニ通知ス可シ

正本ノ數通ヲ付與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ明記ス可シ

第五百二十四條 執行力アル正本ノ付與前ニ判決ノ原本ニ原告ノ爲メ若クハ被告ノ

爲ニ之ヲ付與スル旨且之ヲ付與スル日時ヲ記載ス可シ

第五百二十五條 執行力アル正本ノ効力ハ之ヲ付與シタル裁判所ノ管轄内ニ止マテ

ス總テ本邦ノ裁判區域内ニ及フモノトス

第五百二十六條 債權者ハ一箇ノ地又ハ一箇ノ方法ニテ強制執行ヲ爲スモ完全ナル辨濟ヲ得ル能ハサルトキハ數通ノ執行力アル正本ニ基キ數箇ノ地又ハ數箇ノ方法ニテ同時ニ強制執行ヲ爲ス權利ヲ有ス

第五百二十七條 債權者ハ執行ヲ爲ス可キ地ヲ管轄スル區裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ

第五百二十八條 強制執行ハ之ヲ求ムル者及ヒ之ヲ受クル者ノ氏名ヲ判決又ハ之ニ附記スル執行文ニ表示シ且判決ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限り之ヲ始ムルコトヲ得

判決ノ執行力其旨趣ニ從ヒ債權者ノ證明ス可キ事實ノ到來ニ繫ルトキ又ハ判決ノ執行力判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ノ爲ニ爲シ又ハ判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ニ對シ爲ス可キトキハ執行ス可キ判決ノ外尙ホ之ニ附記スル執行文ヲ強制執行ヲ始ムル前ニ送達スルコトヲ要ス

若シ證明書ニ依リ執行文ヲ付與シタルトキハ亦其證書ノ謄本ヲ強制執行ヲ始ムル前ニ送達シ又ハ同時ニ送達スルコトヲ要ス

第五百二十九條 請求ノ主張力或ル日時ノ到來ニ繫ルトキハ其日時ノ滿了後ニ限り強制執行ヲ始ムルコトヲ得

若シ執行力債權者ヨリ保證ヲ立ツルコトニ繫ルトキハ債權者力保證ヲ立テタルコトニ付テノ公正ノ證明書ヲ提出シ且其謄本ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限り其執行ヲ始ムルコトヲ得

第五百三十條 豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對シテ爲ス強制執行ハ其上班司令官廳ニ通知ヲ爲シタル後ニ限り之ヲ始ムルコトヲ得

此官廳ハ債權者ノ求ニ因リ通知ノ受取證ヲ付與ス可シ

第五百三十一條 強制執行ハ此法律ニ於テ別段ノ規定ナキトキニ限り執達吏之ヲ實施ス

債權者ハ強制執行ヲ委任スル爲ニ區裁判所書記ノ補助ヲ求ムルコトヲ得

裁判所書記ノ委任シタル執達吏ハ債權者ノ委任シタルモノト看做ス

第五百三十二條 執達吏ハ債權者ノ委任ニ因リテ爲ス行爲及ヒ職務上ノ義務ノ違背ヨリシテ債權者其他ノ關係人ニ對シ損害ヲ生セシメタルトキハ第一ニ其責ニ住ス

第五百三十三條 債權者執行力アル正本ヲ交付シテ強制執行ヲ委任シタルトキハ執達吏ハ特別ノ委任ヲ受ケサルトキト雖モ支拂其他ノ給付ヲ受取リ其受取リタルモノニ付キ有効ニ受取ノ證書ヲ作り之ヲ交付シ且債務者ニ於テ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本ヲ債務者ニ交付スルコトヲ得

第五百三十四條 執達吏ハ執行力アル正本ヲ所持スルヲ以テ債務者及ヒ第三者ニ對シ強制執行及ヒ前條ニ掲ケタル行爲ヲ實施スル權利ヲ有ス債權者ハ此等ノ者ニ對シ委任ノ欠缺又ハ制限ヲ主張スルコトヲ得ス

執達吏ハ其正本ヲ携帶シ關係人ノ求アルトキハ其資格ヲ證スル爲ニ之ヲ示ス可シ

第五百三十五條 執達吏ハ債務者力其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本及ヒ受取ノ證ヲ之ニ交付シ又其義務ノ一分ヲ盡シタルトキハ執行力アル正本ニ其旨ヲ附記シ且受取ノ證ヲ債務者ニ交付ス可シ

債務者力後ニ債權者ニ對シ受取ノ證ヲ求ムル權利ハ前項ノ規定ニ因リテ妨ケラル

ルコト無シ

第五百三十六條 執達吏ハ執行ノ爲メ必要ナル場合ニ於テハ債務者ノ住居、倉庫及ヒ筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉及ヒ筐匣ヲ開カシムル權利ヲ有ス
抵抗ヲ受クル場合ニ於テハ執達吏ハ威力ヲ用キ且警察上ノ援助ヲ求ムルコトヲ得
若シ兵力ヲ要スルトキハ之ヲ執行裁判所ニ申立ツ可シ

第五百三十七條 執達吏ハ執行行爲ヲ爲スニ際シ抵抗ヲ受クルトキ又ハ債務者ノ住居ニ於テ執行行爲ヲ爲スニ際シ債務者又ハ成長シタル其家族若クハ雇人ニ出會ハサルトキハ成丁者二人又ハ市町村若クハ警察ノ吏員一人ヲ證人トシテ立會ハシム可シ

第五百三十八條 強制執行ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル各人ニハ其求ニ因リ執達吏ノ記録ノ閲覽ヲ許シ及ヒ記録中ニ存スル書類ノ謄本ヲ付與スルコトヲ要ス
第五百三十九條 夜間及ヒ日曜日並ニ一般ノ祝祭日ニハ執行裁判所ノ許可アルトキニ限り執行行爲ヲ爲スコトヲ得
右許可ノ命令ハ強制執行ノ際之ヲ示ス可シ

第五百四十條 執達吏ハ各執行行爲ニ付キ調書ヲ作ル可シ
此調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 第一 調書ヲ作リタル場所、年月日
- 第二 執行行爲ノ目的物及ヒ其重要ナル事情ノ略記
- 第三 執行ニ與カリタル各人ノ表示
- 第四 右各人ノ署名捺印
- 第五 調書ヲ其各人ニ讀聞セ又ハ閲覽セシメ其承諾ノ後署名捺印ヲ爲シタルコト

トノ開示

第六 執達吏ノ署名捺印

第四百一號及ヒ第五百號ノ要件ヲ具備スルコト能ハサルトキハ其理由ヲ記載ス可シ
第五百四十一條 執行行爲ニ屬スル催告其他ノ通知ハ執達吏口頭ヲ以テ之ヲ爲シ且調書ニ之ヲ記載ス可シ

若シ口頭ヲ以テ催告又ハ通知ヲ爲ス能ハサルトキハ第三百二十九條、第四百十條及ヒ第四百十五條乃至第四百十九條ノ規定ヲ準用シテ其調書ノ謄本ヲ送達シ又別ニ送達證ヲ作ラサルトキハ調書ニ其送達ヲ爲シタルコトヲ記載ス可シ

若シ強制執行ノ地ニ於テモ執行裁判所ノ管轄内ニ於テモ送達ヲ爲ス能ハサルトキハ催告又ハ通知ヲ受ク可キ者ニ郵便ヲ以テ調書ノ謄本ヲ送達シ且之ヲ郵便ニ付シタルコトヲ調書ニ記載ス可シ

第五百四十二條 執行行爲ノ際債務者ニ爲ス可キ送達及ヒ通知ハ債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ之ヲ必要トセス

第五百四十三條 此法律ニ於テ裁判所ニ任カセタル執行行爲ノ處分又ハ其行爲ノ共カハ執行裁判所トシテ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

法律ニ於テ別段ニ裁判所ヲ指定セサル各箇ノ場合ニ於テハ執行手續ヲ爲ス可キ地又ハ之ヲ爲シタル地ヲ管轄スル區裁判所ヲ以テ執行裁判所ト看做ス
執行裁判所ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百四十四條 強制執行ノ方法又ハ執行ニ際シ執達吏ノ遵守ス可キ手續ニ關スル申立及ヒ異議ニ付テハ執行裁判所之ヲ裁判ス又執行裁判所ハ第五百二十二條第二項ニ定メタル命ヲ發スル權ヲ有ス

執達吏カ執行委任ヲ受クルヲ拒ミ若クハ委任ニ從ヒ執行行為ヲ實施スルコトヲ拒ミタルトキ又ハ執達吏ノ計算セシ手数料ニ付キ異議アルトキハ執行裁判所ハ之ヲ裁判スル權ヲ有ス

第五百四十五條 判決ニ因リテ確定シタル請求ニ關スル債務者ノ異議ハ訴ヲ以テ第一審ノ受訴裁判所ニ之ヲ主張ス可シ

右ノ異議ハ此法律ノ規定ニ從ヒ遅クトモ異議ヲ主張スルコトヲ要スル口頭辯論ノ終結後ニ其原因ヲ生シ且故障ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得サルトキニ限り之ヲ許ス

債務者カ數箇ノ異議ヲ有スルトキハ同時ニ之ヲ主張スルコトヲ要ス

第五百四十六條 前條ノ規定ハ第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ノ場合ニ於テ債務者カ執行交付與ノ際證明シタリト認メラレタル事實ノ到來ニシテ此ニ因リ判決ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ争ヒ又ハ認メラレタル承繼ヲ争フトキハ亦之ヲ準用ス但此場合ニ於テ第五百二十二條ノ規定ニ從ヒ執行文ノ付與ニ對シ異議ヲ申立ツル債務者ノ權ハ此カ爲ニ妨ケラルルコト無シ

第五百四十七條 強制執行ノ續行ハ前二條ノ場合ニ於ケル異議ノ訴ノ提起ニ因リテ妨ケラルルコト無シ

然レトモ異議ノ爲メ主張シタル事情カ法律上理由アリト見エ且事實上ノ點ニ付キ説明アリタルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ判決ヲ爲スニ至ルマテ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ停止ス可キコトヲ命シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ續行ス可キコトヲ命シ又ハ其爲シタル執行處分ヲ保證ヲ立テシメテ取消ス可キヲ命スルコトヲ得

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲シ又急迫ナル場合ニ於テハ裁判長之ヲ爲スコトヲ得

急迫ナル場合ニ於テハ爲行裁判所モ亦此權利ヲ行使スルコトヲ得此場合ニ於テハ執行裁判所ハ受訴裁判所ノ裁判ヲ提出セシムル爲ニ相當ノ期間ヲ定ム可シ此期間ヲ徒過シタルトキハ債權者ノ申立ニ因リ強制執行ヲ續行ス

第五百四十八條 受訴裁判所ハ異議ノ訴ニ付キ裁判スル判決ニ於テ前條ニ掲ケタル命ヲ發シ又ハ既ニ發シタル命ヲ取消シ之ヲ變更シ若クハ之ヲ認可スルコトヲ得判決中前項ニ掲グル事項ニ限り職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

右裁判ニ對スル不服ニ付テハ第五百十一條ノ規定ヲ準用ス

第五百四十九條 第三者カ強制執行ノ目的物ニ付キ所有權ヲ主張シ其他目的物ノ讓渡若クハ引渡ヲ妨グル權利ヲ主張スルトキハ訴ヲ以テ債權者ニ對シ其強制執行ニ對スル異議ヲ主張シ又債權者ニ於テ其異議ヲ正當ナリトセサルトキハ債權者及ヒ債務者ニ對シテ之ヲ主張ス可シ

右訴ヲ債權者及ヒ債務者ニ對シテ起ストキハ之ヲ共同被告ト爲ス

右訴ハ執行裁判所ノ管轄ニ屬ス然レトモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ執行裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス

強制執行ノ停止及ヒ既ニ爲シタル執行處分ノ取消ニ付テハ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス但執行處分ノ取消ハ保證ヲ立テシメスシテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百五十條 強制執行ハ左ノ書類ヲ提出シタル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ之ヲ制限ス可シ

民事訴訟法

第一 執行ス可キ判決若クハ其假執行ヲ取消ス旨又ハ強制執行ヲ許サストシテ
 宣言シ若クハ其停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル執行力アル裁判ノ正本
 第二 執行又ハ執行處分ノ一時ノ停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル裁判ノ正本
 第三 執行ヲ免カルル爲メ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタル旨ヲ記載シタル公正
 ノ證明書
 第四 執行ス可キ判決ノ後ニ債權者カ辨濟ヲ受ケ又ハ義務履行ノ猶豫ヲ承諾シ
 タル旨ヲ記載シタル證書
 第五百五十一條 前條第一號又ヒ第三號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲモ
 取消ス可ク第四號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシム可ク第
 二號ノ場合ニ於テハ其裁判ヲ以テ從前ノ執行行爲ヲ取消シ命セサルトキニ限り既
 ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシム可シ
 第五百五十二條 強制執行ノ開始後ニ債權者カ死亡スルトキハ強制執行ハ遺産ニ對
 シ之ヲ續行ス可シ
 債權者ノ知ルコトヲ要スル執行行爲ヲ實施スル場合ニ於テ相續人アラサルトキ又
 ハ相續人ノ所在明カナラサルトキハ執行裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ遺産又ハ相
 續人ノ爲メ特別代理人ヲ任ス可シ
 第五百五十三條 強制執行ノ開始後ニ戶主タリシ債權者カ其地位ヲ辭シ又ハ之ヲ失
 ヒタルトキハ此變更ノ生セシ當時債務者ノ所持シタル財産ニ付キ前條ノ規定ヲ準
 用ス
 第五百五十四條 強制執行ノ費用ハ必要ナリシ部分ニ限り債務者ノ負擔ニ歸ス此費
 用ハ強制執行ヲ受クル請求ト同時ニ之ヲ取立ツ可シ

強制執行ノ基本タル判決ヲ廢棄若クハ破毀シタルトキハ其費用ハ之ヲ債務者ニ辨
 濟ス可シ
 第五百五十五條 執行ノ爲メ官廳ノ援助ヲ必要トスルトキハ裁判所ハ其援助ヲ官廳
 ニ求ム可シ
 第五百五十六條 豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對シ兵營及ヒ軍用廳舎
 又ハ軍艦ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ管轄
 ノ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ之ヲ爲ス
 囑託ニ因リ差押ヘタル物ハ債權者ノ委任シタル執達吏ニ之ヲ交付ス可シ
 第五百五十七條 外國ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キ場合ニ於テ其外國官廳カ本邦裁判
 所ニ法律上ノ共助ヲ爲ス可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ第一審ノ受訴裁判所ハ之
 ナ外國官廳ニ囑託ス可シ
 外國駐在ノ本邦領事ニ依リ強制執行ヲ爲シ得ヘキトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ之
 ナ其領事ニ囑託ス可シ
 第五百五十八條 強制執行ノ手續ニ於テ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ル裁判ニ
 對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 第五百五十九條 強制執行ハ左ノ諸件ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得
 第一 抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判
 第二 執行命令
 第三 訴ノ提起後受訴裁判所ニ於テ又ハ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ於テ
 爲シタル和解
 第四 第三百八十一條ノ規定ニ從ヒ區裁判所ニ於テ爲シタル和解

第五 公證人カ其權限内ニ於テ成規ノ方式ニ依リ作りタル證書但一定ノ金額ノ支拂又ハ他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ以テ目的トスル請求ニ付キ作りタル證書ニシテ直チニ強制執行ヲ受ク可キ旨ヲ記載シタルモノニ限ル

第五百六十條 前條ニ掲ケタル債務名義ニ因レル強制執行ニハ第五百十六條乃至第五百五十八條ノ規定ヲ準用ス但第五百六十一條第五百六十二條ノ規定ニ依リ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第五百六十一條 執行命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ承繼アル場合ニ限リ執行文ヲ附記スルコトヲ要ス
請求ニ關スル異議ハ執行命令ノ送達後ニ生シタル原因ニ基クテニ限リ之ヲ許ス

執行文付與ニ付テノ訴又ハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴又ハ執行文付與ノ際到來シタリト認メタル承繼ヲ爭フ訴ハ執行命令ヲ發シタル區裁判所之ヲ管轄ス但其請求力區裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノナルトキハ管轄地方裁判所ニ其訴ヲ起ス可シ

第五百六十二條 公證人ノ作りタル證書ノ執行力アル正本ハ其證書ヲ保存スル公證人之ヲ付與ス
執行文付與ニ關スル異議ニ付テノ裁判及ヒ更ニ執行文付與ニ付テノ裁判ハ公證人職務上ノ住所ヲ有スル地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

請求ニ關スル異議ノ主張ニ付テハ第五百四十五條第二項ニ規定シタル制限ニ從ハス
執行文付與ニ付テノ訴又ハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴又ハ執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到來ニ係リ此ニ因リテ證書ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ爭

フ訴ハ債務者カ本邦ニ於テ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所又ハ此裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對シ訴ヲ起シ得ヘキ裁判所之ヲ管轄ス
第五百六十三條 本編ニ定メタル裁判籍ハ專屬ナリトス

第二章 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行
第一節 動産ニ對スル強制執行
第一款 通則

第五百六十四條 動産ニ對スル強制執行ハ差押ヲ以テ之ヲ爲ス
差押ハ執行力アル正本ニ掲ケタル請求ヲ債權者ニ辨濟スル爲メ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フ爲ニ必要ナルモノノ外ニ及ホスコトヲ得ス

差押フ可キ物ヲ換價スルモ強制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス
第五百六十五條 第三者カ差押ヲ受ク可キ物ニ付キ物上ノ擔保權ヲ有スルモ差押ヲ妨グルコトヲ得ス然レトモ第五百四十九條ノ規定ニ從ヒ訴ヲ以テ賣得金ニ付キ優

先ノ辨濟ヲ請求スル權利ハ此カ爲ニ妨ケラルルコト無シ
此場合ニ於テ請求ノ爲メ主張シタル事情カ法律上理由アリト見エ且事實上ノ點ニ付キ説明アリタルトキハ裁判所ハ賣得金ノ供託ヲ命ス可シ但此事項ニ付テハ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス

第二款 有體動産ニ對スル強制執行
第五百六十六條 債務者ノ占有中ニ在ル有體動産ノ差押ハ執達更其物ヲ占有シテ之ヲ爲ス

其物ハ債權者ノ承諾アルトキ又ハ其運搬ヲ爲スニ付キ重大ナル困難アルトキハ之

ヲ債務者ノ保管ニ任ス可シ此場合ニ於テハ封印其他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニス
ルトキニ限リ其効力ヲ生ス

第五百六十七條 前條ノ規定ハ債權者又ハ物ノ提出ヲ拒マサル第三者ノ占有中ニ在
ル物ノ差押ニ付テモ亦之ヲ準用ス

第五百六十八條 果實ハ未タ土地ヨリ離レサル前ト雖モ之ヲ差押フルコトヲ得然レ
トモ其差押ハ通常ノ成熟時期ノ前一个月内ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
蠶ハ其多分ヲ繭ヲ成造スル爲メ揚リ蠶ト爲リタル後ニ非サレハ之ヲ差押フルコト
ヲ得ス

第五百六十九條 差押ノ効力ハ差押物ヨリ生スル天然ノ產出物ニモ當然及フモノト
ス

第五百七十條 左ニ掲クル物ハ之ヲ差押フルトコトヲ得ス

第一 衣服、寢具、家具及ヒ廚具但此物ヲ債務者及ヒ其家族ノ爲メ缺ク可カラサ
ルトキニ限ル

第二 債務者及ヒ其家族ニ必要ナル一个月間ノ食料及ヒ薪炭

第三 技術者、職工、勞役者及ヒ穩婆ニ在テハ其營業上缺ク可カラサル物

第四 農業者ニ在テハ其農業上缺ク可カラサル農具、家畜、肥料及ヒ次ノ收穫マ
テ農業ヲ續行スル爲メ缺ク可カラサル農產物

第五 文武ノ官吏、神職、僧侶、公立私立ノ教育場教師、辯護士、公證人及ヒ醫師
ニ在テハ其職業ヲ執行スル爲メ缺ク可カラサル物並ニ身分相當ノ衣服

第六 文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師ニ在テハ第六百十八條

ニ規定スル職務上ノ收入又ハ恩給ノ差押ヲ受ケサル金額但差押ヨリ次期
ノ俸給又ハ恩給ノ支拂マテノ日數ニ應シテ之ヲ計算ス

第七 藥舖ニ在テハ調藥ヲ爲ス爲メ缺ク可カラサル器具及ヒ藥品

第八 勳章及ヒ名譽ノ證標

第九 實印其他職業ニ必要ナル印

第十 神體、佛像其他禮拜ノ用ニ供スル物

第十一 系譜
債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル發明ニ關スル物及ヒ債務者又ハ其
家族ノ未タ公ニセサル著述ノ稿本

第十三 債務者及ヒ其家族カ學校ニ於テ使用ニ供スル書籍
然レトモ債務者ノ承諾アルトキハ第三號乃至第八號ニ掲ケタル物ヲ除ク外之ヲ差
押フルコトヲ得

第五百七十一條 差押物保存ノ爲メ特別ノ處分ヲ必要トスルトキハ執達吏ハ適當ノ
方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得シ此カ爲ニ費用ヲ要スルトキハ各債權者ヲシテ之ヲ豫
納セシメ又債權者數名關係スルトキハ其要求額ノ割合ニ從ヒテ其各債權者ヨリ之
ヲ豫納セシム可シ

第五百七十二條 執達吏ハ差押ヲ實施シタル後債權者又ハ裁判所ノ特別委任ヲ要セ
スシテ以下數條ノ規定ニ從ヒテ公ノ競賣方法ヲ以テ其差押物ヲ賣却スコトヲ得

第五百七十三條 競賣スコトヲ得ル物ノ中ニ高價ノモノ有ルトキハ執達吏ハ適當ナル鑑定
人ヲシテ其評價ヲ爲サシム可シ

第五百七十四條 差押金錢ハ之ヲ債權者ニ引渡スコトヲ得

執達吏カ金錢ヲ取立テタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス但保證
ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免カルルコトヲ債務者ニ許シタルトキハ此限ニ在
ラス

第五百七十五條 差押ノ日ト競賣ノ日トノ間ニハ少ナクトモ七日ノ時間ヲ存スルコ
トヲ要ス但差押債權者、執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者及ヒ債務者
カ競賣ヲ更ニ早ク爲サンコトヲ合意シタルトキ又ハ差押物ヲ永ク貯藏スルニ付キ
不相應ノ費用若クハ其物ノ價格ノ著シク減少スル危害ヲ避ケン爲メ競賣ヲ早ク爲
スコトノ必要ナルトキハ此限ニ在ラス

第五百七十六條 競賣ハ差押ヲ爲シタル市町村ニ於テ之ヲ爲ス但差押債權者及ヒ債
務者カ他ノ地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

競賣ノ日時及ヒ場所ハ之ヲ公告ス但其公告ニハ競賣ス可キ物ヲ表示ス可シ
第五百七十七條 最高價競賣ノ爲メノ競落ハ其價額ヲ三回呼上ケタル後之ヲ爲ス
競落物ノ引渡ハ代金ト引換ヘ之ヲ爲ス

最高價競買人競賣條件ニ定メタル支拂期日又ハ其定ナキトキハ競賣期日ノ終ル前
ニ代金ノ支拂ヲ爲シテ物ノ引渡ヲ求メサルトキハ更ニ其物ヲ競賣ス可シ此場合ニ
於テハ前ノ最高價競買人カ競買ニ加ハルコトヲ得ス且再度ノ競落代價カ最初ノ競
落代價ヨリ低キトキハ不足ヲ擔任ス可シ其高キトキハ剩餘ヲ請求スルコトヲ得ス

第五百七十八條 競賣ハ賣得金ヲ以テ債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償
フニ足ルニ至ルトキハ直チニ之ヲ止ム可シ
第五百七十九條 執達吏賣得金ヲ領收シタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノ
ト看做ス但保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免カルルコトヲ債務者ニ許シタル

トキハ此限ニ在ラス

第五百八十條 金銀物ハ其金銀ノ實價ヨリ以下ニ競落スルコトヲ許サズ其實價マ
テニ競買ヲ爲ス者ナキトキハ執達吏ハ金銀ノ實價ニ達スル價額ヲ以テ適宜ニ之ヲ
賣却スルコトヲ得

第五百八十一條 執達吏有價證券ヲ差押ヘタルトキハ相場アルモノハ賣却日ノ相場
ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却シ其相場ナキモノハ一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ競賣ス可シ

第五百八十二條 有價證券ノ記名ナルトキハ執行裁判所ハ買主ノ氏名ニ書換ヲ爲サ
シメ及ヒ此カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リ爲ス權ヲ執達吏ニ與フルコトヲ得

第五百八十三條 無記名ノ證券ニシテ記名ニ換ヘ又ハ他ノ方法ニ依リ流通ヲ止メタ
ルモノナルトキハ執行裁判所ハ其流通回復ヲ爲サシメ及ヒ此カ爲メ必要ナル陳述
ヲ債務者ニ代リテ爲ス權ヲ執達吏ニ與フルコトヲ得

第五百八十四條 土地ヨリ離レサル前ニ差押ヘタル果實ノ競賣ハ其成熟ノ後始メテ
之ヲ爲スコトヲ許ス執達吏ハ競賣ノ爲メ其收穫ヲ爲サシムル權利アリ

第五百八十五條 差押債權者、執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者又ハ債
務者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ前數條ノ規定ニ依ラス他ノ方法又ハ他ノ場所ニ於
テ差押物ノ賣却ヲ爲スコトヲ得又ハ執達吏ニ依ラス他ノ者ヲシテ競賣ヲ爲サシム可
キ旨ヲ命スルコトヲ得

第五百八十六條 執達吏ハ既ニ差押ヘタル物ニ付キ他ノ債權者ノ爲メ更ニ差押ノ手
續ヲ爲スコトヲ得ス
執達吏ハ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ差押調書ノ閱覽ヲ求メテ物ノ照査ヲ爲シ未

タ差押ニ係ラサル物アルトキハ之ヲ差押ヘ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ差押調書ヲ交付シ且總テノ差押物ヲ競賣ニ付ス可キコトヲ求ム可シ若シ差押ヲ可キ物アラサルトキハ照査調書ヲ作り既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ之ヲ交付ス可シ前項ノ求ニ因リ執行ニ關スル債權者ノ委任ハ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ法律上移轉ス

假差押ニ係ル物ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第五百八十七條 前條ニ掲ケタル物ノ照査手續ハ配當要求ノ効力ヲ生シ又既ニ爲シタル差押カ取消ト爲リタルトキハ差押ノ効力ヲ生ス

第五百八十八條 適當ナル期間經過スルモ執達吏競賣ヲ爲ササルトキハ差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者ハ一定ノ期間内ニ競賣ヲ爲ス可キコトヲ催告シ其催告ノ効アラサルトキハ相當ノ命令アラントキハ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得

第五百八十九條 民法ニ從ヒ配當ヲ要求シ得ヘキ債權者ハ執行力アル正本ニ因ラスシテ賣得金ノ配當ヲ要求スルコトヲ得

第五百九十條 前條ノ配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シ執達吏ニ之ヲ爲ス可シ

第五百九十一條 第五百八十六條第二項及ヒ第五百九十條ノ場合ニ於テ執達吏ハ配當要求ノ有リタルコトヲ配當ニ與カル各債權者及ヒ債務者ニ通知ス可シ

執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルルハ債務者ハ執達吏ノ通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ執達吏ニ申立ツ可シ債務者カ認諾セサルコトヲ執達吏ヨリ通知アリタルトキハ債權者ハ其通知アリタ

ルヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定ス可シ

第五百九十二條 配當ノ要求ハ競賣期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百九十三條 賣得金ヲ以テ配當ニ與カル各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ於テ債權者間ニ配當ノ協議調ハサルトキハ其賣得金ヲ供託ス可シ

數多ノ債權者ノ爲メ同時ニ金錢ヲ差押ヘタルトキ之ヲ以テ各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ於テモ亦同シ

右ノ場合ニ於テ執達吏ハ其事情ヲ執行裁判所ニ届出ツ可ク其届書ニハ執行手續ニ關スル書類ヲ添附ス可シ

第三款 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行

第五百九十四條 第三者(第二債務者)ニ對スル債權者ノ債權ニシテ金錢ノ支拂又ハ他ノ有體物若クハ有價證券ノ引渡若クハ給付ヲ目的トスルモノノ強制執行ハ執行裁判所ノ差押命令ヲ以テ之ヲ爲ス

第五百九十五條 執行裁判所トシテハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所若シ此區裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對スル訴ヲ管轄スル區裁判所管轄權ヲ有ス

第五百九十六條 債權者ハ差押命令ノ申請ニ差押ヲ可キ債權ノ種類及ヒ數額ヲ開示ス可シ

右申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五百九十七條 差押命令ハ豫メ第三債務者及ヒ債務者ノ審訊ヲ經スシテ之ヲ發ス

第五百九十八條 金錢ノ債權ヲ差押ヲ可キトキハ裁判所ハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁シ又債務者ニ對シ債權ノ處分殊ニ其取立ヲ爲スコカラサル

コトヲ命ス可シ
 差押命令ハ職權ヲ以テ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達シ又債權者ニハ其送達シタル旨ヲ通知ス可シ
 差押ハ第三債務者ニ對スル送達ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス
 第五百九十九條 抵當アル債權ノ差押ノ場合ニ於テハ債權者ハ債務者ノ承諾ヲ要セスシテ其債權ノ差押ヲ登記簿ニ記入スル權利アリ
 此記入ノ申請ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ其申請ハ差押命令ノ申請ト之ヲ併合スルコトヲ得
 裁判所ハ義務ヲ負フタル不動産ノ所有者(第三債務者)ニ差押命令ヲ送達シタル後記入ノ手續ヲ爲ス可シ
 第六百條 差押ヘタル金錢ノ債權ニ付テハ差押債權者ノ選擇ニ從ヒ代位ノ手續ヲ要セスシテ之ヲ取立ツル爲メ又ハ支拂ニ換ヘ券面額ニテ差押債權者ニ之ヲ轉付スル爲メ命令アラシコトヲ申請スルコトヲ得
 右命令ノ送達ニ付テハ第五百九十八條第二項ノ規定ヲ準用ス
 第六百一條 支拂ニ換ヘ券面額ニテ債權ヲ轉付スル命令アル場合ニ於テハ其債權ノ存スル限リハ第五百九十八條第二項ノ手續ヲ爲スニ因リ債務者ハ債權ノ辨濟ヲ爲シタルモノト看做ス
 第六百二條 取立ノ爲メノ命令ハ其債權ノ全額ニ及ブモノトス但執行裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ差押債權者ヲ審訊シテ差押額ヲ其債權者ノ要求額マテニ制限シ其超過スル額ノ處分殊ニ取立ヲ爲スヲ許スコトヲ得其制限シタル部分ニ限リ他ノ債權者ハ配當要求ヲ爲スコトヲ得ス

右許可ハ第三債務者及ヒ債權者ニ通知ス可シ
 第六百三條 手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ因レル債權ノ差押ハ執達吏其證券ヲ占有シテ之ヲ爲ス
 第六百四條 俸給又ハ此ニ類スル繼續收入ノ債權ノ差押ハ債權額ヲ限トシ差押後ニ收入ス可キ金額ニ及ブモノトス
 第六百五條 職務上收入ノ差押ハ債務者ノ轉官兼任又ハ増俸ニ因ル收入ニモ亦及ブモノトス
 第六百六條 債務者ハ債權ニ關スル所持ノ證書ヲ差押債權者ニ引渡ス義務アリ債權者ハ差押命令ニ基キ強制執行ノ方法ヲ以テ其證書ヲ債務者ヨリ取上ケシムルコトヲ得
 第六百七條 第五百五條第三項ニ從ヒテ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ供託ヲ爲サシメテ執行ヲ免カサルコトヲ許ス可キトキハ差押ヘタル金錢債權ニ付テハ取立ノ命令ノミヲ爲ス可シ但此命令ニハ第三債務者ヲシテ債權額ヲ供託セシムル効力ノミヲ有ス
 第六百八條 債權者取立ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ執行裁判所ニ届出ツ可シ
 第六百九條 差押債權者ハ第三債務者ヲシテ差押命令ノ送達ヨリ七日ノ期間内ニ書面ヲ以テ左ノ陳述ヲ爲サシメシムルコトヲ裁判所ニ申立ツルコトヲ得
 第一 債權ノ認諾ノ有無及ヒ其限度並ニ支拂ヲ爲ス意思ノ有無及ヒ其限度
 第二 債權ニ付キ他ノ者ヨリ請求ノ有無及ヒ其種類
 第三 債權カ既ニ他ノ債權者ヨリ差押ヘラレタルコトノ有無及ヒ其請求ノ種類
 右ノ陳述ヲ求ムル催告ハ之ヲ送達證書ニ記載ス可シ第三債務者陳述ヲ怠リタルト

キハ此ニ因リテ生スル損害ニ付キ其責ニ任ス

第六百十條 債權者カ命令ノ旨趣ニ基キ第三債務者ニ對シ訴ヲ起スニ至リタルトキハ一般ノ規定ニ從ヒテ管轄ヲ有スル裁判所ニ其訴ヲ起シ且債務者内國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其訴訟ヲ之ニ告知ス可シ

第六百十一條 債權者カ取立ヲ爲ス可キ債權ノ行用ヲ怠リタルトキハ此カ爲メ債務者ニ生シタル損害ノ責ニ任ス

第六百十二條 債權者ハ命令ニ因リ取立ノ爲メ取得シタル權利ヲ拋棄スルコトヲ得但此カ爲メ其請求ヲ害セラルルコト無シ

此拋棄ハ裁判所ニ届書ヲ差出シテ之ヲ爲ス但先勝本ハ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達ス可シ

第六百十三條 差押ヘタル債權カ條件附若クハ有期ナルトキ又ハ反對給付ニ繫リ若クハ他ノ理由アリテ其取立ノ困難ナルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ取立ニ換ヘ他ノ換價方法ヲ命スルコトヲ得

債務者内國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其申立ヲ許ス決定前ニ之ヲ審訊ス可シ

第六百十四條 有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ對スル強制執行ハ以下數條ノ規定ヲ斟酌シテ第五百九十八條乃至第六百十二條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第六百十五條 有體動産ノ請求ノ差押ニ付テハ其動産ヲ債權者ノ委任シタル執達吏ニ引渡ス可キコトヲ命ス可シ

若動産ノ換價ニ付テハ差押物ノ換價ニ關スル規定ヲ適用ス

第六百十六條 不動産ノ請求ノ差押ニ付テハ債權者ノ申立ニ因リ其不動産ヲ不動産所在地ノ區裁判所ヨリ命シタル保管人ニ引渡ス可キコトヲ命ス可シ

引渡シタル不動産ニ付テノ強制執行ハ不動産ニ對スル強制執行ニ付テノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第六百十七條 有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ付テハ支拂ニ換ヘ轉付スル命令ヲ爲スコトヲ得ス

第六百十八條 左ニ掲グル債權ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

- 第一 法律上ノ養料
- 第二 債務者カ義捐建設所ヨリ又ハ第三者ノ慈惠ニ因リ受クル繼續ノ收入但債務者及ヒ其家族ノ生活ノ爲メ必要ナルモノニ限ル
- 第三 下士、兵卒ノ給料並ニ恩給及ヒ其遺族ノ扶助料
- 第四 出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦ノ乗組員ニ屬スル軍人、軍屬ノ職務上ノ收入
- 第五 文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師ノ職務上ノ收入、恩給及ヒ其遺族ノ扶助料

第六 職工、勞役者又ハ雇人カ其勞力又ハ役務ノ爲ニ受クル報酬

第一號、第五號、第六號ノ場合ニ於テ職務上ノ收入、恩給其他ノ收入カ一年間ニ三百圓ヲ超過スルトキハ其超過額ノ半額ヲ差押フルコトヲ得

第六百十九條 數名ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ債權ノ差押ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第六百二十條 執行力アル正本ヲ有スル債權者及ヒ民法ニ從ヒ配當ノ要求ヲ爲シ得ヘキ債權者ハ差押債權者カ取立ヲ爲シ其旨ヲ執行裁判所ニ届出ツルマテ又ハ執達吏カ賣得金ヲ領收スルマテ配當ヲ要求スルコトヲ得但執行力アル正本ニ因ラス

シテ配當ヲ要求スル債權者ニ付テハ第五百九十條及ヒ第五百九十一條第三項第三
項ノ規定ヲ適用ス

支拂ニ換ヘテノ轉付ノ命令アリタル後ハ配當ノ要求ヲ爲スコトヲ得ス
右配當要求ハ職權ヲ以テ之ヲ第三債務者、債務者及ヒ差押債權者ニ送達シ又既ニ
爲シタル差押カ取消ト爲リタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル債權者ノ
爲メ要求ノ順序ニ因リ差押ノ効力ヲ生ス

第六百二十一條 金錢ノ債權ニ付キ配當要求ノ送達ヲ受ケタル第三債務者ハ債務額
ヲ供託スル權利アリ

第三債務者ハ配當ニ與カル或ル債權者ノ求ニ因リ債務額ヲ供託スル義務アリ
第三債務者債務額ヲ供託シタルトキハ其事情ヲ裁判所ニ届出ツ可シ

第六百二十二條 請求カ不動産ニ關スルトキハ第三債務者ハ其不動産所在地ノ區裁
判所カ差押債權者又ハ第三債務者ノ申立ニ因リ命シタル保管人ニ事情ヲ開示シ且
送達セラレタル命令ヲ添ヘ其不動産ヲ引渡ス權利ヲ有シ又ハ差押債權者ノ求ニ因
リ之ヲ引渡ス義務アリ

第六百二十三條 第三債務者カ取立手續ニ對シテ義務ヲ履行セサルトキハ差押債權
者ハ訴テ以テ之ヲ履行セシムルコトヲ得

執行力アル正本ヲ有スル各債權者ハ共同訴訟人トシテ原告ニ加ハル權利アリ
訴ヲ受ケタル第三債務者ハ原告ニ加ハラサル債權者ヲ共同訴訟人トシテ呼出アラ
ンコトヲ口頭辯論ノ第一期日マテニ申立ツルコトヲ得

右ノ場合ニ於ケル裁判ハ呼出テ受ケタル債權者ニ利害ヲ及ホス効力アリ
第六百二十四條 差押債權者取立手續ヲ怠リタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求

シタル各債權者ハ一定ノ期間内ニ取立ヲ爲スコトヲ催告シ其催告ノ効アラザ
ルトキハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ自ラ取立ヲ爲スコトヲ得

第六百二十五條 不動産ヲ目的トセス又前數條ニ掲ケタル以外ノ財産權ニ對スル強
制執行ニ付テハ本款ノ規定ヲ準用ス

若シ第三債務者ナキトキハ差押ハ債務者ニ權利ノ處分ヲ禁スル命令ヲ送達シタル
日時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス
右ノ場合ニ於テハ裁判所ハ特別ノ處分殊ニ其權利ノ管理若クハ讓渡ヲ命スルコト
ヲ得

第四款 配當手續

第六百二十六條 配當手續ハ動産ニ對スル強制執行ニ際シ競賣期日又ハ金錢差押ノ
日ヨリ十四日ノ期間内ニ債權者間ノ協議調ハサル爲メ金額ヲ供託シタルトキ之ヲ
爲ス

第六百二十七條 裁判所ハ事情届書ニ基キ七日ノ期間内ニ元金、利息、費用其他附帶
ノ債權ノ計算書ヲ差出スコキ旨ヲ各債權者ニ催告ス可シ

第六百二十八條 前條ノ期間滿了後裁判所ハ配當表ヲ作ル可シ
右期間ヲ遵守セザル債權者ノ債權ハ配當表ヲ作ルニ際シ配當要求並ニ届書ノ旨趣
及ヒ其憑據書類ニ依リ之ヲ計算ス但後ニ債權額ヲ補充スルコトヲ許サス

第六百二十九條 裁判所ハ配當表ニ關スル陳述及ヒ配當實施ノ爲メ期日ヲ指定シ其
期日ニハ各債權者及ヒ債務者ヲ呼出スコシ但債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ
外國ニ在ルトキハ呼出ヲ爲スコトヲ要セス

配當表ハ各債權者及ヒ債務者ニ閱覽セシムル爲メ遅クトモ期日ノ三日前ニ裁判所

書記課ニ之ヲ備置ケ可シ

第六百三十條 期日ニ於テ異議ノ申立ナキトキハ配當表ニ從ヒテ其配當ヲ實施ス可シ

停止條件附ノ債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託シ民法ニ從ヒテ條件ノ成否ニ依リ後ニ之ヲ支拂ヒ又ハ更ニ配當ス可シ

第五百九十一條第三項ノ場合又ハ假差押ノ場合ニ於テ未タ確定セサル債權其他異議アル債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可シ

配當實施ニ付テハ調書ヲ作ル可シ

第六百三十一條 異議ノ申立アルトキハ他ノ債權者ハ直チニ陳述ヲ爲ス可シ若シ關係人異議ヲ正當ナリト認ムルトキ又ハ他ノ方法ニ於テ合意スルトキハ之ニ從ヒ配當表ヲ更正シ配當ヲ實施ス可シ

異議ノ完結セサルトキハ異議ナキ部分ニ限り配當ヲ實施ス可シ

第六百三十二條 期日ニ出頭セサル債權者ハ配當表ノ實施ニ同意シタルモノト看做ス

若シ期日ニ出頭セサル債權者カ他ノ債權者ヨリ申立テタル異議ニ關係ヲ有スルトキハ其債權者ハ異議ヲ正當ナリト認メサルモノト看做ス

第六百三十三條 期日ニ於テ異議ノ完結セサルトキハ異議ヲ申立テタル債權者ハ他ノ債權者ニ對シ訴ヲ起シタルコトヲ期日ヨリ七日ノ期間内ニ裁判所ニ證明ス可シ

若シ其期間ヲ徒過シタル後ハ裁判所ハ異議ニ拘ハラズ配當ノ實施ヲ命ス可シ

第六百三十四條 異議ヲ申立テタル債權者前條ノ期間ヲ怠リタルトキト雖モ配當表ニ從ヒテ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シ訴ヲ以テ優先權ヲ主張スル權利ハ配當實施

ノ爲メ妨ケラルルコト無シ

第六百三十五條 異議ヲ申立テタル債權者ノ訴ニ付テハ配當裁判所之ヲ管轄ス然レトモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ其配當裁判所ノ所在地ヲ管轄スル

地方裁判所之ヲ管轄ス若シ數箇ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ一ノ訴ヲ地方裁判所カ管轄スルトキハ其他ノ訴ヲモ亦之ヲ管轄ス但各債權者總テノ異議ニ付キ配當

裁判所ノ裁判ヲ受ク可キコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百三十六條 異議ニ付キ裁判ヲ爲ス判決ニハ配當額ノ係争部分ヲ如何ナル債權者ニ如何ナル數額ヲ以テ支拂フ可キヤヲ定ム可シ若シ之ヲ定ムルコトヲ適當トセ

サルトキハ判決ニ於テ新ナル配當表ノ調製及ヒ他ノ配當手續ヲ命ス可シ

第六百三十七條 異議ヲ申立テタル債權者カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セサルトキハ異議ヲ取下ケタルモノト看做ス旨ノ闕席判決ヲ爲ス可シ

第六百三十八條 前二條ノ判決確定ノ證明アルトキハ配當裁判所ハ其判決ニ基キ支拂又ハ他ノ配當手續ヲ命ス

第六百三十九條 裁判所ハ配當表ニ依リテ左ノ手續ヲ爲シ配當ヲ實施ス可シ

債權全部ノ配當ヲ受ク可キ債權者ニハ配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ其所持スル執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス可シ

債權一分ノミノ配當ヲ受ク可キ債權者ニハ執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ニ配當額ヲ記入シテ返還シ且配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ右債權者ヨリ金額ヲ登記シタル受取書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス可シ

期日ニ出頭セサル債權者ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可シ

右ノ手續ヲ爲シタルトキハ調書ニ記載シテ之ヲ明確ニス可シ

第二節 不動産ニ對スル強制執行

第一款 通則

第六百四十條 不動産ニ對スル強制執行ハ左ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス

第一 強制競賣

第二 強制管理

債權者ハ自己ノ選擇ニ依リ一箇ノ方法ヲ以テ又ハ二箇ノ方法ヲ併セテ執行セシムルコトヲ得

強制管理ハ假差押ノ執行ノ爲ニモ亦之ヲ爲ス

第六百四十一條 不動産ニ對スル強制執行ニ付テハ其不動産所在地ノ區裁判所執行裁判所トシテ之ヲ管轄ス若シ其不動産數箇ノ區裁判所ノ管轄區内ニ散在スルトキハ第二十六條ノ規定ヲ適用ス

強制執行ハ申立ニ因リテ裁判所之ヲ爲ス

第二款 強制競賣

第六百四十二條 強制競賣ノ申立ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 債權者、債務者及ビ裁判所ノ表示

第二 不動産ノ表示

第三 競賣ノ原因タル一定ノ債權及ビ其執行シ得ヘキ一定ノ債務名義

第六百四十三條 申立ニハ執行力アル正本ノ外左ノ證書ヲ添附ス可シ

第一 登記簿ニ債務者ノ所有トシテ登記シタル不動産ニ付テハ登記判事ノ認證書

第二 登記簿ニ登記アラサル不動産ニ付テハ債務者ノ所有タルコトヲ證ス可キ

證書

第三 地所ニ付テハ國郡市町村、字、番地、地目、反別若クハ坪數、土地臺帳ニ登錄シタル地價及ヒ其地所ニ付キ納ム可キ一年ノ租稅其他ノ公課ヲ證ス可キ證書

第四 建物ニ付テハ國郡市町村、字、番地、構造ノ種類、建坪及ヒ其建物ニ付キ納ム可キ一年ノ公課ヲ證ス可キ證書

第五 地所、建物ニ付キ賃貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃ヲ證ス可キ證書

第二號、第三號及ヒ第四號ノ要件ニ付テハ債權者公簿ヲ主管スル官廳ニ其證明書ヲ求ムルコトヲ得

第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ證明スル能ハサルトキハ債權者ハ競賣申立ノ際其取調ヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得但此場合ニ於テハ裁判所ハ執達吏ヲシテ其取調ヲ爲サシム可シ

強制管理ノ爲メ既ニ不動産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ其執行記録ニ第一號乃至第五號ノ要件ヲ記載シタルモノ有ルトキハ其證書ヲ添附スルコトヲ要セス

第六百四十四條 競賣手續ノ開始決定ニハ同時ニ債權者ノ爲メ不動産ヲ差押フルコトヲ宣言ス可シ

差押ハ債務者カ不動産ノ利用及ヒ管理ヲ爲スコトヲ妨ケス

差押ハ其決定ヲ債務者ニ送達スルニ因リ其効力ヲ生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第六百四十五條 裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ強制競賣ノ

申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス
右申立ハ執行記録ニ添附スルニ因リ配當要求ノ効力ヲ生シ又既ニ開始シタル競賣
手續取消ト爲リタルトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限リハ開始決
定ヲ受ケタル効力ヲ生ス

假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第六百四十六條 配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲ
モ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

右要求ハ競落期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百四十七條 執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ利害關係人ニ
通知ス可シ

執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債權者ハ右通知ア
リタルヨリ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ裁判所ニ申出ツ可シ

債權者カ認諾セサルコトヲ裁判所ヨリ通知アリタルトキハ債權者ハ其通知アリタ
ルヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定ス可シ

第六百四十八條 左ニ掲グル者ヲ競賣手續ニ於テノ利害關係人ト爲ス

第一 差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者

第二 債務者

第三 登記簿ニ記入アル不動産上權利者

第四 不動産上權利者トシテ其債權ヲ證明シ執行記録ニ備フ可キ届出ヲ爲シタ
ル者

第六百四十九條 差押債權者ノ債權ニ先タツ債權ニ關スル不動産ノ負擔ヲ競落人ニ

引受ケシムルカ又ハ賣却代金ヲ以テ其負擔ヲ辨濟スルニ足ル見込アルトキニ非サ
レハ賣却ヲ爲スコトヲ得ス

不動産ハ賣却ニ因リ登記簿ニ記入ヲ要スル總テノ不動産上ノ負擔ヲ免カルモノ
トス但競落人其負擔ヲ受引ケタルトキハ此限ニ在ラス

登記簿ニ記入ヲ要セサル不動産ノ負擔ハ競落人之ヲ引受クルモノトス

第六百五十條 權利ヲ取得スル第三者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコ
トヲ知リタルトキハ差押ノ効力ニ對シ其善意ナリシコトヲ主張スルコトヲ得ス

若シ不動産カ差押ノ原因タル債權ノ爲メ義務ヲ負擔スルトキハ差押後所有ノ移轉

シタル場合ニ限リ新所有者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知ラサ
ルトキト雖モ競賣手續ヲ續行ス可シ

競賣申立ノ取下ニ因リテ差押ハ消滅ス

第六百五十一條 裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲ス際職權ヲ以テ競賣ノ申立アリ
タルコトヲ登記簿ニ記入ス可キ旨ヲ登記判事ニ囑託ス可シ

第六百五十二條 登記判事ハ前條ニ掲ケタル記入ヲ爲シタル後登記簿ノ謄本ヲ裁判

所ニ送付シ不動産上權利者ヨリ差出シタル證書アルトキハ其抄本ヲ送付ス可シ

第六百五十三條 豫メ知ルニ於テハ手續ノ開始ヲ妨ク可キ事實カ登記判事ノ通知ニ

依リ顯ハルルトキハ裁判所ハ其事情ニ因リ直チニ手續ヲ取消シ又ハ裁判所ノ意見

ヲ以テ定ムル期間内ニ其障礙ノ消滅シタルコトヲ證明スヘキコトヲ債權者ニ命ス

可シ其期間内ニ此證明ヲ爲ササルトキハ期間ノ滿了後職權ヲ以テ手續ヲ取消ス可

シ

民事訴訟法

第六百五十四條 裁判所ハ競賣開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ租税其他ノ公課ヲ主管スル官廳ニ通知シ其不動産ニ對スル債權ノ有無及ヒ限度ヲ申出ツ可キコトヲ期間ヲ定メテ催告ス可シ

第六百五十五條 裁判所ハ登記判事及ヒ租税其他ノ公課ヲ主管スル官廳ヨリ通知ヲ受ケタル後鑑定人ヲシテ不動産ノ評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低競賣價額ト爲ス

第六百五十六條 裁判所ハ最低競賣價額ヲ以テ差押債權者ノ債權ニ先タツ不動産上ノ總テノ負擔及ヒ手續ノ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル見込ナシトスルトキハ差押債權者ニ其旨ヲ通知ス可シ

右通知ヨリ七日ノ期間内ニ差押債權者カ前項ノ負擔及ヒ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル可キ價額ヲ定メ且其價額ニ應スル競買人ナキ場合ニ於テハ自ラ其價額ヲ以テ買受ク可キ旨ヲ申立テ十分ナル保證ヲ立テサルトキハ競賣手續ヲ取消ス可シ

第六百五十七條 裁判所ハ前條第一項ノ債權及ヒ費用ヲ辨濟シ剩餘ヲ得ル見込アルトキ又ハ差押債權者前條第二項ノ申立ヲ爲シ十分ナル保證ヲ立テタルトキハ職權ヲ以テ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告ス

第六百五十八條 競賣期日ノ公告ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 第一 不動産ノ表示
- 第二 租税其他ノ公課
- 第三 質貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃
- 第四 強制執行ニ因リ競賣ヲ爲ス旨
- 第五 競賣期日ノ場所、日時及ヒ競賣ヲ爲ス可キ執達吏ノ氏名並ニ住所

第六 最低競賣價額

第七 競落期日ノ場所及ヒ日時

第八 執行記録ヲ閱覽シ得ヘキ場所

第九 登記簿ニ記入ヲ要セサル不動産上權利ヲ有スル者其債權ヲ申出ツ可キ旨

第十 利害關係人競賣期日ニ出頭ス可キ旨

第六百五十九條 競賣期日ハ公告ノ日ヨリ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

此期日ハ裁判所ノ意見ヲ以テ裁判所内又ハ其他ノ場所ニ於テ執達吏ヲシテ之ヲ開カシム

第六百六十條 競賣期日ハ競賣期日ヨリ七日ヲ過グルコトヲ得ス

此期日ハ裁判所ニ於テ之ヲ開ク

第六百六十一條 競賣期日ノ公告ハ左ノ箇所ニ揭示シテ之ヲ爲ス

- 第一 裁判所ノ揭示板
- 第二 不動産所在地ノ市町村ノ揭示板

此他公告ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ掲載スルコトヲ得

第六百六十二條 最低競賣價額ヲ除ク外本款ニ掲ケタル賣却條件ノ變更ハ利害關係人ノ合意アルトキニ限り之ヲ許ス但此合意ハ競賣期日ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百六十三條 競賣期日ヲ開キタル後執達吏ハ執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供シ又特別ノ賣却條件アルトキハ之ヲ告知シ且競買價額申出ヲ催告ス可シ

第六百六十四條 利害關係人カ或ル競買人ヨリ保證ヲ立テシメントキ申立ツルトキハ其競買人カ保證トシテ競買價額十分ノ一二當ル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以

テ直チニ執達吏ニ預クルルキニ非サレハ其競買ヲ許サス
 右申立ハ競買價額ノ申出アリタル後直チニ之ヲ述フルコトヲ要ス其申立ハ同一ナル競買人ノ其後ノ競買ニ付テモ亦効力アリ
 第六百六十五條 競買ヲ許サレタル各競買人ハ更ニ高價ノ競買ノ許アルマテ其申出テタル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス
 競買ハ競買價額ヲ申出ツ可キ催告後滿一時間ヲ過クルニ非サレハ之ヲ終局スルコトヲ得ス
 第六百六十六條 執達吏ハ最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタル後競買ノ終局ヲ告知ス可シ
 他ノ各競買人ハ右ノ告知ニ因リ其競買ノ責務ヲ免カレ且預ケタル保證アルトキハ即時ニ其返還ヲ求ムル權利アリ
 第六百六十七條 競買ニ付キ作ル可キ調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス
 第一 不動産ノ表示
 第二 差押債權者ノ表示
 第三 執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供シタルコト又特別賣却條件アルトキハ之ヲ告知シタルコト
 第四 競買價額ヲ申出テ催告シタル日時
 第五 總テノ競買價額並ニ其申出入ノ氏名、住所又ハ許ス可キ競買ノ申出ナキコト
 第六 競買ノ終局ヲ告知シタル日時
 第七 申立ニ因リ競買ノ爲メ保證ヲ立テタルコト又ハ申立アルモ保證ヲ立テサ

ル爲メ其競買ヲ許ササルコト

第八 最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタルコト
 最高價競買人及ヒ出頭シタル利害關係人ハ調書ニ署名捺印ス可シ若シ此等ノ者調書ノ作成前ニ退席シタルトキハ其旨ヲ附記ス可シ
 競買ノ保證ノ爲メ預リタル金錢又ハ有價證券ヲ返還シタルトキハ執達吏ハ受取證ヲ取り之ヲ調書ニ添附ス可シ
 第六百六十八條 執達吏ハ調書及ヒ總テ競買ノ保證ノ爲メ預リタル金錢又ハ有價證券ニテ返還セサルモノハ三日内ニ裁判所書記ニ之ヲ渡ス可シ
 第六百六十九條 最高價競買人執行裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ若シ之ヲ怠リタルトキハ第四百四十三條第三項ノ規定ヲ準用ス
 住所ノ選定ハ執達吏ニ口述シ其調書ヲ作ラシメテ之ヲ爲スコトヲ得
 第六百七十條 競買期日ニ於テ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキハ第四百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限りハ裁判所ハ其意見ヲ以テ最低競買價額ヲ相當ニ低減シ新競買期日ヲ定ム可シ若シ其期日ニ於テ仍ホ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキモ亦同シ
 新競買期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ
 第六百七十一條 裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル利害關係人ニ競落ノ許可ニ付キ陳述ヲ爲サシム可シ
 競落ノ許可ニ付テノ異議ハ期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ申立ツ可シ既ニ申立テタル異議ニ對スル陳述ニ付テモ亦同シ

第六百七十二條 競落ノ許可ニ付テノ異議ハ左ノ理由ニ基クコトヲ要ス

- 第一 強制執行ヲ許ス可カラサルコト又ハ執行ヲ續行ス可カラサルコト
- 第二 最高價競買人賣買契約ヲ取結ビ若クハ其不動産ヲ取得スル能力ナキコト
- 第三 法律上ノ賣却條件ニ牴觸シテ競買ヲ爲シタルコト又ハ總テノ利害關係人ノ合意ヲ得スシテ法律上ノ賣却條件ヲ變更シタルコト
- 第四 競賣期日ノ公告ニ第六百五十八條ニ掲ケタル要件ノ記載ナキコト
- 第五 競賣期日ノ公告ハ法律上規定シタル方法ニ依リテ之ヲ爲ササルコト
- 第六 第六百五十九條ニ規定シタル期間ヲ存セサリシコト
- 第七 第六百六十五條第二項及ヒ第六百六十六條第一項ノ規定ニ違背シタルコト

第八 第六百六十四條ノ規定ニ違背シ最高價競買人ナリト呼上ケタルコト

第六百七十三條 異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基テハ之ヲ許サス

第六百七十四條 裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當トスルトキハ競落ヲ許サス

第六百七十二條第一號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ一アルトキハ職權ヲ以テモ競落ヲ許サス但第一號ノ場合ニ於テハ競賣シタル不動産ヲ讓渡スコトヲ得サルモノナルトキ又ハ競賣手續ノ停止ヲ爲シタルトキニ限り第二號ノ場合ニ於テハ能力若クハ資格ノ欠缺ヲ除去セラレサルトキニ限り第三號ノ場合ニ於テハ利害關係人手續ノ續行ニ付キ承認セサルトキニ限ル

第六百七十五條 數箇ノ不動産ヲ競賣ニ付シタル場合ニ於テ或ル不動産ノ賣得金ヲ以テ各債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ル可キトキハ他ノ不動産ニ付テハ競落ヲ許サス

此場合ニ於テ債務者ハ不動産中賣却ス可キモノヲ指定スルコトヲ得

第六百七十六條 第六百七十二條及ヒ第六百七十四條ノ規定ニ從ヒ至ク競落ヲ許サ

サル場合ニ於テ更ニ競賣ヲ許ス可キトキハ職權ヲ以テ新競賣期日ヲ定ム可シ

新競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

第六百七十七條 前條ノ規定ニ從ヒテ新競賣期日ヲ定ムル場合ノ外競落ヲ許シ又ハ

許ササル決定ノ言渡ヲ爲ス可シ

競落期日ノ調書ニ付テハ第二百二十九條乃至第三百二十二條及ヒ第三百三十四條ノ規定

ヲ準用ス

第六百七十八條 競賣期日ト競落期日トノ間ニ天災其他ノ事變ニ因リ不動産カ著シ

ク毀損シタルトキハ最高價競買人タル呼上ヲ受ケタル者ハ其競買ヲ取消ス權利アリ其毀損ノ著シキヤ否ヤハ裁判所事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第六百七十九條 競落ヲ許ス決定ニハ競賣ヲ爲シタル不動産、競落人及ヒ競落ヲ許

シタル競買價額ヲ掲ケ又特別ノ賣却條件ヲ以テ競落ヲ爲シタルトキハ其條件ヲモ

掲グ可シ

右決定ハ之ヲ言渡ス外尙ホ裁判所ノ揭示板ニ揭示シテ公告ス可シ

第六百八十條 利害關係人ハ競落ノ許否ニ付テノ決定ニ因リ損失ヲ被ムル可キ場

合ニ於テハ其決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

競落ヲ許ス可キ理由ナキコト又ハ決定ニ掲ケタル以外ノ條件ヲ以テ許ス可キコト

ヲ主張スル競落人又ハ競落ヲ求メ之ヲ許ス可キコトヲ主張スル競買人モ亦即時抗

告ヲ爲スコトヲ得

右抗告ハ執行停止ノ効力ヲ有ス

第二項ノ場合ニ於テ競落ヲ求メタル競買人ハ其申出テタル價額ニ付キ拘束ヲ受ク
ルモノトス

第六百八十一條 競落ヲ許ササル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲クル總テノ不許ノ
原因ナキコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

競落ヲ許シタル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲クル競落ノ許可ニ對スル異議ノ原
因ノ一ヲ理由トスルトキ又ハ競落決定力競落期日ノ調書ノ旨趣ニ牴觸シタルコト
ヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得
取消ノ訴若クハ原狀回復ノ訴ノ要件ヲ理由トスル抗告ハ前二項ノ規定ニ依リ妨ケ
ラルルコト無シ

第六百八十二條 抗告裁判所ハ必要ナル場合ニ於テハ反對陳述ヲ爲サシムル爲メ抗
告人ノ相手方ヲ定ム可シ

一ノ決定ニ關スル數箇ノ抗告ハ互ニ之ヲ併合ス可シ

第六百七十三條及ヒ第六百七十四條ノ規定ハ抗告審ニモ亦之ヲ準用ス

第六百八十三條 執行裁判所ノ決定ヲ變更シ又ハ廢棄シタル抗告裁判所ノ裁判ハ執
行裁判所之ヲ裁判所ノ揭示板ニ揭示シテ公告ス可シ

第六百八十四條 競落ヲ許ササル決定確定シタルトキハ競落人及ヒ競落ヲ求メタル
競買人ハ其競買ノ責務ヲ免カス

第六百八十五條 第六百七十八條ノ場合ニ於テ競買取消ノ爲メ競落ヲ許ササルトキ
ハ第六百五十五條乃至第六百五十七條ノ規定ヲ準用ス

第六百八十六條 競落人ハ競落ヲ許ス決定ニ因リテ不動産ノ所有權ヲ取得スルモノ
トス

第六百八十七條 競落人ハ代金ノ全額ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ不動産ノ引渡ヲ求
ムルコトヲ得ス

競落人若クハ債權者競落ヲ許ス決定アリタル後引渡アルマテ管理人ヲシテ不動産
ヲ管理セシメントコトヲ申立テタルトキハ裁判所ハ之ヲ命ス可シ

債務者カ引渡ヲ拒ミタルトキハ競落人若クハ債權者ノ申立ニ因リ裁判所ハ執達吏
ヲシテ債務者ノ占有ヲ解キ其不動産ヲ管理人ニ引渡サシム可シ

第六百八十八條 競落人カ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行セサルトキハ裁判所
ハ職權ヲ以テ不動産ノ再競賣ヲ命ス可シ

最初ノ競賣ノ爲ニ定メタル最低競賣價額其他賣却條件ハ再競賣ノ手續ニモ亦之ヲ
適用ス

再競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

競落人カ再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ
再競賣手續ヲ取消ス可シ

再競賣ヲ爲ストキハ前ノ競落人ハ競買ニ加ハルコトヲ許サス且再度ノ競落代價カ
最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ノ額及ヒ手續ノ費用ヲ負擔シ其高キトキハ剩
餘ノ額ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百八十九條 共有物持分ノ強制競賣ニ付テハ債權者ノ債權ノ爲メ債務者ノ持分
ニ付キ強制競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス但他ノ共有者ニハ其強制競
賣ノ申立ヲ通知ス可シ

最低競賣價額ハ共有物全部ノ評價額ニ基キ債務者ノ持分ニ付キ之ヲ定ム可シ
第六百九十條 競賣申立カ競落ヲ許スコト無クシテ完結シタルトキハ裁判所ハ第

六百五十一條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル差押記入ノ抹消ヲ登記判事ニ囑託ス可シ
第六百九十一條 競落ヲ許ス決定確定スルトキハ賣却代金カ配當ニ與カル各債權者
ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ於テハ民法、商法及ヒ特別法ニ從ヒテ之ヲ配當
ス可シ

第六百九十二條 各債權者ハ競落期日マテニ其債權ノ元金、利息、費用其他附帶ノ債
權ノ計算書ヲ差出ス可シ

前項ノ規定ニ從ハサル債權者ニ付テハ第六百二十八條第二項ノ規定ヲ準用ス
第六百九十三條 代金ノ支拂及ヒ配當ハ競落ヲ許ス決定ノ確定後ニ裁判所カ職權ヲ
以テ定ムル期日ニ於テ之ヲ爲ス

此期日ニハ利害關係人、執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者及ヒ
競落人ヲ呼出ス可シ

第六百九十四條 期日ニ於テハ先ツ配當ス可キ不動産ノ賣却代金ノ幾許ナルヤヲ定
ム可シ
左ノモノヲ賣却代金トス
第一 代金
第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ

代金支拂ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ
最高競買價額ノ保證ノ爲メ預リタル金額ハ代金ニ之ヲ算入ス
第六百九十五條 裁判所ハ出頭シタル利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ
配當ヲ要求スル債權者ヲ訊問シテ配當表ヲ確定ス可シ

第六百九十六條 配當表ニハ賣却代金、各債權者ノ債權ノ元金、利息、費用及ヒ配當
ノ順位並ニ配當ノ割合ヲ記載ス可シ
若シ出頭シタル總テノ利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求ス
ル債權者一致シタルトキハ其一致ニ基キ配當表ヲ作ル可シ
第六百九十七條 配當表ニ對スル異議ノ完結及ヒ配當表ノ實施ニ付テハ第六百三十
條以下ノ規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルモノハ此限ニ在ラ
ス

第六百九十八條 期日ニ出頭シタル債務者ハ各債權者ノ債權ニ對シ又ハ其債權ノ爲
メ主張スル順位ニ對シ異議ヲ申立ツル權利アリ
出頭シタル各債權者ハ自己ノ利害ニ關シテハ他ノ債權者ニ對シ前項ト同一ノ權利
アリ
執行スルヲ得ヘキ債權ニ對スル債務者ノ異議ハ第五百四十五條、第五百四十七條
及ヒ第五百四十八條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ完結ス
第六百九十九條 競落人ハ賣却條件ニ因リ不動産ノ負擔ヲ引受クル外配當表ノ實施
ニ際シ買入代金ノ額ニ滿ツルヲ限トシ關係債權者ノ承諾ヲ得テ買入代金ノ支拂ニ
換ヘ債務ヲ引受クルコトヲ得若シ債權者競落人ナルトキハ其債權ノ配當額カ買入
代金ノ額ニ滿ツル限りハ買入代金トシテ之ヲ計算スルニ因リテ消滅ス然レトモ引
受ク可キ債務又ハ計算ス可キ競落人ノ債權ニ對シ適當ナル異議アルトキハ之ニ相
當スル代金ヲ支拂ヒ又ハ保證ヲ立ツ可シ

第七百條 配當表ヲ實施シタル後裁判所ハ配當調書及ヒ競落決定ノ正本ヲ登記判
事ニ送付シテ左ノ諸件ヲ囑託ス可シ

第一 競落人ノ所有權ノ登記

第二 競落人ノ引受ケサル不動産上負擔記入ノ抹消

第三 第六百五十一條ノ規定ニ從ヒ爲シタル記入ノ抹消
右登記及ヒ抹消ニ關スル總テノ費用ハ競落人之チ負擔ス可シ

第七百一條 數多ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ不動産ノ競賣手續ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第七百二條 裁判所ハ競賣期日ノ公告前利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ競賣ニ換ヘテ入札拂テ命スルコトヲ得但入札拂ニ付テハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ナキモノハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第七百三條 入札ハ入札期日ニ於テ執達吏ニ之ヲ差出ス可シ

入札ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 入札人ノ氏名及ヒ住所

第二 不動産ノ表示

第三 入札價額

第七百四條 執達吏ハ入札人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封シ之ヲ朗讀ス可シ

二人以上同價額ノ入札アルトキハ執達吏ハ其者ヲシテ追加ノ入札ヲ爲サシメ最高價入札人ヲ定ム

一定ノ金額ヲ以テ入札價額ヲ表セスシテ他ノ入札價額ニ對スル比例ヲ以テ價額ヲ表シタル入札ハ之ヲ許サス

第七百五條 最高價入札人タル呼上ヲ受ケタル者第六百六十四條ノ規定ニ從ヒ保證ヲ立ツ可キ求テ受ケルモノ之ヲ立テサルトキハ其次位ノ入札人ヲ以テ最高價入札人

ト定ム但此場合ニ於テハ最初呼上ヲ受ケタル者ハ其入札價額ト次位ノ入札價額トノ差金ヲ負擔スル義務アリ

第三款 強制管理

第七百六條 強制管理ニ付テハ第六百四十二條、第六百四十三條、第六百四十四條第一項第三項及ヒ第六百五十一條乃至第六百五十四條ノ規定ヲ準用ス

不動産カ債權者ノ債權ニ付キ不動産上ノ義務ヲ負フタル場合ニ於テハ第六百四十三條第一號第二號ニ依リ提出ス可キ證書ハ不動産ヲ債務者カ占有スルコトヲ疏明スル證書ヲ以テ足ル

第七百七條 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ニ於テ債務者カ管理人ノ事務ニ干涉スルコト及ヒ不動産ノ收益ニ付キ處分スルコトヲ禁シ又不動産ノ收益ノ給付ヲ爲ス可キ第三者アルトキハ其第三者ニ其後ノ給付ヲ管理人ニ爲ス可キコトヲ命ス可シ既ニ收穫シ若クハ收穫ス可ク又ハ期限ノ到來シ若クハ到來ス可キ果實ハ收益ニ屬ス

開始決定ハ第三者ニ對シテハ之ヲ送達スルニ因リ其効力ヲ生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第七百八條 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ強制管理ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス

右申立ハ執行記録ニ添附スルニ依リ配當要求ノ効力ヲ生シ又既ニ開始シタル強制管理ノ取消ト爲リタルトキハ開始決定ヲ受ケタル効力ヲ生ス

假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

民事訴訟法

ナモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲ス可シ
第七百十條 執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ債權者、債務者及ヒ管理人ニ通知ス可シ

第七百十一條 管理人ハ裁判所之ヲ任命ス但債權者ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得
管理人ハ管理及ヒ收益ヲ爲メ自ラ不動産ヲ占有スル權ヲ有ス此場合ニ於テ抵抗ヲ受クルトキハ執達吏ヲ立會ハシムルコトヲ得
管理人ノ任命ハ債務者ニ代リ第三者ノ給付ス可キ收益ヲ取立ツル權ヲ授與スルモノトス

第七百十二條 裁判所ハ債權者及ヒ債務者ヲ審訊シタル後又適當トスル場合ニ於テハ鑑定人ヲ立會ハシメタル上管理人ニ管理ニ關シ必要ナル指揮ヲ爲シ又管理人ニ與フ可キ報酬ヲ定メ且管理人ノ業務施行ヲ監督ス可シ
裁判所ハ管理人ニ保證ヲ立テシメ又ハ貳拾圓以下ノ過料ヲ言渡シ又ハ其職ヲ免スルコトヲ得

第七百十三條 第三者不動産ニ付キ強制管理ヲ許スコトヲ妨グル權利ヲ主張スルトキハ第五百四十九條ノ規定ヲ準用ス
第七百十四條 管理人ハ直チニ不動産ニ付キ得タル收益ヨリ其不動産ノ負擔ニ係ル租稅其他ノ公課ヲ扣除シタル後別段ノ手續ヲ要セスシテ管理ノ費用ヲ辨濟シ其殘額ノ配當ニ付キ債權者間ニ協議調ハサルトキハ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ
前項ノ届出アリタルトキハ裁判所ハ第六百九十一條、第六百九十六條乃至第六百九十八條ノ規定ヲ準用シテ配當表ヲ作り其配當表ニ基キ管理人ヲシテ債權者ニ支拂ヲ爲サシム可シ

第七百十五條 管理人ハ毎年及ヒ其業務施行ノ終了後各債權者、債務者及ヒ裁判所ニ計算書ヲ差出ス可シ

各債權者及ヒ債務者ハ計算書ノ送達アリタル日ヨリ七日ノ期間内ニ執行裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
右期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ計算ニ付キ全ク異議ナク且管理人ノ卸任ヲ承諾シタルモノト看做ス
異議ノ申立アルトキハ裁判所ハ管理人ヲ審訊シタル後之ヲ裁判ス可シ若シ異議ノ申立ナク又ハ申立テタル異議ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ管理人ヲシテ卸任セシム可シ

第七百十六條 強制管理ノ取消ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス
此取消ハ各債權者不動産ノ收益ヲ以テ辨濟ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス若シ管理續行ノ爲メ特別ノ費用ヲ要スルトキ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セサルニ於テハ裁判所ハ強制管理ノ取消ヲ命スルコトヲ得
裁判所ハ右ノ取消ヲ決定スル際登記判事ニ強制管理ニ關スル記入ノ抹消ヲ囑託ス可シ

第三節 船舶ニ對スル強制執行
第七百十七條 商船其他ノ海船ニ對スル強制競行ハ不動産ノ強制競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但事物ノ性質ニ因リテ差異ノ顯ハルトキ又ハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルトキハ此限ニ在ラス
端舟其他構體ノミナ以テ運轉シ又ハ主トシテ構體ヲ以テ運轉スル舟ニハ本節ノ規定ヲ適用セス

第七百十八條 船舶ノ強制競賣ニ付テハ船舶カ差押ノ當時碇泊スル港ノ區裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

第七百十九條 船舶ハ執行手續中差押ノ港ニ之ヲ碇泊セシム可シ然レトモ商業上利益ノ爲メ適當トスル場合ニ於テハ裁判所ハ總テノ利害關係人ノ申立ニ因リ航行ヲ許スコトヲ得

第七百二十條 強制競賣ニ付テノ申立ニハ左ノ證書ヲ添附ス可シ

第一 債務者カ所有者ナル場合ニ於テハ其所有者トシテ船舶ヲ占有スルコト又船長ナル場合ニ於テハ船長トシテ船舶ヲ指揮スルコトヲ疎明スルニ足ルヘキ證書

第二 船舶カ船舶登記簿ニ登記アル場合ニ於テハ其船舶ニ關スル有効ナル各登記事項ヲ包含シタル登記簿ノ抄本

債權者ハ公簿ヲ主管スル官廳カ遠隔ノ地ニ在ルトキハ第二號ノ抄本ノ求アランコトヲ執行裁判所ニ申立ツルコトヲ得

第七百二十一條 裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲サシム可シ

此處分ヲ爲シタルトキハ開始決定ノ送達前ト雖モ差押ノ効力ヲ生ス
若シ此處分ヲ續行スル爲メ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ之ヲ取消スコトヲ得

第七百二十二條 船長ニ對シ爲シタル判決ニ基キ船舶債權者ノ爲メ船舶ノ差押ヲ爲ストキハ其差押ハ所有者ニ對シテモ効力アリ此場合ニ於テハ所有者モ亦利害關係人トス

差押後所有者若クハ船長ノ變更アルモ手續ノ續行ヲ妨ケス

差押後新ニ船長ト爲リタル者ハ之ヲ利害關係人トス此場合ニ於テハ前船長ハ其關係人タル責務ヲ免カル

第七百二十三條 船舶カ差押ノ當時其裁判所管轄内ニ存セサルコトノ顯ハルルトキハ其手續ヲ取消スコトヲ得

第七百二十四條 競賣期日ノ公告ニハ第六百五十八條第一號ニ掲ケタル旨趣ニ換ヘテ船舶ノ表示及ヒ其碇泊ノ場所ヲ掲ク可シ

第七百二十五條 定繫港ノ區裁判所管轄外ニ於テ差押ヲ爲シタルトキハ執行裁判所ハ競賣期日ノ公告ヲ定繫港ノ區裁判所ニ送付シ其裁判所ノ掲示板ニ掲示スコキコトヲ囑託スコトヲ得

第七百二十六條 船舶ノ股分ニ對スル強制執行ハ第六百二十五條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス其執行ニ付テハ定繫港ノ區裁判所之ヲ管轄ス

第七百二十七條 債權者ハ差押命令ノ申請ニ債務者カ船舶ノ股分ニ付キ所有權ヲ有スルコトヲ證スコキ船舶登記簿ノ抄本又ハ信用スコキ證明書ヲ添附スコトヲ得

差押命令ハ債務者ノ外船舶管理人ニモ之ヲ送達スコトヲ得

差押ハ此命令ヲ船舶管理人ニ送達スルニ因リ債務者ニ送達スルト同一ノ効力ヲ生ス

第七百二十八條 船舶股分ノ競賣代金ノ配當ニ付テハ第六百二十六條以下ノ規定ヲ準用ス

第七百二十九條 外國ノ船舶ヲ差押ヘタルトキ又ハ登記簿ニ登記セサル船舶ヲ差押ヘタルトキハ登記簿ニ記入スコキ手續ニ關スル規定ヲ適用セス

第三章 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

第七百三十條 債務者カ特定ノ動産又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡ス可キトキハ 執達吏ハ之ヲ債務者ヨリ取上ケテ債權者ニ引渡ス可シ

第七百三十一條 債務者カ不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡ス可キト キハ執達吏ハ債務者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシム可シ

此強制執行ハ債權者又ハ其代理人カ受取ノ爲メ出頭シタルトキニ限り之ヲ爲スコ トヲ得

強制執行ノ目的物ニ非サル動産ハ執達吏之ヲ取除キテ債務者ニ引渡ス可シ若シ債 務者不在ナルトキハ其代理人又ハ債務者ノ成長シタル家族若クハ雇人ニ之ヲ引渡 ス可シ

債務者及ヒ前項ニ掲ケタル者不在ナルトキハ執達吏ハ右ノ動産ヲ債務者ノ費用ニ テ保管ニ付ス可シ

債務者カ其動産ノ受取ヲ怠ルトキハ執達吏ハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ差押物ノ競 賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ賣却シ其費用ヲ扣除シタル後其代金ヲ供託ス可シ

第七百三十二條 引渡ス可キ物カ第三者ノ手中ニ存スルトキハ債務者ノ引渡ノ請求 ハ申立ニ因リ金錢債權ノ差押ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ債權者ニ轉付ス可シ

第七百三十三條 債務者カ爲ス可キ行爲ヲ爲ササル場合ニ於テ第三者之ヲ爲シ得ヘ キモノナルトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ民法(財産編第三百八十二條 第三項第四項)ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲ス

債權者ハ同時ニ其行爲ヲ爲スニ因リ生ス可キ費用ヲ豫メ債務者ニ支拂ヲ爲サシム ル決定ノ宣言ヲランコトヲ申立ツルコトヲ得但シ其行爲ヲ爲スニ因リ此ヨリ多額

ノ費用ヲ生スルトキ後日其請求ヲ爲ス權利ヲ妨ケス

第七百三十四條 債務者カ其意思ノミニ因リ爲シ得ヘキ行爲ニシテ第三者之ヲ爲シ 得ヘカサルモノナルトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ民法(財産編第三 百八十六條第三項)ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲ス

第七百三十五條 前二條ノ決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得但決定前債 務者ヲ審訊ス可シ

第七百三十六條 債務者カ權利關係ノ成立ヲ認諾ス可キコト又ハ其他ノ意思ノ陳述 ナ爲ス可キコトノ判決ヲ受ケタルトキハ其判決ノ確定ヲ以テ認諾又ハ意思ノ陳述 ナ爲シタルモノト看做ス反對給付ノ有リタル後認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲ス可キ場 合ニ於テハ第五百十八條及ヒ第五百二十條ノ規定ニ從ヒ執行力アル正本ヲ付與シ タルトキ其効力ヲ生ス

第四章 假差押及ヒ假處分

第七百三十七條 假差押ハ金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權ニ換フルコトヲ得ヘキ請求ニ 付キ動産又ハ不動産ニ對スル強制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲スコトヲ得

假差押ハ未タ期限ニ至ラサル請求ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第七百三十八條 假差押ハ之ヲ爲ササレハ判決ノ執行ヲ爲スコト能ハス又ハ判決ノ 執行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ殊ニ外國ニ於テ判決ノ執行ヲ爲スニ 至ル可キトキハ之ヲ爲スコトヲ得

第七百三十九條 假差押ノ命令ハ假ニ差押ヲ可キ物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又 ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス

第七百四十條 假差押ノ申請ニハ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 請求ノ表示若シ其請求カ一定ノ金額ニ係ラサルトキハ其價額
 第二 假差押ノ理由タル事實ノ表示
 請求及ヒ假差押ノ理由ハ之ヲ説明ス可シ
 申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
 第七百四十一條 假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得
 請求又ハ假差押ノ理由ヲ説明セサルトキト雖モ假差押ニ因リ債務者ニ生ス可キ損害ノ爲メ債權者カ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立テタルトキハ裁判所ハ假差押ヲ命スルコトヲ得
 又請求及ヒ假差押ノ理由ヲ説明シタルトキト雖モ裁判所ハ保證ヲ立テシメ假差押ヲ命スルコトヲ得
 保證ヲ立テタルトキハ其保證ヲ立テタルコト及ヒ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ立テタルコトヲ假差押ノ命令ニ記載ス可シ
 第七百四十二條 假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ爲ス場合ニ於テハ終局判決ヲ以テ之ヲ爲シ其他ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス
 假差押ノ申請ヲ却下シ又ハ保證ヲ立テシムル裁判ハ債務者ニ之ヲ通知スルコトヲ要セス
 第七百四十三條 假差押ノ命令ニハ假差押ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ル爲メ又ハ執行シタル假差押ヲ取消スコトヲ得ル爲メ債務者ヨリ供託ス可キ金額ヲ記載ス可シ
 第七百四十四條 債務者ハ假差押決定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得
 此異議ニ付テハ假差押ノ取消又ハ變更ヲ申立ツル理由ヲ開示ス可シ

異議ノ申立ハ假差押ノ執行ヲ停止セス
 第七百四十五條 異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ口頭辯論ノ爲メ當事者ヲ呼出ス可シ
 裁判所ハ終局判決ヲ以テ假差押ノ全部若クハ一分ノ認可、變更又ハ取消ヲ言渡シ又自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立ツ可キコトノ條件ヲ附シテ之ヲ言渡スコトヲ得
 第七百四十六條 本案ノ未タ繫屬セサルトキハ假差押裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ口頭辯論ヲ經スシテ相當ニ定ムル期間内ニ訴ヲ起ス可キコトヲ債權者ニ命ス可シ此期間ヲ徒過シタル後ハ債務者ノ申立ニ因リ終局判決ヲ以テ假差押ヲ取消ス可シ
 第七百四十七條 債務者ハ假差押ノ理由消滅シ其他事情ノ變更シタルトキ又ハ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ム可キ保證ヲ立テントノ提供ヲ爲シタルトキハ假差押ノ認可後ト雖モ假差押ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得
 此申立ニ付テハ終局判決ヲ以テ之ヲ裁判ス其裁判ハ假差押ヲ命シタル裁判所又本案カ既ニ繫屬シタルトキハ本案ノ裁判所之ヲ爲ス
 第七百四十八條 假差押ノ執行ニ付テハ強制執行ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス
 第七百四十九條 假差押ノ命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ承繼アル場合ニ限り執行文ヲ附記スルコトヲ要ス
 假差押命令ノ執行ハ命令ヲ言渡シ又ハ申立人ニ命令ヲ送達シタルヨリ十四日ノ期間ヲ徒過スルトキハ之ヲ爲スコトヲ許サス
 右執行ハ債務者ニ差押命令ヲ送達スル前ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得

第七百五十條 動産ニ對スル假差押ノ執行ハ各差押ト同一ノ原則ニ從ヒテ之ヲ爲ス

債權ノ假差押ニ付テハ其命令ヲ發シタル裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

債權ノ假差押ニ付テハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁スル命令ノミヲ爲ス可シ

假差押ノ金錢ハ之ヲ供託ス可シ其他假差押物ノ競賣及ヒ假差押有價證券ノ換價ハ一時之ヲ爲サス然レトモ假差押物ニ著シキ價額ノ減少ヲ生スル恐アルトキ又ハ其貯藏ニ付キ不相應ナル費用ヲ生ス可キトキハ執行裁判所ハ申立ニ因リ其物ヲ競賣シ賣得金ヲ供託ス可キ旨ヲ執達吏ニ命スルコトヲ得

第七百五十一條 不勒産ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ命令ヲ登記簿ニ記入スルニ因リテ之ヲ爲ス

第七百五十二條 假差押執行ノ爲メ強制管理ヲ爲ス場合ニ於テハ保全ス可キ債權ニ相當スル金額ヲ取立テ之ヲ供託ス可シ

第七百五十三條 船舶ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ當時碇泊スル港ニ碇泊セシムルコトニ因リテ之ヲ爲ス裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲ス

第七百五十四條 假差押命令ニ於テ定メタル金額ヲ供託シタルトキハ執行裁判所ハ執行シタル假差押ヲ取消ス可シ

假差押ノ續行ニ付キ特別ノ費用ヲ要シ且之カ爲メ必要ナル金額ヲ債權者カ豫納セサルトキモ亦執行裁判所ハ假差押ノ取消ヲ命スルコトヲ得

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

假差押ヲ取消ス決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第七百五十五條 係争物ニ關スル假處分ハ現狀ノ變更ニ因リ當事者一方ノ權利ノ實行ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ之ヲ許ス

第七百五十六條 假處分ノ命令其他ノ手續ニ付テハ假差押ノ命令及ヒ手續ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第七百五十七條 假處分ノ命令ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス

右裁判ハ急迫ナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第七百五十八條 裁判所ハ其意見ヲ以テ申立ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ定ム

假處分ハ保管人ヲ置キ又ハ相手方ニ行爲ヲ命シ若クハ之ヲ禁シ又ハ給付ヲ命スルコトヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

假處分ヲ以テ不動産ヲ讓渡シ又ハ抵當ト爲スコトヲ禁シタルトキハ裁判所ハ第七百五十一條ノ規定ヲ準用シテ登記簿ニ其禁止ヲ記入セシム可シ

第七百五十九條 特別ノ事情アルトキニ限り保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許スコトヲ得

第七百六十條 假處分ハ争アル權利關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムル爲ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得但其處分ハ殊ニ繼續スル權利關係ニ付キ著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル強暴ヲ防グ爲メ又ハ其他ノ理由ニ因リ之ヲ必要トスルトキニ限ル

第七百六十一條 急迫ナル場合ニ於テハ係争物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ハ假處分ノ當否ニ付テノ口頭辯論ノ爲メ本案ノ管轄裁判所ニ相手方ヲ呼出ス可キ申立ノ期間ヲ定メ假處分ヲ命スルニトヲ得

此期間ヲ徒過シタル後區裁判所ハ申立ニ因リ其命シタル假處分ヲ取消ス可シ

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第七百六十二條 本章ノ規定ニ於ケル本案ノ管轄裁判所ハ第一審裁判所トス但本案
カ控訴審ニ繫屬スルトキニ限り控訴裁判所トス

第七百六十三條 急迫ナル場合ニ於テ口頭辯論ヲ要セサルモノニ限り裁判長ハ本章
ノ申立ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ得

第七編 公示催告手續

第七百六十四條 請求又ハ權利ノ届出ヲ爲サシムル爲メノ裁判上ノ公示催告ハ其届
出ヲ爲ササルトキハ失權ヲ生スル効力ヲ以テ法律ニ定メタル場合ニ限り之ヲ爲ス
コトヲ得

公示催告手續ハ區裁判所之ヲ管轄ス

第七百六十五條 公示催告ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

此申立ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

申立ヲ許スコキトキハ裁判所ハ公示催告ヲ爲スコク其公示催告ニハ殊ニ左ノ諸件
ヲ掲ク可シ

第一 申立人ノ表示

第二 請求又ハ權利ヲ公示催告期日マテニ届出ツ可キコトノ催告

第三 届出ヲ爲ササルニ因リ生ス可キ失權ノ表示

第四 公示催告期日ノ指定

第七百六十六條 公示催告ニ付テノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ揭示シ及ヒ官報又ハ公
報ニ掲載シテ之ヲ爲シ其他法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ第五百五十七條第三
項ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第七百六十七條 公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニ
ハ法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ少クモ二个月ノ時間ヲ存スルコトヲ要
ス

第七百六十八條 公示催告期日ノ終リタル後ト雖モ除權判決前ニ届出ヲ爲ストキハ
適當ナル時間ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七百六十九條 除權判決ハ申立ニ因リテ之ヲ爲ス
右判決前ニ詳細ナル探知ヲ爲スコキ旨ヲ命スルコトヲ得

除權判決ノ申立ヲ却下スル決定及ヒ除權判決ニ付シタル制限又ハ留保ニ對シテハ
即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第七百七十條 申立人ノ申立ノ理由トシテ主張シタル權利ヲ爭フコトノ届出アリ
タルトキハ其事情ニ從ヒ届出テタル權利ニ付テノ裁判確定スルマテ公示催告手續
ヲ中止シ又ハ除權判決ニ於テ届出テタル權利ヲ留保ス可シ

第七百七十一條 申立人カ公示催告期日ニ出頭セサルトキハ其申立ニ因リ新期日ヲ
定ム可シ此申立ハ公示催告期日ヨリ六個月ノ期間内ニ限り之ヲ爲スコトヲ許ス

第七百七十二條 公示催告手續ヲ完結スル爲メ新期日ヲ定メタルトキハ其期日ノ公
告ヲ爲スコトヲ要セズ

第七百七十三條 裁判所ハ除權判決ノ重要ナル旨趣ヲ官報及ハ公報ニ掲載シテ公告
ヲ爲スコトヲ得

第七百七十四條 除權判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

除權判決ニ對シテハ左ノ場合ニ於テ申立人ニ對スル訴ヲ以テ催告裁判所ノ所在地
ヲ管轄スル地方裁判所ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第一 法律ニ於テ公示催告手續ヲ許ス場合ニ非サルトキ

第二 公示催告ニ付テノ公告ヲ爲サス又ハ法律ニ定メタル方法ヲ以テ公告ヲ爲ササルトキ

第三 公示催告ノ期間ヲ遵守セサルトキ

第四 判決ヲ爲ス判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除外セラレタルトキ

第五 請求又ハ權利ノ届出アリタルニ拘ハラス判決ニ於テ其届出ヲ法律ニ從ヒ顧ミサルトキ

第六 第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

第七百七十五條 不服申立ノ訴ハ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ此期間ハ原告カ除權判決ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ前條第四號及ヒ第六號ニ掲ケタル不服申立ノ理由ノ一ニ基キ訴ヲ起シ且原告カ右ノ日ニ其理由ヲ知ラザリシ場合ニ於テハ其期間ハ不服ノ理由ノ原告ニ知レタル日ヲ以テ始マル

除權判決ノ言渡ノ日ヨリ起算シテ五年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ得ス

第七百七十六條 裁判所ハ第二百十條ノ條件ノ存セサルトキト雖モ數箇ノ公示催告ノ併合ヲ命スルコトヲ得

第七百七十七條 盜取セラレ又ハ紛失若クハ滅失シタル手形其他商法ニ無効ト爲シ得ヘキコトヲ定メタル證書ノ無効宣言ノ爲ニ爲ス公示催告手續ニ付テハ以下數條ノ特別規定ヲ適用ス

此規定ハ法律上公示催告手續ヲ許ス他ノ證書ニ付キ其法律中ニ特別規定ヲ設ケサル限りハ之ヲ適用ス

第七百七十八條 無記名證券又ハ裏書ヲ以テ移轉シ得ヘク且略式裏書ヲ付シタル證書ニ付テハ最終ノ所持人公示催告手續ヲ申立ツル權アリ

此他ノ證書ニ付テハ證書ニ因リ權利ヲ主張シ得ヘキ者此申立ヲ爲ス權アリ

第七百七十九條 公示催告手續ハ證書ニ表示シタル履行地ノ裁判所之ヲ管轄ス若シ證書ニ其履行地ヲ表示セサルトキハ發行人カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所之ヲ管轄シ其裁判所ナキトキハ發行人カ發行ノ當時普通裁判籍ヲ有セシ地ノ裁判所之ヲ管轄ス

證書ヲ發行スル原因タル請求ヲ登記簿ニ記入シタルトキハ其物ノ所在地ノ裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第七百八十條 申立人ハ申立ノ憑據トシテ左ノ手續ヲ爲ス可シ

第一 證書ノ謄本ヲ差出シ又ハ證書ノ重要ナル旨趣及ヒ證書ヲ十分ニ認知スルニ必要ナル諸件ヲ開示スルコト

第二 證書ノ盜難、紛失、滅失及ヒ公示催告手續ヲ申立ツルコトヲ得ルノ理由タル事實ヲ説明スルコト

第七百八十一條 公示催告中ニ公示催告期日マテニ權利ヲ裁判所ニ届出テ且其證書ヲ提出ス可キ旨ヲ證書ノ所持人ニ催告ス可ク又失權トシテ證書ノ無効宣言ヲ爲ス可キ旨ヲ戒示ス可シ

第七百八十二條 公示催告ノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ掲示シ且官報又ハ公報ニ掲載シ及ヒ新聞紙ニ三回掲載シテ之ヲ爲ス

公示催告裁判所ノ所在地ニ取引所アルトキハ取引所ニモ亦此公告ヲ掲示ス可シ

第七百八十三條 公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニ

ハ少ナクトモ六ヶ月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

第七百八十四條 除權判決ニ於テハ證書ヲ無効ナリト宣言ス可シ
除權判決ノ重要ナル旨趣ハ官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ
不服申立ノ訴ニ因リ判決ヲ以テ無効宣言ヲ取消シタルトキハ其判決ノ確定後官報
又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ

第七百八十五條 除權判決アリタルトキハ其申立人ハ證書ニ因リ義務ヲ負擔スル者
ニ對シテ證書ニ因レル權利ヲ主張スルコトヲ得

第八編 仲裁手續

第七百八十六條 一名又ハ數名ノ仲裁人ヲシテ爭ノ判斷ヲ爲サシムル意合ハ當事者
カ係争物ニ付キ和解ヲ爲ス權利アル場合ニ限り其効力ヲ有ス

第七百八十七條 將來ノ争ニ關スル仲裁契約ハ一定ノ權利關係及ヒ其關係ヨリ生ス
ル争ニ關セサルトキハ其効力ヲ有セス

第七百八十八條 仲裁契約ニ仲裁人ノ選定ニ關スル定ナキトキハ當事者ハ各一名ノ
仲裁人ヲ選定ス

第七百八十九條 當事者ノ雙方カ仲裁人ヲ選定スル權利ヲ有スルトキハ先ニ手續ヲ
爲ス一方ハ書面ヲ以テ相手方ニ其選定シタル仲裁人ヲ指示シ且七日ノ期間内ニ同
一ノ手續ヲ爲ス可キ旨ヲ催告ス可シ

右期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ先ニ手續ヲ爲ス一方ノ申立ニ因リ仲裁人
ヲ選定ス

第七百九十條 當事者ノ一方ハ相手方ニ仲裁人選定ノ通知ヲ爲シタル後ハ相手方
ニ對シテ其選定ニ拘束セラル

第七百九十一條 仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ死亡シ又ハ其他ノ理
由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受若クハ施行ヲ拒ミタルトキハ其仲裁人ヲ選定シ

タル當事者ハ相手方ノ催告ニ因リ七日ノ期間内ニ他ノ仲裁人ヲ選定ス可シ此期間
ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ其催告ヲ爲シタル者ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定
ス可シ

第七百九十二條 當事者ハ判事ヲ忌避スル權利アルト同一ノ理由及ヒ條件ヲ以テ仲
裁人ヲ忌避スルコトヲ得

此他仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ其義務ノ履行ヲ不當ニ遅延スル
トキハ亦之ヲ忌避スルコトヲ得

無能力者、聾者、啞者及ヒ公權ノ剝奪又ハ停止中ノ者ハ之ヲ忌避スルコトヲ得

第七百九十三條 仲裁契約ハ當事者ノ合意ヲ以テ左ノ場合ノ爲メ豫定ヲ爲ササリシ
トキハ其効力ヲ失フ

第一 契約ニ於テ一定ノ人ヲ仲裁人ニ選定シ其仲裁人中ノ或ル人カ死亡シ又ハ
其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受ヲ拒ミ又ハ仲裁人ノ取結ヒタ
ル契約ヲ解キ又ハ其義務ノ履行ヲ不當ニ遅延シタルトキ

第二 仲裁人カ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シタルトキ

第七百九十四條 仲裁人ハ仲裁判斷前ニ當事者ヲ審訊シ且必要トスル限りハ争ノ原
因タル事件關係ヲ探知ス可シ

仲裁手續ニ付キ當事者ノ合意アラサル場合ニ於テハ其手續ハ仲裁人ノ意見ヲ以テ
之ヲ定ム

第七百九十五條 仲裁人ハ其面前ニ任意ニ出頭スル證人及ヒ鑑定人ヲ訊問スルコト

ナ得

仲裁人ハ證人又ハ鑑定人ナシテ宣誓ヲ爲サシムル權ナシ

第七百九十六條 仲裁人ノ必要ト認ムル判斷上ノ行爲ニシテ仲裁人ノ爲スコトヲ得サルモノハ當事者ノ申立ニ因リ管轄裁判所之ヲ爲スコシ但其申立ヲ相當ト認メタルトキニ限ル

證人又ハ鑑定人ニ供述ヲ命シタル裁判所ハ證據ヲ述フルコト又ハ鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタル場合ニ於テ必要ナル裁判ナモ亦爲ス權アリ

第七百九十七條 仲裁人ハ當事者カ仲裁手續ヲ許スコカラサルコトヲ主張スルトキ殊ニ法律上有効ナル仲裁契約ノ成立セサルコト、仲裁契約カ判斷スコキ争ニ關係セサルコト又ハ仲裁人カ其職務ヲ施行スル權ナキコトヲ主張スルトキト雖モ仲裁手續ヲ續行シ且仲裁判斷ヲ爲スコトヲ得

第七百九十八條 數名ノ仲裁人カ仲裁判斷ヲ爲スコキトキハ過半数ヲ以テ其判斷ヲ爲スコシ但仲裁契約ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第七百九十九條 仲裁判斷ニハ其作リタル年月日ヲ記載シテ仲裁人之ニ署名捺印ス可シ

仲裁人ノ署名捺印シタル判斷ノ正本ハ之ヲ當事者ニ送達シ其原本ハ送達ノ證書ヲ添ヘテ管轄裁判所ノ書記課ニ之ヲ預ケ置ク可シ

第八百條 仲裁判斷ハ當事者間ニ於テ確定シタル裁判所ノ判決ト同一ノ効力ヲ有ス

第八百一條 仲裁判斷ノ取消ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ申立ツルコトヲ得

第一 仲裁手續ヲ許スコカラサルコトキ

第二 仲裁判斷カ法律上禁止ノ行爲ヲ爲スコキ旨ヲ當事者ニ言渡シタルトキ

第三 當事者カ仲裁手續ニ於テ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレサリシトキ

第四 仲裁手續ニ於テ當事者ヲ審訊セサリシトキ

第五 仲裁判斷ニ理由ヲ付セサリシトキ

第六 第四百六十九條第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

仲裁判斷ノ取消ハ當事者カ別段ノ合意ヲ爲シタルトキハ本條第四號及ヒ第五號ニ掲ケタル理由ニ因リ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八百二條 仲裁判斷ニ因リ爲ス強制執行ハ執行判決ヲ以テ其許スコキコトヲ言渡シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

右執行判決ハ仲裁判斷ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ理由ノ存スルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八百三條 執行判決ヲ爲シタル後ハ仲裁判斷ノ取消ハ第八百一條第六號ニ掲ケタル理由ニ因リテノミ之ヲ申立ツルコトヲ得但當事者カ自己ノ過失ニ非スシテ前手續ニ於テ取消ノ理由ヲ主張スル能ハサリシコトヲ疏明シタルトキニ限ル

第八百四條 仲裁判斷取消ノ訴ハ前條ノ場合ニ於テハ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ

右期間ハ當事者カ取消ノ理由ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ執行判決ノ確定前ニハ始マラサルモノトス但執行判決ノ確定ト爲リタル日ヨリ起算シテ五年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ許サス

仲裁判斷ヲ取消ストキハ執行判決ノ取消ヲモ亦言渡スコシ

第八百五條 仲裁人ヲ選定シ若クハ忌避スルコト、仲裁契約ノ消滅スルコト、仲裁手續ヲ許ス可カラサルコト、仲裁判斷ヲ取消スコト又ハ執行判決ヲ爲スコトヲ目的トスル訴ニ付テハ仲裁契約ニ指定シタル區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ其指定ナキトキハ請求ヲ裁判上主張スル場合ニ於テ管轄ヲ有ス可キ區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄ス
前項ニ依リ管轄ヲ有スル裁判所數箇アルトキハ當事者又ハ仲裁人カ最初ニ關係セシメタル裁判所之ヲ管轄ス

◎參照法令

朕裁判所構成法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此ノ法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

法律第六號 明治二十三年
二月八日

裁判所構成法目次

- 第一編 裁判所及檢事局
- 第一章 總 則
- 第二章 區裁判所
- 第三章 地方裁判所

第四章 控訴院

第五章 大審院

第二編 裁判所及檢事局ノ官吏

第一章 判事又ハ檢事ニ任セラルルニ必要ナル準備及資格

第二章 判 事

第三章 檢 事

第四章 裁判所書記

第五章 執達吏

第六章 廷 丁

第三編 司法事務ノ取扱

第一章 開 廷

第二章 裁判所ノ用語

第三章 裁判ノ評議及言渡

第四章 裁判所及檢事局ノ事務章程

第五章 司法年度及休暇

第六章 法律上ノ共助

第四編 司法行政ノ職務及監督權

裁判所構成法

第一編 裁判所及檢事局

第一章 總 則

◎民事訴訟法△參照法令

第一條 左ノ裁判所ヲ通常裁判所トス

第一 區裁判所

第二 地方裁判所

第三 控訴院

第四 大審院

第二條 通常裁判所ニ於テハ民事刑事ヲ裁判スルモノトス但シ法律ヲ以テ特別裁判所ノ管轄ニ屬セシメタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三條 地方裁判所控訴院及大審院ヲ合議裁判所トシ數人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ總テノ事件ヲ審問裁判ス但シ訴訟法又ハ特別法ニ別段規定シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條 裁判所ノ設立廢止及管轄區域並ニ其ノ變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 各裁判所ニ相應ナル員數ノ判事ヲ置ク

第六條 各裁判所ニ檢事局ヲ附置ス檢事ハ刑事ニ付公訴ヲ起シ其ノ取扱上必要ナル手續ヲ爲シ法律ノ正當ナル適用ヲ請求シ及判決ノ適當ニ執行セラルルヤヲ監視シ又民事ニ於テモ必要ナリト認ムルトキハ通知ヲ求メ其ノ意見ヲ述ブルコトヲ得又裁判所ニ屬シ若ハ之ニ關ル司法及行政事件ニ付公益ノ代表者トシテ法律上其ノ職權ニ屬スル監督事務ヲ行フ

檢事ハ裁判所ニ對シ獨立シテ其ノ事務ヲ行フ

檢事局ノ管轄區域ハ其ノ附置セラレタル裁判所ノ管轄區域ニ同シ

若一人ノ檢事若ハ數人ノ檢事悉ク差支アリテ或ル事件ヲ取扱フコトヲ得サルトキ

ハ裁判所長又ハ區裁判所ニ於テ判事若ハ監督判事ハ其ノ事件猶豫スヘカラサルニ於テハ判事ニ檢事ノ代理ヲ命シ其ノ事件ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第七條 檢事局ニ相應ナル員數ノ檢事ヲ置ク

第八條 各裁判所ニ書記課ヲ設ク書記課ハ往復會計記錄其ノ他此ノ法律又ハ他ノ法律ニ特定シタル事務ヲ取扱フ

裁判所ニ附置セラレタル檢事局ニ於テ前項ノ如キ事務ヲ取扱フ爲必要ナリト認メタルトキニ限り別ニ書記課ヲ設クルコトヲ得但シ合議裁判所ノ檢事局ニ限ル

司法大臣ハ裁判所ノ會計事務ヲ專任スル爲特別官吏ヲ裁判所ニ置クコトヲ得

第九條 區裁判所ニ執達吏ヲ置ク執達吏ハ裁判所ヨリ發スル文書ヲ送達シ及裁判所ノ裁判ヲ執行ス

前項ノ外執達吏ハ此ノ法律又ハ他ノ法律ニ定メタル特別ノ職務ヲ行フ

第十條 法律ヲ以テ特定シタルモノヲ除ク外左ノ場合ニ於テ適當ノ申請アルトキハ關係アル各裁判所ヲ併セテ之ヲ管轄スル直近上級ノ裁判所ハ何レノ裁判所ニ於テ本件ヲ裁判スルノ權アルヤヲ裁判ス

第一 權限アル裁判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコトヲ得ス且此ノ法律第十三條ニ依リ之ニ代ルヘキコトヲ定メラレタル裁判所モ亦之ヲ行フコトヲ得サルトキ

第二 裁判所管轄區域ノ境界明確ナラサルカ爲其ノ權限ニ付疑ヲ生シタルトキ

第三 法律ニ從ヒ又ハ二以上ノ確定判決ニ因リ二以上ノ裁判所裁判權ヲ互有ス

ルトキ

第四 二以上ノ裁判所權限ヲ有セストノ確定判決ヲ爲シ又ハ權限ヲ有セストノ確定判決ヲ受ケタルモ其ノ裁判所ノ一ニ於テ裁判權ヲ行フヘキトキ

第二章 區裁判所

第十一條 區裁判所ノ裁判權ハ單獨判事之ヲ行フ

判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ其ノ裁判事務ヲ各判事ニ分配ス

此ノ事務分配ハ毎年地方裁判所長前以テ之ヲ定ム

區裁判所判事ノ取扱ヒタル事ハ裁判事務分配上其ノ事他ノ判事ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其ノ効力ヲ失フコトナシ

判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ司法大臣ハ其ノ一人ヲ監督判事トシ之ニ其ノ行政職務ヲ委任ス

第十二條 事務分配一タヒ定マリタルトキハ司法年度中之ヲ變更セス但シ一人ノ判事ノ分擔多キニ過キ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ久ク闕勤スル者アル等引續キ差支ヲ生シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 區裁判所ノ判事差支アルトキハ毎年地方裁判所長ノ前以テ定メタル順序ニ從ヒ互ニ相代理ス但シ監督判事ノ職務ハ其ノ裁判所ノ判事官等ノ順序ニ從ヒ之ヲ代理ス

一ノ區裁判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ事務ヲ取扱フコトヲ得サルトキ之ニ代ルヘキ他ノ區裁判所ハ前項ニ同ク毎年以前以テ之ヲ定ム

第十四條 區裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス但シ反訴ニ關リテ

ハ民事訴訟法ノ定ムル所ニ依ル

第一 百圓ヲ超過セサル金額又ハ價額百圓ヲ超過セサル物ニ關ル請求

第二 價額ニ拘ラス左ノ訴訟

(イ) 住家其ノ他ノ建物又ハ其ノ或ル部分ノ受取明渡使用占據若ハ修繕ニ關リ又ハ賃借人ノ家具若ハ所持品ヲ賃借人ノ差押ヘタルコトニ關リ賃借人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

(ロ) 不動産ノ經界ノミニ關ル訴訟

(ハ) 占有ノミニ關ル訴訟

(ニ) 雇主ト雇入トノ間ニ雇期限一年以下ノ契約ニ關リ起リタル訴訟

(ホ) 左ニ掲ケタル事項ニ付旅人ト旅店若ハ飲食店ノ主人トノ間ニ又ハ旅人ト水陸運送人トノ間ニ起リタル訴訟

(一) 賄料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ伴フ手荷物ノ運送料

(二) 旅店若ハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲預ケタル手荷物金錢又ハ有價物

第十五條 區裁判所ハ非訟事件ニ付法律ニ定メタル範圍及方法ニ從ヒ左ノ事務ヲ取扱フノ權ヲ有ス

第一 未成年者瘋癲者白癡者失踪者其ノ他法律若ハ判決ニ因リ治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ後見人若ハ管財人ヲ監督スル事

第二 不動産及船舶ニ關ル權利關係ヲ登記スル事

第三 商業登記及特許局ニ登録シタル特許意匠及商標ノ登記ヲ爲ス事

第十六條 區裁判所ハ刑事ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 違警罪

第二 本刑五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ若ハ附加セサル二月以下ノ禁錮又ハ單ニ百圓以下ノ罰金ニ該ル輕罪

刑法第二編第一章第八節
第一百六條ヨリ第一百二十
條ニ至ル皇
室ニ對スル
罪

第三 刑法第二編第一章ヲ除キ其ノ他ノ輕罪ニシテ本刑二百圓以下ノ罰金ヲ附加シ若ハ附加セサル二年以下ノ禁錮又ハ單ニ三百圓以下ノ罰金ニ該リ其ノ情第二ニ掲ケタル刑ヨリ更ニ重キ刑ニ處スルコトヲ要セスト認メ地方裁判所若ハ其ノ支部ノ檢事局ヨリ區裁判所ニ移付シタルモノ

前項ノ手續ニ因リ訴追ヲ爲シ犯罪ノ證明アリタル場合ニ於テ判決ヲ爲ス前何時ニテモ其ノ情第二ニ掲ケタル刑ニテハ相當ニ罰スルコトヲ得スト認ムルトキハ區裁判所ハ之ヲ裁判スル權限ヲ有セストノ言渡ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ハ被告人ヲシテ相當ノ裁判所ニ於テ裁判ヲ受ケシムル爲適當ノ手續ヲ爲ス

第十七條 前數條ニ掲ケタルモノヲ除ク外區裁判所ノ權限ハ此ノ章ニ掲ケタル事件ニ關リ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第十八條 各區裁判所ノ檢事局ニ檢事ヲ置ク

區裁判所檢事ノ檢事局ノ事務ハ其ノ地ノ警察官憲兵將校下士又ハ林務官之ヲ取扱フコトヲ得

司法大臣ハ適當ナル場合ニ於テハ區裁判所判事試補又ハ郡市町村ノ長ヲシテ檢事ヲ代理セシムルコトヲ得

第三章 地方裁判所

第十九條 地方裁判所ヲ第一審ノ合議裁判所トス

各地方裁判所ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

第二十條 各地方裁判所ニ地方裁判所長ヲ置ク

地方裁判所長ハ裁判所ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

地方裁判所ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第二十一條 司法大臣ハ毎年各地方裁判所ノ判事一人若ハ二人以上ニ其ノ裁判所ノ裁判權ニ屬スル刑事ノ豫審ヲ爲スコトヲ命ス

第二十二條 各地方裁判所ノ事務ハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ各部及各豫審判事ニ之ヲ分配ス

各地方裁判所ノ各部長及部員ノ配置及所長部長部員差支アルトキノ代理モ亦毎年
前以テ之ヲ定ム

前二項ニ掲ケタル諸件ハ裁判所所長部長及部ノ上席判事一人ノ會議ニ於テ裁判所長
會長トナリ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

地方裁判所長ハ次年自ラ部長トナルヘキ部ヲ指定スヘシ

第二十三條 或ル部ニ於テ著手シタル事務ニシテ司法年度ノ終若ハ休暇ノ始ニ臨ミ
未タ終結ニ至ラサルモノハ裁判所所長便利ト認ムルトキ同部員ヲシテ引續キ之ヲ結
了セシムルコトヲ得

豫審判事ノ取扱フ事務ニシテ未タ終結ニ至ラサルモノモ亦前項ニ同シ

第二十四條 第二十二條ニ從ヒ事務ノ分配及判事ノ配置一タヒ定マリタルトキハ休
暇中ヲ除キ一部ノ事務多キニ過キ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ久
ク闕勤スル者アル等引續キ差支アルニ非サレハ司法年度中ニ之ヲ變更セス

裁判所ノ事務其ノ現在ノ部ニ過多ナル場合ニ於テ司法大臣適宜ト認ムルトキハ新ニ一部又ハ數部ヲ設クルコトヲ得

第二十五條 地方裁判所ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同裁判所ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ裁判所長ハ其ノ管轄區域内ノ區裁判所判事又ハ豫備判事ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第二十六條 地方裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 第一審トシテ

區裁判所ノ權限又ハ第三十八條ニ定メタル控訴院ノ權限ニ屬スルモノヲ除キ其ノ他ノ請求

第二 第二審トシテ

(イ) 區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

(ロ) 區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二十七條 地方裁判所ハ刑事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 第一審トシテ

區裁判所ノ權限並ニ大審院ノ特別權限ニ屬セサル刑事訴訟

第二 第二審トシテ

(イ) 區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

(ロ) 區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二十八條 地方裁判所ハ破産事件ニ付一般ノ裁判權ヲ有ス

第二十九條 地方裁判所ハ非訟事件ニ關ル區裁判所ノ決定及命令ニ對シ法律ニ定メタル抗告ニ付裁判權ヲ有ス

第三十條 地方裁判所ノ權限並ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第三十一條 司法大臣ハ地方裁判所ト其ノ管轄區域内ノ區裁判所ト遠隔ナルカ若ハ交通不便ナルカ爲至當ト認ムルトキハ地方裁判所ニ屬スル民事及刑事ノ事務ノ一部分ヲ取扱フ爲一若ハ二以上ノ支部ノ設置ヲ命スルコトヲ得且支部ヲ開クヘキ區裁判所ヲ定ム

支部ニハ之ヲ設置シタル區裁判所若ハ近隣ノ區裁判所ノ判事ヲ用ヰルコトヲ得此ノ場合ニ於テ判事ヲ選用スルノ權ハ司法大臣ニ屬ス

司法大臣ハ支部ニ勤ムヘキ豫審判事及檢事ヲ命ス

司法大臣ハ支部ノ本部タル地方裁判所ノ管轄區域内ノ區裁判所判事ニ豫審判事ヲ命スルコトヲ得

代理ニ關ル第二十五條ハ支部ニモ亦之ヲ適用ス

第三十二條 地方裁判所ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ三人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ三人ノ判事中一人ヲ裁判長トス且豫備判事ハ如何ナル事情アルモ二人以上其ノ部ニ列席スルコトヲ得ス其ノ他ノ事件ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第三十三條 各地方裁判所ノ檢事局ニ檢事正ヲ置ク檢事正ハ檢事局ノ事務取扱ヲ分配指揮及監督ス但シ檢事局ノ其ノ他ノ檢事ハ事務取扱ニ付何等ノ事件ニ拘ハラズ特別ノ許可ヲ受ケスシテ檢事正ヲ代理スルノ權ヲ有ス

第四章 控訴院

第三十四條 控訴院ヲ第二審ノ合議裁判所トス

各控訴院ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

●民事訴訟法△參照法令

第三十五條 各控訴院ニ控訴院長ヲ置ク
 控訴院長ハ控訴院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス
 控訴院ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム
 第三十六條 事務ノ分配及終了並ニ判事ノ代理ニ付テハ第二十二條第二十三條及第二十五條ヲ左ノ變更ヲ以テ控訴院ニ適用ス
 第一 前項ニ掲ケタル各條ヲ以テ地方裁判所長ニ與ヘタル權ハ控訴院長ニモ之ヲ與ヘタルモノトス
 第二 控訴院ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同院ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ之ヲ代理スル判事ヲ出スヘキ旨ヲ控訴院長ヨリ其ノ控訴院所在地ノ地方裁判所長ニ通知シ其ノ裁判所ノ判事ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得但シ豫備判事ヲ用キルコトヲ得ス
 第三十七條 控訴院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス
 第一 地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴
 第二 區裁判所ノ判決ニ對スル控訴ニ付爲シタル地方裁判所ノ判決ニ對スル上告
 第三 地方裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告
 第三十八條 皇族ニ對スル民事訴訟ニ付第一審及第二審ノ裁判權ハ東京控訴院ニ屬ス但シ第一審ノ訴訟手續ニ付テハ地方裁判所ノ第一審手續ヲ適用ス
 第三十九條 控訴院ノ權限並ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル
 第四十條 控訴院ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ五人ノ判

事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ五人ノ判事中一人ヲ裁判長トス其ノ他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ
 第四十一條 第三十八條ノ場合ニ於テ第一審ハ五人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ審問裁判シ第二審ハ特ニ七人ノ判事ヲ組立テタル部ニ於テ審問裁判ス其ノ五人又ハ七人ノ判事中一人ヲ裁判長トス
 第四十二條 各控訴院ノ檢事局ニ檢事長ヲ置ク
 第四十三條 大審院ニ最高裁判所トス
 第四十四條 大審院ニ大審院長ヲ置ク
 大審院長ハ大審院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス
 大審院ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム
 第四十五條 大審院ノ事務ノ分配並ニ代理ノ順序ハ毎年部長ト協議シ大審院長前以テ之ヲ定ム
 大審院長ハ次年自ラ上席セントスル部ヲ指定スヘシ
 大審院ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同院ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ之ヲ代理スル判事ヲ出スヘキ旨ヲ大審院長ヨリ其ノ所在地ノ控訴院長ニ通知シ其ノ控訴院ノ判事ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得
 第四十六條 大審院長ハ何時ニテモ部長若ハ部員ノ承諾ヲ得テ之ヲ他ノ部ニ轉セシムルコトヲ得

●民事訴訟法△參照法令

第四十七條 大審院ニ於テ一タヒ定マリタル部ノ組立ヲ變更シタルトキハ現ニ取扱
中ノ事務ニ付テハ第二十三條ヲ適用ス

司法年度中事務分配ノ變更ニ付テハ第二十四條ヲ適用ス

第四十八條 大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付テ表シタル意見ハ其ノ訴
訟一切ノ事ニ付下級裁判所ヲ羈束ス

第四十九條 大審院ノ或ル部ニ於テ上告ヲ審問シタル後法律ノ同一ノ點ニ付曾テ一
若ハ二以上ノ部ニ於テ爲シタル判決ト相反スル意見アルトキハ其ノ部ハ之ヲ大審
院長ニ報告シ大審院長ハ其ノ報告ニ因リ事件ノ性質ニ從ヒ民事ノ總部若ハ刑事ノ
總部又ハ民事及刑事ノ總部ヲ聯合シテ之ヲ再ヒ審問シ及裁判スルコトヲ命ス

第五十條 大審院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 終審トシテ

(イ) 第三十七條第二ニ依リ爲シタル判決及第三十八條ノ第一審ノ判決ニ非
サル控訴院ノ判決ニ對スル上告

(ロ) 控訴院ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二 第一審ニシテ終審トシテ

刑法第二編第一章及第二章ニ掲ケタル重罪竝ニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮
又ハ更ニ重キ刑ニ處スヘキモノノ豫審及裁判

第五十一條 前條第二ニ掲ケタル事件ニ付大審院ハ必要ナリト認ムルトキハ事件ノ
審問裁判ヲ爲ス爲メ控訴院若ハ地方裁判所ニ於テ法廷ヲ開クコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ控訴院判事ヲ以テ部員ニ加フルコトヲ得但シ其ノ半數ニ滿ツル
コトヲ得ス

第五十二條 大審院ノ權限竝ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定

刑法第二編
第一章第八節
第一百六條至
第一百八條
第一百九條
第一百十條
第一百十一條
第一百十二條
第一百十三條
第一百十四條
第一百十五條
第一百十六條
第一百十七條
第一百十八條
第一百十九條
第一百二十條
第一百二十一條
第一百二十二條
第一百二十三條
第一百二十四條
第一百二十五條
第一百二十六條
第一百二十七條
第一百二十八條
第一百二十九條
第一百三十條
第三十一條
第三十二條
第三十三條
第三十四條
第三十五條
第三十六條
第三十七條
第三十八條
第三十九條
第四十條
第四十一條
第四十二條
第四十三條
第四十四條
第四十五條
第四十六條
第四十七條
第四十八條
第四十九條
第五十條
第五十一條
第五十二條
第五十三條
第五十四條
第五十五條
第五十六條
第五十七條
第五十八條
第五十九條
第六十條
第六十一條
第六十二條
第六十三條
第六十四條
第六十五條
第六十六條
第六十七條
第六十八條
第六十九條
第七十條
第七十一條
第七十二條
第七十三條
第七十四條
第七十五條
第七十六條
第七十七條
第七十八條
第七十九條
第八十條
第八十一條
第八十二條
第八十三條
第八十四條
第八十五條
第八十六條
第八十七條
第八十八條
第八十九條
第九十條
第九十一條
第九十二條
第九十三條
第九十四條
第九十五條
第九十六條
第九十七條
第九十八條
第九十九條
第一百條

メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第五十三條 大審院ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ七人ノ判
事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ七人ノ判事中一人ヲ裁判長トス
其ノ他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第五十四條 第四十九條ニ定メタル場合ニ於テハ聯合部ノ判事少クトモ三分ノ二列
席スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ民事ノ總部若ハ刑事ノ總部聯合スルトキ又ハ民事及刑事ノ總部
聯合スルトキハ總部ノ判事中最モ高キ者ヲ部長ト爲ス大審院長ハ至當ナリト
認ムルトキハ自ラ總部ニ長タルノ權ヲ有ス

第五十五條 大審院長ハ第五十條ニ依リ大審院ニ於テ第一審ニシテ終審ヲ爲スヘキ
各別ノ場合ニ付大審院ノ判事ニ豫審ヲ命ス但シ便宜ニ依リ各裁判所判事ヲシテ豫
審ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十六條 大審院ノ檢事局ニ檢事總長ヲ置ク

檢事總長竝ニ其ノ他ノ檢事ノ職權ニ付テハ第三十三條ヲ適用ス

第二編 裁判所及檢事局ノ官吏

第一章 判事又ハ檢事ニ任セラルルニ必要ナル準備及資格

第五十七條 判事又ハ檢事ニ任セラルルニハ第六十五條ニ掲ケタル場合ヲ除キ二回
ノ競争試験ヲ經ルコトヲ要ス

第五十八條 志願者前條ノ競争試験ヲ受ケ得ルニ必要ナル資格竝ニ此ノ試験ニ關ル
細則ハ判事檢事登用試験規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第一回試験ニ及第シタル者ハ第二回試験ヲ受クルノ前試補トシテ裁判所及檢事局
ニ於テ三年間實地修習ヲ爲スコトヲ要ス

民事訴訟法△參照法令

前項ノ修習ニ關ル細則モ亦試験規則中ニ之ヲ定ム

第五十九條 司法大臣ハ試補ノ行狀罷免スルニ足レリト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ罷免スルコトヲ得此ノ罷免ニ關ル細則モ亦試験規則中ニ之ヲ定ム

第六十條 一年以上修習ヲ爲シタル試補ハ其ノ修習ヲ現ニ監督スル判事ノ命アルトキ區裁判所ニ於テ或ル司法事務ヲ取扱フコトヲ得

豫審判事及地方裁判所ノ受命判事モ亦其ノ附屬ノ試補ヲシテ自己ニ代リ或ル事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第六十一條 試補ハ如何ナル場合ニ於テモ左ノ事務ヲ取扱フノ權ヲ有セス

第一 訴訟事件ト非訟事件トニ拘ハラズ裁判ヲ爲ス事

第二 證據ヲ調フル事但シ前條第二項ノ場合ヲ除ク

第三 登記ヲ爲ス事

第六十二條 第二回ノ競争試験ニ及第シタル試補ハ判事又ハ檢事ニ任セラルルコトヲ得

第六十三條 新任ノ判事又ハ檢事ハ闕位アルトキ之ヲ區裁判所若ハ地方裁判所ノ判事又ハ區裁判所若ハ地方裁判所ノ檢事局ノ檢事ニ補ス

司法大臣ハ闕位アルマテ新任ノ判事又ハ檢事ニ豫備判事又ハ豫備檢事トシテ勤務スルコトヲ命シ之ヲ司法省又ハ區裁判所又ハ地方裁判所又ハ其ノ裁判所ノ檢事局ニ用ケ

第六十四條 區裁判所又ハ地方裁判所又ハ其ノ檢事局ニ用ケラレタル豫備判事又ハ豫備檢事ハ判事又ハ檢事差支アリテ職務ニ從事スルコトヲ得且通常代理ノ規程ニ依リ難キコトアルトキハ第三十三條ノ制限ニ從ヒ司法大臣ハ之ニ其ノ判事又ハ檢事ヲ代理セシムルコトヲ得

司法大臣ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ判事又ハ其ノ檢事局ノ檢事ニ一時闕位アル間ハ此ノ法律ノ範圍内ニ於テ豫備判事又ハ豫備檢事ヲ以テ之ヲ充タスコトヲ得

第六十五條 三年以上帝國大學法科教授若ハ辯護士タル者ハ此ノ章ニ掲ケタル試験ヲ經スシテ判事又ハ檢事ニ任セラルルコトヲ得

帝國大學法科卒業生ハ第一回試験ヲ經スシテ試補ヲ命セラルルコトヲ得

第六十六條 左ニ掲ケタル者ハ判事又ハ檢事ニ任セラルルコトヲ得ス

第一 重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

第三 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

第二章 判事

第六十七條 判事ハ勅任又ハ奏任トシ其ノ任官ヲ終身トス

第六十八條 大審院長ハ勅任判事ノ中ヨリ天皇之ヲ補シ各控訴院長及大審院ノ部長ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任判事ノ中ヨリ之ヲ補ス其ノ他ノ判事ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

第六十九條 五年以上判事タル者又ハ五年以上檢事帝國大學法科教授若ハ辯護士ニシテ判事ニ任セラレシ者ニ非サレハ控訴院判事ニ補セラルルコトヲ得ス

第七十條 十年以上判事タル者又ハ十年以上檢事帝國大學法科教授若ハ辯護士ニシテ判事ニ任セラレシ者ニ非サレハ大審院判事ニ補セラルルコトヲ得ス

第七十一條 第六十九條及第七十條ニ掲ケタル年限ヲ算フルニハ補職ノ時マテ各々其ノ條ニ列記シタル職務ノ一ノミニ引續キ從事シタルコトヲ必要トセス

第七十二條 判事ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得

第一 公然政事ニ關係スル事

●民事訴訟法△參照法令

第二 政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ又ハ府縣郡市町村ノ議會ノ議員トナル事

第三 俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就ク事

第四 商業ヲ營ミ又ハ其ノ他行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ム事

第七十三條 第七十四條及第七十五條ノ場合ヲ除ク外判事ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其ノ意ニ反シテ轉官轉所停職免職又ハ減俸セラルルコトナシ但シ豫備判事タルトキ及補闕ノ必要ナル場合ニ於テ轉所ヲ命セラルルハ此ノ限ニ在ラス

前項ハ懲戒取調又ハ刑事所追ノ始若ハ其ノ間ニ於テ法律ノ許ス停職ニ關係アルコトナシ

第七十四條 判事身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルト

キハ司法大臣ハ控訴院又ハ大審院ノ總會ノ決議ニ依リ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得

第七十五條 法律ヲ以テ裁判所ノ組織ヲ變更シ又ハ之ヲ廢シタル場合ニ於テ其ノ判事ヲ補スヘキ闕位ナキトキハ司法大臣ハ之ニ俸給ノ半額ヲ給シテ闕位ヲ待タシムルノ權ヲ有ス

第七十六條 判事ノ官等俸給及進級ニ關ル規程ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第七十七條 判事ハ退職シタルトキハ恩給法ニ依リ恩給ヲ受ク

第七十八條 判事ノ俸給ハ判事ニ對シ懲戒取調又ハ刑事所追ヲ始メタルカ故ニ停職シタルニ拘ラス引續キ之ヲ給ス

第三章 檢事

第七十九條 檢事ハ勅任又ハ奏任トス

第七十六條及第七十七條ハ檢事ニモ亦之ヲ適用ス

明治廿三年六月二十日
法律第四十號
司法官吏恩給法參看

檢事總長及檢事長ノ職ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任檢事ノ中ヨリ之ヲ補ス其ノ他ノ檢事ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

第八十條 檢事ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其ノ意ニ反シテ之ヲ免職スルコトナシ

第八十一條 檢事ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ判事ノ裁判事務ニ干涉シ又ハ裁判事務ヲ取扱フコトヲ得ス

第八十二條 檢事ハ其ノ上官ノ命令ニ從フ

第八十三條 檢事總長檢事長及檢事正ハ其ノ各管轄區域内ノ裁判所ノ檢事ノ職務ノ範圍内ニ在ル事務ヲ自ら取扱フノ權ヲ有ス

檢事總長檢事及檢事正ハ其ノ管轄區域内ニ於テ或ル檢事ノ取扱フヘキ事務ヲ他ノ檢事ニ移スノ權ヲ有ス

第八十四條 司法警察官ハ檢事ノ職務上其ノ檢事局管轄區域内ニ於テ發シタル命令及其ノ檢事ノ上官ノ發シタル命令ニ從フ

司法省又ハ檢事局及内務省又ハ地方官廳ハ協議シテ警察官中各裁判所ノ管轄區域内ニ於テ司法警察官トシテ勤務シ前項ノ命令ヲ受ケ及之ヲ執行スル者ヲ定ム

第四章 裁判所書記

第八十五條 裁判所ニ第八條ニ從ヒ相應ナル員數ノ書記ヲ置ク

區裁判所ノ各判事及合議裁判所ノ各部ノ爲少クトモ一人ノ書記ヲ置ク

第八十六條 地方裁判所ノ書記課ニ監督書記ヲ置ク控訴院及大審院ノ書記課ニ書記長ヲ置ク

區裁判所及檢事局ノ書記課ニ二人以上ノ書記ヲ置キタルトキハ其ノ一人ヲ監督書記トス

民事訴訟法△參照法令

監督書記及書記長ハ各、其ノ上官ノ命令ニ服從シテ書記課ノ事務ヲ指揮監督ス
第八十七條 書記其ノ職務ノ範圍内ニ於テ取扱ヒタル事ハ既ニ定マリタル事務分配
上其ノ事他ノ書記ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其ノ効力ヲ失フコトナシ
第八十八條 書記ハ司法大臣之ヲ任シ及之ヲ補ス
書記長ハ奏任トス

書記長ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス
第八十九條 書記ニ任セララルルニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ試験ヲ經ルコトヲ要ス
志願者前項ノ試験ヲ受ケ得ルニ必要ナル資格並ニ此ノ試験及試験ヲ經タル後爲ス
ヘキ修習ニ關ル細則ハ裁判所書記登用試験規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第九十條 書記ニ任セラレタル者闕位ナキ間ハ豫備書記ニ補ス
豫備書記ハ書記トシテ臨時勤務ヲ命ゼラルルコトヲ得
第九十一條 書記ハ其ノ上官ノ命令ニ從フ
裁判所ノ開廷ニ於テハ裁判長ノ命令ニ從ヒ又判事一人ナルトキハ其ノ判事ノ命令
ニ從フ

書記ハ檢事局ニ勤務スルトキ又ハ特別ノ事務ニ付判事若ハ檢事ニ附屬シタルトキ
モ亦其ノ檢事局又ハ判事若ハ檢事ノ命令ニ從フ
前二項ノ命令ニシテ口述ノ書取ニ關ルカ又ハ書類記録ノ調製若ハ變更ニ關ル場合
ニ於テ其ノ調製若ハ變更ヲ正當ナラスト認ムルトキ書記ハ自己ノ意見ヲ記シテ之
ニ添ブルコトヲ得
前四項ニ掲ケタルモノヲ除ク外書記ノ職務及其ノ事務取扱方法ハ書記ニ關ル規則
中ニ司法大臣之ヲ定ム

第九十二條 合議裁判所長又ハ區裁判所ノ判事若ハ監督判事ハ其ノ裁判所ニ於テ修
習中ノ試補ニ書記ノ事務ヲ臨時取扱ハシムルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ職務上署名ヲ要スルトキハ特別ノ許可ヲ得テ署名スル旨ヲ記ス

第九十三條 豫備書記ハ事務ノ取扱ニ於テハ書記ニ同シ但シ書記規則中ニ制限ヲ設
ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五章 執達吏
第九十四條 各區裁判所ニ第九條ニ從ヒ相應ナル員數ノ執達吏ヲ置ク
第九十五條 執達吏ハ司法大臣之ヲ任シ及之ヲ補ス司法大臣ハ控訴院長ニ其ノ管轄
區域内ノ裁判所ノ執達吏ヲ任シ及補スルノ權ヲ委任スルコトヲ得
執達吏ニ任セララルルニ必要ナル資格並ニ試験ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第九十六條 執達吏ハ手数料ヲ受ケ其ノ手数料一定ノ額ニ達セサルトキ補助金ヲ受
ク
第九十七條 執達吏ハ其ノ所屬區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所管轄區域内ノ何レノ
場所ニ於テモ其ノ職務ヲ行フ

第九十八條 裁判所ヨリ發スル文書ニシテ送達ヲ要スルモノハ執達吏ヲ以テ之ヲ送
達ス但シ書記ヨリ直接ニ若ハ郵便ヲ以テ送達スルコトヲ法律ノ許ス場合ハ此ノ限
ニ在ラス
執達吏ハ刑事ニ付警察官ヲ以テ執行ヲ爲ササル場合ニ限り裁判所ノ裁判ヲ執行ス
前二項ニ掲ケタルモノヲ除ク外執達吏ノ權限ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依
ル

第九十九條 執達吏ハ其ノ職務ヲ適實ニ行フ爲保證金ヲ出スコトヲ要ス
執達吏ノ職務細則並ニ保證金ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第一百條 執達吏ハ其ノ所屬裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記及其ノ裁判所ヲ管轄

民事訴訟法△參照法令

百八十七

スル地方裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記及其書記ノ上官ノ命令ニ從フ
第六章 廷 丁

第一百一條 廷丁ハ大審院控訴院及地方裁判所ニ於テハ裁判所長區裁判所ニ於テハ地
方裁判所長之ヲ雇ヒ及其雇ヲ解ク

第一百二條 廷丁ハ開廷ニ出頭セシメ及司法大臣ノ發シタル一般ノ規則中ニ定メタル
事務ヲ取扱ハシム

區裁判所ハ執達吏ヲ用ヰルコト能ハサルトキハ其ノ裁判所所在地ニ於テ書類ヲ送
達スル爲廷丁ヲ用ヰルコトヲ得

第三編 司法事務ノ取扱

第一章 開 廷

第一百三條 開廷ハ裁判所又ハ支部ニ於テ之ヲ爲ス

司法大臣ニ於テ事情ニ因リ必要ナリト認ムルトキハ區裁判所ヲシテ其ノ管轄區域
内ノ一定ノ場所ニ於テ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第一百四條 訴訟審問ノ上席及指揮ハ合議裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル裁判長ニ屬
シ區裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル判事ニ屬ス

裁判長ニ屬スル權ハ裁判上一人ニテ執務スル判事ニモ亦屬ス

第一百五條 裁判所ニ於テ對審^ニ公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ハ其
ノ理由ト共ニ公衆ヲ退カシムル前之ヲ言渡ス此ノ場合ニ於テ裁判所ノ判決ヲ言渡
ストキハ再ヒ公衆ヲ入廷セシムヘシ

第一百六條 裁判長ハ公開ヲ停メタルトキモ入廷ノ特許ヲ與フルコトヲ至當ト認ムル
者ヲ入廷セシムルノ權ヲ有ス

第一百七條 裁判長ハ婦女兒童及相當ナル衣服ヲ著セサル者ヲ法廷ヨリ退カシムルコ
トヲ得其ノ理由ハ之ヲ訴訟ノ記録ニ記入ス

第一百八條 開廷中秩序ノ維持ハ裁判長ニ屬ス

第一百九條 裁判長ハ審問ヲ妨クル者又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者ヲ法廷ヨリ退カシムル
ノ權ヲ有ス

前項ニ掲ケタル違反者ノ行狀ニ因リ之ヲ勾引シ閉廷ノトキマテ之ヲ勾留スルノ必
要アリト認ムルトキ裁判長ハ之ヲ命令スルノ權ヲ有ス閉廷ノトキ裁判所ハ之ヲ釋
放スルコトヲ命シ又ハ五圓以下ノ罰金若ハ五日以内ノ勾留ニ處スルコトヲ得

此ノ處罰ニ對シテハ上告ヲ許シ控訴ヲ許サス且其ノ所爲ノ輕罪若ハ重罪ニ該ルハ
キモノナルトキハ之ニ對シテ刑事訴訟ヲ爲スコトヲ得

第一百十條 前條ノ規程ハ左ノ變更ヲ以テ當事者證人及鑑定人ニモ亦之ヲ適用ス

第一 裁判所ハ閉廷ヲ待タズシテ本條ノ違反者ヲ即時ニ罰スルコトヲ得

第二 違反者原告ナルトキハ裁判所ハ處罰ノ上仍本人宥恕ヲ請フカ又ハ恭順ヲ
表シテ不敬ノ罪ヲ謝スルマテ其ノ審問ヲ中止スルコトヲ得

第一百十一條 裁判長ハ不當ノ言語ヲ用ヰル辯護士ニ對シ同事件ニ付引續キ陳述スル
ノ權ヲ行フコトヲ禁スルコトヲ得其ノ禁止ハ此ノ行狀ニ付懲戒上ノ訴追ヲ爲スコ
トヲ妨ケス

第一百十二條 裁判所ノ開廷中秩序ヲ維持スル爲第九條第一百十條及第一百十一條ヲ以
テ與ヘタル權ハ豫審判事又ハ受命判事又ハ法律ニ從ヒ其ノ職務ヲ行フ試補モ亦之
ヲ行フコトヲ得

此ノ場合ニ於テノ異議ハ二十四時以内ニ其ノ判事又ハ試補ニ之ヲ申出ルコトヲ得
豫審判事又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ判事ノ屬
スル裁判所ノ刑事部若ハ刑事支部ニ於テ前項ノ異議ヲ裁判ス受命判事又ハ其ノ命

民事訴訟法△參照法令

ヲ受ケタル試補ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ判事ニ命シタル裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第一百十三條 第九條第一百十條第一百十一條及第一百十二條ヲ以テ與ヘタル權ヲ行ヒタルトキハ訴訟ノ記録ニ之ヲ記入シ及其ノ理由ヲ記ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ所爲ノ重罪若ハ輕罪ニ該ルヘキモノナルカ又ハ懲戒上罰スヘキモノナルトキハ詳細ニ之ヲ記入シ裁判長ハ其ノ事件ヲ更ニ處分スルノ權アル官廳ニ報告ヲ爲ス

第一百十四條 判事檢察事及裁判所書記ハ公開シタル法廷ニ於テハ一定ノ制服ヲ著ス前項ノ開廷ニ於テ審問ニ參與スル辯護士モ亦一定ノ職服ヲ著スルコトヲ要ス

第二章 裁判所ノ用語

第一百十五條 裁判所ニ於テハ日本語ヲ用ウ
當事者證人又ハ鑑定人ノ中日本語ニ通セサル者アルトキハ訴訟法又ハ特別法ニ通事ヲ用キルコトヲ要スル場合ニ於テ之ヲ用ウ

第一百十六條 通事ノ任命及使用竝ニ訴訟手續上其ノ行フヘキ職務ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第一百十七條 通事ノ得難キ場合ニ於テ書記其ノ言語ニ通スルトキハ裁判長ノ承諾ヲ得テ通事ニ用キラルルコトヲ得

第一百十八條 外國人ノ當事者タル訴訟ニ關係ヲ有スル者及其ノ訴訟ノ審問ニ參與スル官吏ノ或ル外國語ニ通スル場合ニ於テ裁判長便利ト認ムルトキハ其ノ外國語ヲ以テ口頭審問ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ審問ノ公正記録ハ日本語ヲ以テ之ヲ作ル

第三章 裁判ノ評議及言渡
第一百十九條 合議裁判所ノ裁判ハ此ノ法律ニ從ヒ定數ノ判事之ヲ評議シ及之ヲ言渡

ス

第二十條 四日以上引續クヘキ見込アル刑事ノ審問ニ於テ裁判所長ハ補充判事一人ヲ命シ之ニ立會ハシムルコトヲ得此ノ補充判事ハ其ノ審問中或ル判事ノ疾病

其ノ他ノ事故ニ因リ引續キ參與スルコトヲ得サル場合ニ於テ之ニ代リ審問及裁判ヲ完結スルノ權ヲ有ス

第二十一條 判事ノ評議ハ之ヲ公行セス但シ豫備判事及試補ノ傍聽ヲ許スコトヲ得

判事ノ評議ハ其ノ裁判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス其ノ評議ノ顛末竝ニ各判事ノ意見及多少ノ數ニ付テハ嚴ニ祕密ヲ守ルコトヲ要ス

第二十二條 評議ノ際各判事意見ヲ述ブルノ順序ハ官等ノ最モ低キ者ヲ始トシ裁判長ヲ終トス官等同キトキハ年少ノ者ヲ始トシテ受命ノ事件ニ付テハ受命判事ヲ始トス

第二十三條 裁判ハ過半數ノ意見ニ依ル

金額ニ付判事ノ意見三說以上ニ分レ其ノ說各々過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ルマテ最多額ノ意見ヨリ順次寫額ニ合算ス

刑事ニ付其ノ意見三說以上ニ分レ各々過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ルマテ被告人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス

第二十四條 判事ハ裁判スヘキ問題ニ付自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

第四章 裁判所及檢察局ノ事務章程

第二十五條 裁判所及檢察局ノ標準ト爲スヘキ規則ハ司法大臣之ヲ定ム
控訴院長及檢察長ハ前項ノ規則ニ依リ各自管轄區域内ノ裁判所及檢察局ニ對シテ

事務ノ一般ノ取扱ニ關リ成ルベク統一ヲ旨トシ殊ニ裁判所及檢事局ノ開廳時間及開廷ノ時日ニ付訓令ヲ發ス
大審院ハ自ラ其ノ事務章程ヲ定ム但シ之ヲ實施スル前司法大臣ノ認可ヲ受ク

第五章 司法年度及休暇

第二百二十六條 司法年度ハ一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ハル

第二百二十七條 裁判所ノ休暇ハ七月十二日ニ始マリ九月十日ニ終ハル

第二百二十八條 休暇中ハ左ノ事件ノ外既ニ著手シタル民事訴訟ヲ中止ス且新ナル訴訟ニ著手セズ

第一 爲替手形若ハ約束手形其ノ他ノ流通證書ニ關ル請求

第二 船舶又ハ運送貨又ハ積荷ニ對スル請求

第三 財産差押事件

第四 住家其ノ他ノ建物又ハ其ノ或ル部分ヲ受取明渡使用占據若ハ修繕ニ關リ又ハ賃借人ノ家具若ハ所持品ヲ賃借人ノ差押ヘタルコトニ關リ賃借人ト

賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

第五 養料ノ請求

第六 保證ヲ出サシムルノ請求

第七 取掛リタル建築ノ繼續ニ關ル事件

第八 前數項ニ掲ケタルモノヲ除ク外區裁判所ノ判事ニ於テ又ハ民事訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ休暇部長ニ於テ直ニ著手スヘキ緊急ノモノト

認メタル請求若ハ事件

第二百二十九條 休暇中ニ拘ラス刑事訴訟非訟事件判決執行破產事件並ニ民事訴訟法ニ依リ略式ヲ以テ取扱フコトヲ得ヘキ訴訟ハ之ヲ停止スルコトナシ

第二百三十條 合議裁判所ニ於テハ休暇中事務取扱ノ爲休暇部ト稱スル一若ハ二以上ノ部ヲ設ク

休暇部ノ組立ハ休暇ノ始マル前裁判所長之ヲ定ム第二十三條ハ此ノ部ニモ亦之ヲ適用ス

二人以上ノ判事ヲ置キタル區裁判所ノ休暇事務取扱方法ハ監督判事之ヲ定ム

第六章 法律上ノ共助

第二百三十一條 裁判所ハ裁判法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依リ互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

法律上ノ補助ハ別ニ法律ニ定メタル場合ノ外ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

第二百三十二條 檢事局モ亦各自ノ管轄區域内ニ於テ取扱フヘキ事務ニ付互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

第二百三十三條 裁判所書記課モ亦其ノ權内ノ事件又ハ其ノ配下ノ執達吏ノ權内ノ事件ニ付互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

第四編 司法行政ノ職務及監督權

第二百三十四條 合議裁判所長區裁判所ノ判事若ハ監督判事檢事總長判檢事長檢事正

ハ司法大臣ノ由テ以テ司法行政ノ職務ヲ行フノ官吏トス

第二百三十五條 司法行政監督權ノ施行ハ左ノ規程ニ依ル

第一 司法大臣ハ各裁判所及各檢事局ヲ監督ス

第二 大審院長ハ大審院ヲ監督ス

第三 控訴院長ハ其ノ控訴院及其ノ管轄區域内ノ下級裁判所ヲ監督ス

第四 地方裁判所長ハ其ノ裁判所若ハ其ノ支部及其ノ管轄區域内ノ區裁判所ヲ

監督ス

第一 司法大臣ハ各裁判所及各檢事局ヲ監督ス

第二 大審院長ハ大審院ヲ監督ス

第三 控訴院長ハ其ノ控訴院及其ノ管轄區域内ノ下級裁判所ヲ監督ス

第四 地方裁判所長ハ其ノ裁判所若ハ其ノ支部及其ノ管轄區域内ノ區裁判所ヲ

監督ス

第五 區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ハ其ノ裁判所所屬ノ書記及執達吏ヲ監督ス

第六 檢事總長ハ其ノ檢事局及下級檢事局ヲ監督ス

第七 檢事長ハ其ノ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル控訴院管轄區域内ノ檢事局ヲ監督ス

第八 檢事正ハ其ノ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル地方裁判所管轄區域内ノ檢事局ヲ監督ス

第三十六條 前條ニ掲ケタル監督權ハ左ノ事項ヲ包含ス

第一 官吏不適當又ハ不充分ニ取扱ヒタル事務ニ付其ノ注意ヲ促シ並ニ適當ニ其ノ事務ヲ取扱フコトヲ之ニ訓令スル事

第二 官吏ノ職務上下否トニ拘ラス其ノ地位ニ不相應ナル行狀ニ付之ニ諭告スル事

但シ此ノ諭告ヲ爲ス前其ノ官吏ヲシテ辯明ヲ爲スコトヲ得セシムヘシ

第三十七條 第十八條及第八十四條ニ掲ケタル官吏ハ第三百三十五條ニ依リ行フヘキ監督ヲ受クルノ官吏中ニ之ヲ包含ス

第三十八條 裁判所若ハ檢事局ノ官吏ニシテ適當ニ其ノ職務ヲ行ハサル者又ハ其ノ行狀其ノ地位ニ不相應ナル者ニ付第三百三十六條ヲ適用スルコト能ハサルトキハ懲戒法ニ從ヒ之ヲ訴追ス

第三十九條 前數條ニ掲ケタル司法行政ノ職務及監督權ハ判事若ハ檢事其ノ官吏タルノ資格又ハ其ノ他ノ資格ヲ以テ爲シタル事ニ對シテ起リタル請求ニ付其ノ請求ヲ満足セシムル爲之ヲ執行スルコトヲ得ス

第四十條 司法事務取扱ノ方法ニ對スル抗告殊ニ或ル事務ノ取扱方ニ對シ又ハ取扱ノ延滞若ハ拒絕ニ對スル抗告ハ此ノ編ニ掲ケタル司法行政ノ職務及監督權ニ依リ之ヲ處分ス

第四十一條 裁判所及檢事局ハ司法大臣又ハ監督權アル判事若ハ檢事ノ要求アルトキハ法律上ノ事項又ハ司法行政ニ關ル事項ニ付意見ヲ述フ

第四十二條 司法官廳ニ對シテ起リタル民事ノ訴訟ニ於テハ其ノ訴訟ヲ受ケタル裁判所ノ檢事局ハ司法官廳ヲ代表ス

第四十三條 此ノ編ニ掲ケタル前各條ノ規程ハ裁判上職務スル判事ノ裁判權ニ影響ヲ及ホシ又ハ之ヲ制限スルコトナシ

附則

第四十四條 此ノ法律ノ施行ニ關ル規程並ニ從來ノ法律ニシテ此ノ法律ニ牴觸スト雖モ當分ノ内仍ホ効力ヲ有セシムルモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

朕裁判所構成法施行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第二十二號 明治二十三年三月十八日

裁判所構成法施行條例

第一條 從來ノ治安裁判所ハ裁判所構成法ニ定メタル區裁判所トシ從來ノ始審裁判所ハ裁判所構成法ニ定メタル地方裁判所トシ又從來ノ控訴院大審院ハ裁判所構成法ニ定メタル控訴院大審院トス

第二條 始審裁判所從來ノ檢事局ハ裁判所構成法ニ定メタル地方裁判所ノ檢事局ト

民事訴訟法△參照法令

ス控訴院大審院ノ檢事局モ亦同シ

第三條 區裁判所ノ管轄區域ヲ爲ス町村ノ變更ハ之ヲ區裁判所管轄區域ニ及ホスモノトス

第四條 裁判所構成法實施前他ノ裁判所第一審トシテ受理シタル民事訴訟及刑事訴訟ニシテ同法ニ依リ區裁判所ノ管轄ニ屬シタルモノハ現在ノ儘相當ノ區裁判所ニ移ルモノトス既ニ爲シタル裁判ハ區裁判所之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五條 裁判所構成法ニ依リ地方裁判所ノ第二審ニ屬スヘキモ既ニ控訴院ニ於テ受理シタル事件ハ控訴院之ヲ裁判スヘシ又控訴院ノ管轄ニ屬スヘキ既ニ大審院ニ於テ受理シタル民事刑事事ノ上告ハ大審院之ヲ裁判スヘシ

第六條 裁判所構成法實施前重罪裁判所ニ於テ受理シタル刑事訴訟ハ現在ノ儘相當ノ地方裁判所ニ移ルモノトス既ニ爲シタル裁判ハ地方裁判所之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七條 裁判所構成法實施前始審裁判所ニ於テ受理シタル郡長區長戸長又ハ市長町長村長ニ對スル民事訴訟ハ同法ニ依リ區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノト雖其ノ地方裁判所之ヲ裁判シ控訴院ニ於テ受理シタル官廳ニ對スル民事訴訟ハ其ノ控訴院之ヲ裁判スヘシ

第八條 裁判所構成法實施前高等法院ニ於テ受理シタル刑事訴訟ハ現在ノ儘相當ノ裁判所ニ移ルモノトス高等法院ニ於テ裁判スヘキ事件ヲ通常裁判所ニ於テ受理シタルモノモ亦同シ

第九條 明治十八年第三十一號布告違警罪即決例ハ裁判所構成法ノ爲ニ變更テ受クルコトナシ
第十條 明治十八年第十三號布告普通治罪法陸軍治罪法海軍治罪法交渉ノ件處分

勅令第六十
四號(明治
二十一年九
月十七日)
治安裁判所
出張所ヲ置
キ登記事務
並期日ヲ定
ム取扱ハシ
ム其位置及
ヒ管轄區域
之ヲ定ム

(明治十五
年三月三日
第十六號布
告) 權戶集
治監ノ囚人
幽閉ノ者ト
シテ罪ヲ犯
スル者以下
ニ該官吏ニ
於テ裁判シ
テ罪ノ手續
モ便宜取計
重罪ハ但
重罪裁判所

法ハ裁判所構成法ノ爲ニ變更テ受クルコトナシ

第十一條 明治二十一年勅令第六十四號ハ仍効力ヲ有ス
區裁判所出張所ニ於テ判事差支アルトキハ裁判所書記ヲシテ登記事務ヲ取扱ハシ
ムルコトヲ得

北海道及島嶼ニシテ區裁判所遠隔ノ地方ニ於テ司法大臣ハ郡長町長又ハ村長ニ委
任シテ登記事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第十二條 東京地方裁判所管内小笠原島及伊豆七島ニ於テ民事刑事ノ訴訟ニシテ區
裁判所ノ裁判權ニ屬スルモノ及非訟事件ハ裁判所設置マテ島吏之ヲ取扱フ但シ刑
事訴訟ノ手續ハ便宜之ヲ取扱フコトヲ得

第十三條 沖繩縣ニ於テ民事刑事ノ訴訟及非訟事件ニシテ區裁判所及地方裁判所ノ
裁判權ニ屬スルモノハ裁判所設置マテ同縣官吏之ヲ取扱フ但シ控訴院ノ裁判權ニ
屬スルモノハ長崎控訴院ノ管轄トス

第十四條 樺戸空知釧路ノ集治監ノ囚人罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ノ裁判ニ關ル明
治十五年第十六號第四十一號及明治十八年第四十二號布告ハ仍効力ヲ有ス

第十五條 明治二十一年勅令第七十一號清國並ニ朝鮮國駐在領事裁判規則ハ裁判所
構成法ノ爲ニ變更テ受クルコトナシ

第十六條 裁判所構成法實施ノ際在職ノ裁判官檢察官ハ同法第二編第一章ノ要件ヲ
必要トセス

第十七條 裁判所構成法實施ノ際在職ノ書記ハ同法第二編第四章第八十九條ノ要件
ヲ必要トセス
第十八條 裁判所構成法實施後三年間ハ司法大臣ハ試補實地修習ノ時間ヲ一年六箇

民事訴訟法△參照法令

月マテニ減縮スルコトヲ得

明治十七年太政官達第百二號判事登用規則及明治二十年勅令第三十七號文官試驗試補及見習規則ニ依リ試補ト爲リタル者ハ第二回試驗ヲ要セスシテ之ヲ判事又ハ檢事ニ任スルコトヲ得

第十九條 裁判所構成法實施後一年間ハ司法大臣ハ同法第二編第二章第六十九條及第七十條ノ規程ニ拘ラス補職ヲ爲スコトヲ得

第二十條 三年以上裁判官又ハ檢察官ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上以上舊參事院議官又ハ議官補ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上以上法制局參事官ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上以上司法省高等官(會計局ノ高等官ヲ除ク)ノ職ヲ奉シタル者ハ裁判所構成法實施後一年間ハ之ヲ判事又ハ檢事ニ任スルコトヲ得

第二十一條 裁判所構成法第二編第二章第七十四條第七十五條ハ檢事ニモ亦之ヲ適用ス

朕民事訴訟法施行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

法律第五十號 明治二十三年七月十六日

民事訴訟法施行條例

第一條 民事訴訟法實施前ニ提起シタル訴訟ニ付テノ爾後ノ訴訟手續ハ民事訴訟法ニ依リテ之ヲ完結ス

第二條 民事訴訟法實施前ニ開席ノ儘言渡シタル裁判ニ對シテハ民事訴訟法ニ依リテ故

シ但重罪ハ限室罪ニ屬ス

障ヲ申立ツルコトヲ得 故障ノ期間ハ新法ニ依リ其實施ノ日ヨリ起算ス但其期間カ舊法ノ控訴上告期限ヲ超過スルトキハ其期限ニ從フ

第三條 民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ニ對スル控訴上告期限ハ新法ノ控訴上告期間ニ依リ其實施ノ日ヨリ起算ス但其期間カ舊法ノ控訴上告期限ヲ超過スルトキハ其期限ニ從フ

第四條 民事訴訟法實施前ニ確定シタル裁判ニ對シテハ民事訴訟法ニ依リ再審ヲ求ムル訴ヲ爲スコトヲ得但民事訴訟法實施前ニ再審ノ條件生シタルトキハ其條件ノ生シタル日ヨリ再審ノ期間ヲ起算ス

第五條 民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ノ強制執行ハ民事訴訟法ニ依リ之ヲ完結ス但シ既ニ身代限ノ揭示ヲ爲シ又ハ公賣ニ著手シタル事件ハ其手續ノ終了マテハ舊法ニ從フ

第六條 民事訴訟法實施前ニ言渡シタル裁判ノ執行命令ヲ得サル場合ニ於テ民事訴訟法第四百九十九條ノ規定ニ從ヒ證明書ヲ要スル者ハ其訴訟記録ノ存在スル裁判所ニ之ヲ求ムルコトヲ得

第七條 民事訴訟法實施前既ニ勸解ヲ出願シ未タ完結ニ至ラサル事件ハ民事訴訟法第三百八十一條ノ規定ニ從ヒ區裁判所繼續シテ之ヲ完結スルコトヲ得

第八條 民事訴訟法ノ規定ニ依リ市町村長ノ爲ス可キ職務ハ市町村長ヲ置カサル地ニ在テハ其職務ヲ行フ吏員ニ屬ス

第九條 民事訴訟法ニ於テ親族ト稱スル者ハ當分ノ内刑法ノ親屬例ニ依ル

第十條 婚姻離婚及養子ノ縁組離縁ニ關スル訴ニ付テハ特別ノ慣例アルモノハ當分ノ内其慣例ニ從フ

民事訴訟法△參照法令

刑例ハ刑及第百四十五條參看

（明治八年）
 第六號布告
 第一條 明治八年第六號布告ハ當分ノ内其効力チ有スルモノトス
 第十二條 明治十年第十九號布告控訴上告手續第十六條中大審院トアルチ上告裁判所ト改メ該條ハ當分ノ内其効力チ有スルモノトス

朕執達吏規則ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行ス
 ヘキコトヲ命ス

御名 御璽

法律第五十一號 明治二十三年七月二十四日

執達吏規則

第一條 執達吏ハ區裁判所ニ屬シ法律ニ從ヒ訴訟ニ關スル書類ヲ送達シ及裁判ヲ執行スルモノトス
 第二條 執達吏ハ當事者ノ委任ニ依リ左ノ事務ヲ取扱フコトヲ得
 第一 告知及催告ヲ爲スコト
 第二 動産不動産ノ任意競賣ヲ爲スコト
 第三 拒證書ヲ作ルコト
 第三條 執達吏ハ法律規則ニ定メタル職務ノ外裁判所及檢事局ノ命令ニ依リ其職務ニ應スル事務殊ニ左ノ事務ヲ取扱フノ義務アリ
 第一 書類物品ノ送付ヲ爲スコト
 第二 罰金科料過料ヲ徴收シ及設收物品ヲ取上ケ若クハ賣却スルコト
 第三 令狀ノ執行ヲ爲スコト
 第四條 執達吏ハ所屬區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ノ監督ヲ受ク

他ノ判事又ハ檢事ニシテ職務上事務ヲ命シタルトキハ其事務ニ限リ執達吏ニ對シ監督權ヲ有ス

第五條 執達吏ハ所屬區裁判所所在地ニ住居ヲ定ムヘシ但地方裁判所長ノ許可ヲ得タルトキハ其區裁判所管轄内ニ限リ他ノ地ニ住居ヲ定ムルコトヲ得
 第六條 執達吏ハ所屬區裁判所所在地ニ役場ヲ設ケヘシ
 第七條 一區裁判所ニ數名ノ執達吏アルトキハ裁判所及檢事局ノ命令ニ依ル事務ト裁判所書記ヲ經テ委任スヘキ事務ト各執達吏ニ分配スヘシ此分配ハ成ルヘク土地ノ區域ニ從フヘシ
 事務分配ハ毎司法年度ノ終ニ於テ區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事前以テ之ヲ定ム
 執達吏ノ爲シタル事務ハ事務分配上其事務他ノ執達吏ニ屬シタルトノ事實ノミニ因リ其効力ヲ失フコトナシ
 第八條 執達吏ハ左ノ場合ニ於テハ其職務ノ施行ヨリ除斥セラルヘシ
 第一 自己又ハ其婦カ當事者若クハ被告者タルトキ又ハ當事者ノ一方若クハ雙方又ハ被害者ト共同權利者共同義務者若クハ償還義務者タルノ關係ヲ有スルトキ
 第二 自己又ハ其婦カ當事者ノ一方若クハ雙方又ハ被害者又ハ其配偶者ト親族ナルトキ但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ
 第三 自己カ同一ノ事件ニ付證人若クハ鑑定人ト爲リテ訊問ヲ受クルトキ又ハ法律上代理人ト爲ルノ權利ヲ有スルトキ若クハ之ヲ有シタルトキ
 第九條 執達吏ハ民事訴訟ニ付テ其婦又ハ自己若クハ其婦ノ親族ノ爲ニノミ訴訟代理人及輔佐人トシテ法廷ニ出ルコトヲ得但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト

民事訴訟法△參照法令

事○第四條
前條ノ取書
證書ヲ受取
置キタル上
ハ本人見當
又ハ搜索三
十六ヶ月ノ
時限ハ明治
六年十一月
第三百六十
二號布告出
致ニハ加算
内ニハ加算
致サル事

（明治十年
二月第十九
號布告）第
上告手續第
十六條（第
十六條）上
告ハ其ノ上
者ハ其ノ添
告狀ニ添テ
金十圓ヲ大
審院ニ預ケ
ヘシ若シ其
金高ラ預キ
サルトキハ
上告ヲ爲ス
コトヲ得ス
○第一若シ
上告ヲ取リ
テ其ノ預キ
テハ預リス
○金

雖亦同シ

第十條 執達吏ハ其職務ヲ行フヘキ命令若クハ委任ヲ受クルトキハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十一條 執達吏ハ特別ノ命令若クハ委任ヲ受ケタル場合ノ外自己ノ責任ヲ以テ左ニ掲クル者ニ臨時其職務ノ執行ヲ委任スルコトヲ得
第一 執達吏ノ登用試験ニ及第シタル者
第二 執達吏ノ職務修習者ニシテ三箇月以上其職務ヲ修習シタル者
第三 裁判所書記ノ登用試験ニ及第シタル者
第四 區裁判所一人ノ判事若クハ監督判事ニ於テ臨時執達吏ノ職務ヲ行フニ適當ト認メタル者

第十二條 執達吏正當ノ理由アリテ其職務ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ之ヲ委任スルコトヲ得サルトキハ命令ヲ爲シタル裁判所及檢事局又ハ委任ヲ爲シタル本人ニ速ニ其旨ヲ通知スヘシ
委任ヲ爲シタル本人ニ通知スルコト能ハサルトキ又ハ急速ノ處分ヲ要スルトキハ其旨ヲ區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ニ申立ツヘシ

第十三條 前條ノ場合其他執達吏差支アルトキハ區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ第十一條ニ掲クル者ニ執達吏ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十四條 執達吏ハ一定ノ制服ヲ著スヘシ
臨時職務執行ノ委任ヲ受ケタル者ハ區裁判所ヨリ交付スヘキ鑑札ヲ携帯スヘシ

第十五條 執達吏ハ裁判所書記ヲ經タルト否トナ問ハス委任ヲ受ケ職務ヲ行フニ付テハ定規ノ手数料ヲ受ケ及立替金ノ辨濟ヲ受ケ

執達吏ハ定規ノ手数料ヲ増減シ又ハ手数料及立替金ノ外報酬ヲ受クルコトヲ得ス
第十六條 執達吏第三條ニ掲クル職務ヲ行フニ付テハ立替金ノ外手数料ヲ受クルコトヲ得ス
第十七條 執達吏第十一條ノ場合ニ於テ臨時職務執行ノ委任ヲ爲シタルトキハ其委任ヲ受ケタル者ニ報酬トシテ手数料十分ノ三以上ヲ支給スヘシ
第十八條 第十三條ノ場合ニ於テ臨時執達吏ノ職務ヲ行ヒタル者ハ其職務ニ付定メタル手数料ヲ受ケ及立替金ノ辨濟ヲ受ケ
第十九條 執達吏一年間ニ收入セシ手数料百八拾圓ニ充タサルトキハ國庫ヨリ其不足額ヲ支給ス
第二十條 執達吏死亡シタルトキ又ハ停職免職若クハ勾留セラレタルトキハ區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ハ左ノ處分ヲ爲スヘシ
第一 官印帳簿其他職務ニ關スル書類ヲ區裁判所ニ差出サシムルコト
第二 執達吏職務上保管シタル物品及書類ノ保全ニ必要ノ手續ヲ爲スコト
第二十一條 執達吏ハ官吏恩給法ニ照シ恩給ヲ受ク其恩給年額ハ第十九條ニ定メタル金額ヲ俸給額ト看做シテ算定ス
第二十二條 執達吏ハ此規則ニ依ルノ外總テ一般官吏ノ例ニ依ル

第二若シ上
告ヲ取リ上
告狀ニ添テ
金十圓ヲ大
審院ニ預ケ
ヘシ若シ其
金高ラ預キ
サルトキハ
上告ヲ爲ス
コトヲ得ス
○第一若シ
上告ヲ取リ
テ其ノ預キ
テハ預リス
○金

第二十三條 執達吏ヲ置カサル間ハ區裁判所書記執達吏ノ職務ヲ行フ此場合ニ於テハ自己ノ責任ヲ以テ第十一條ニ掲クル者又ハ自己ノ適當ト思量スル者ニ臨時其職務ノ執行ヲ委任スルコトヲ得
裁判所書記前項ノ委任ヲ爲シタルトキハ委任ヲ受ケタル者ニ執達吏ノ職務ニ付定メタル手数料十分ノ七以上ヲ支給スヘシ

民事訴訟法△參照法令

朕執達吏手数料規則ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

法律第五十一號 明治二十三年七月二十四日

執達吏手数料規則

第一條 執達吏ハ此規則ニ從ヒ手数料ヲ受ク

第二條 書類送達ノ手数料ハ一通ニ付五錢トス

第三條 有體動産及未タ土地ヨリ離レサル果實並爲替證券其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ノ差押 假差押ニ付テノ手数料ハ左ノ區別ニ從フ

執行スヘキ債權額

貳拾圓マテ	三拾錢
五拾圓マテ	五拾錢
百圓マテ	七拾錢
貳百五拾圓マテ	壹圓
五百圓マテ	壹圓貳拾五錢
千圓マテ	壹圓五拾錢

千圓ヲ超ユルトキハ貳圓トス

若シ執務三時間以上ニ涉ルトキハ一時間毎ニ本條ニ定メタル手数料ノ十分ノ三ヲ加フ但其執務一時間ニ滿タサルモ一時間ト看做シテ算定ス

第四條 執達吏差押、假差押ヲ爲スヘキ場所ニ臨ムト雖差押ヲヘキ物ナキトキ又ハ

民事訴訟法第五十六條第二項第六百八十六條第二項第六百八十五條ノ場
合及既ニ差押、假差押ニ著手シタル執達吏ノ死亡若クハ其他理由ニ依リ委任ノ消
滅シタルトキ物ヲ換償スル爲其委任ヲ引受ケタル場合ニ於テハ執達吏ハ第三條ニ
定メタル手数料ノ半額ヲ受ク

差押ヲヘキ物ヲ換償スルモ強制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ前
條ニ定メタル手数料ノ半額ヲ受ク

第五條 民事訴訟法第五十六條第二項第六百八十六條第二項第六百八十五條ノ場
合及既ニ差押、假差押ニ著手シタル執達吏ノ死亡若クハ其他理由ニ依リ委任ノ消
滅シタルトキ物ヲ換償スル爲其委任ヲ引受ケタル場合ニ於テハ執達吏ハ第三條ニ
定メタル手数料ノ半額ヲ受ク

第六條 特定ノ動産又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ債務者ヨリ取上ケ之ヲ債權者ニ引渡
ス場合ニ於テハ其手数料ヲ五拾錢トシ若シ執務二時間以上ニ涉ルトキハ一時間毎
ニ拾五錢ヲ加フ但其執務一時間ニ滿タサルモ一時間ト看做シテ算定ス

前項ノ場合ニ於テ執達吏其場所ニ臨ムト雖引渡スヘキ物ナキトキハ前項ニ定メタ
ル手数料ノ半額ヲ受ク

第七條 民事訴訟法第七百三十一條第一項ノ場合ニ於テハ執務三時間以内ハ手数料
ヲ五拾錢トス若シ其執務三時間以上ニ涉ルトキハ一時間毎ニ拾五錢ヲ加フ時其執
務一時間ニ滿タサルモ一時間ト看做シテ算定ス

前項ノ場合ニ於テ執達吏其場所ニ臨ムト雖船舶アラサルトキハ前項ニ定メタル手
數料ノ半額ヲ受ク

第八條 民事訴訟法第六百四十三條第三項ニ依リ不動産ノ取調ヲ爲ス場合ニ於テハ
第三條ニ定メタル區別ニ從ヒ其手数料ヲ受ク

第九條 動産、不動産及船舶ノ競賣ニ付テノ手数料ハ左ノ區別ニ從フ但競賣ニ依リ
得タル金額執行スヘキ債權額ニ超過スルハ其債權額ヲ以テ競賣金額ト看做ス

競賣金額 手数料
貳拾圓マテ 六拾錢

民事訴訟法△參照法令

キ物アハ照サ
ルトキハ作
査調ニシタ
リ既シタル
ヲ遠シタル
シハ六付ス
五條ノ有體
動産ノ請求
テハ其動産
ヲ債権者ノ
委任シタル
執達吏ニ引
渡シ可キコ
トヲ命ス可
シト
シト
法第七百三
十一條第一
項ノ債権者
カ不動産又
ハ人ノ住居
ハ人ノ住居
引渡シ可キ
明渡シ可キ
更ハ債権者
ノ占有ヲ解
キ債権者ニ
其占有ヲ得
セシム可シ
法第六百三
十四條第三

- 五拾圓マテ
- 壹圓
- 百圓マテ
- 壹圓五拾錢
- 貳百五拾圓マテ
- 貳圓
- 五百圓マテ
- 貳圓五拾錢
- 千圓マテ
- 四圓

任意競賣ニ付テモ亦前項ニ同シ

第十條 執達吏執行行為ヲ爲スヘキ場所ニ臨マサル以前ニ民事訴訟法第五百五十一條ニ依リ又ハ委任ノ消滅ニ依リ強制執行ヲ止メタルトキ又ハ支拂若クハ引渡ニ依リ強制執行ノ委任終了シタルトキハ各本條ニ定メタル手数料ノ十分ノ三ヲ受ク但第九條ノ場合ニ於テハ其手数料ヲ三拾錢トス

第十一條 執達吏執行行為ヲ爲スヘキ場所ニ臨ミタル後民事訴訟法第五百五十條ニ依リ又委任ノ消滅ニ依リ強制執行ヲ止メタルトキ又ハ支拂若クハ引渡ニ依リ強制執行ノ委任終了シタルトキハ各本條ニ定メタル手数料ノ半額ヲ受ク但第九條ノ場合ニ於テハ其手数料ヲ五拾錢トス

第十二條 第三條乃至第十一條ノ手数料ヲ受クヘキ行為ニハ強制執行ノ場合ニ於ケル左ノ行為ヲ包含ス

- 第一 警察上ノ援助ヲ求メ又ハ證人鑑定人ノ立會ヲ爲サシムルコト
- 第二 執行行為ニ屬スル催告其他ノ通知ヲ爲シ又ハ書類ノ送達ヲ爲スコト
- 第三 記名證券ヲ買主ノ氏名ニ書換ヘ及必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リ爲スコト
- 第四 支拂其他ノ給付差押金及賣却金ヲ受取り、交付シ若クハ供託シ又ハ受取證書ヲ交付シ又ハ差押物ヲ還付スルコト

項ノ地所ニ
付テハ國郡
市町村ノ字
番別ノ地目
反別ノ地目
坪數ノ地目
反別ノ地目
及ヒ其地所
ノ付キ納ム
可キ其納ム
ノ租稅其他
ノ公課ヲ證
ス可キ證書
法第五百五
十條第一項
ノ執行ハ左
ノ場合ニ出
シタル場合
ニ於テハ
之ヲ止メ
可シ第一
項ノ執行ハ
其執行若ク
ハ其執行若
クハ其執行
ヲハ其執行
ヲハ其執行
カアル裁判

第五條 競賣ノ公告ヲ爲スコト

第十三條 執達吏ハ立替金トシテ左ノ費用ノ辨濟ヲ受ク

- 第一 書記料
- 第二 郵便料、電信料
- 第三 公告料
- 第四 證人、鑑定人ノ手當
- 第五 職工、役夫ノ手當
- 第六 有價證券ノ記名書換及流通ヲ止メタル證券ノ流通ヲ回復スル爲ノ費用
- 第七 人及物ノ送致費用
- 第八 物ノ保存並監視ノ費用
- 第九 果實收獲ノ費用
- 第十 旅費

第十四條 前條ノ書記料ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ受ク

- 第一 法律ニ依リ又ハ利害關係人ノ求ニ依リ證書及記録中ニ存スル書類ノ謄本ヲ作りタルトキ但法律ニ依リ交付スヘキ送達證書ノ謄本ハ此限ニ在ラス
- 第二 供託ヲ爲スニ際シ執行裁判所ニ差出スヘキ届書ヲ作りタルトキ
- 第三 差押命令ノ送達後第三債務者ノ爲ス陳述ヲ筆記シタルトキ

書記料ハ半枚十二行二十字詰ニ付貳錢五厘トス但十二行ニ滿タサルモ半枚ト看做シテ算定ス

第十五條 強制執行ニ關セザル告知及催告ヲ爲ストキハ其手数料拾錢ヲ受ク

第十六條 執達吏拒證書ヲ作りタルトキハ手数料拾錢ヲ受ク

拒者ノ營業場又ハ住居ノ問合ヲ爲シ拒證書ヲ作りタルトキハ手数料貳拾錢ヲ受ク

民事訴訟法△參照法令

横濱					千葉											
相模	相模	相模	武藏	八王子	千葉	松戸	佐倉	一宮本郷	八日市場	佐原						
相模	相模	相模	相模	相模	相模	上總	下總	上總	下總	下總						
高座郡内 明治村	高座郡内 松林村	高座郡内 鶴嶺村	高座郡内 六會村	高座郡内 藤澤大坂町	高座郡内 小出村	高座郡内 鶴見村	高座郡内 茅ヶ崎村	相模 三浦郡	武藏 南多摩郡 西多摩郡 北多摩郡	八王子 相模 津久井郡 高座郡内 海老名村 有馬村	千葉 市原郡内 鶴間村 千種村 内田村	松戸 東葛飾郡 南相馬郡	佐倉 印旛郡 下埴生郡	一宮本郷 長柄郡 上埴生郡 夷隅郡	八日市場 匝瑳郡 海上郡 香取郡内 吉田村	佐原 香取郡内 相模村
高座郡内 松林村	高座郡内 鶴嶺村	高座郡内 六會村	高座郡内 藤澤大坂町	高座郡内 小出村	高座郡内 鶴見村	高座郡内 茅ヶ崎村	高座郡内 鶴見村	相模 三浦郡	武藏 南多摩郡 西多摩郡 北多摩郡	八王子 相模 津久井郡 高座郡内 海老名村 有馬村	千葉 市原郡内 鶴間村 千種村 内田村	松戸 東葛飾郡 南相馬郡	佐倉 印旛郡 下埴生郡	一宮本郷 長柄郡 上埴生郡 夷隅郡	八日市場 匝瑳郡 海上郡 香取郡内 吉田村	佐原 香取郡内 相模村

民事訴訟法△參照法令

水戸					太田					土浦					麻生				
水戸	水戸	水戸	水戸	水戸	太田	太田	太田	太田	太田	土浦	土浦	土浦	土浦	土浦	麻生	麻生	麻生	麻生	麻生
水戸市 東茨城郡 西茨城郡	水戸市 東茨城郡 西茨城郡	水戸市 東茨城郡 西茨城郡	水戸市 東茨城郡 西茨城郡	水戸市 東茨城郡 西茨城郡	久慈郡 多賀郡	久慈郡 多賀郡	久慈郡 多賀郡	久慈郡 多賀郡	久慈郡 多賀郡	筑波郡 内	筑波郡 内	筑波郡 内	筑波郡 内	筑波郡 内	鹿島郡 内	鹿島郡 内	鹿島郡 内	鹿島郡 内	鹿島郡 内
水戸市 東茨城郡 西茨城郡	水戸市 東茨城郡 西茨城郡	水戸市 東茨城郡 西茨城郡	水戸市 東茨城郡 西茨城郡	水戸市 東茨城郡 西茨城郡	久慈郡 多賀郡	久慈郡 多賀郡	久慈郡 多賀郡	久慈郡 多賀郡	久慈郡 多賀郡	筑波郡 内	筑波郡 内	筑波郡 内	筑波郡 内	筑波郡 内	鹿島郡 内	鹿島郡 内	鹿島郡 内	鹿島郡 内	鹿島郡 内

京

京							
宇都宮				龍ヶ崎			
下妻		宇都宮	眞岡	太田	栃木	佐野	浦和
常陸	常陸	下野	下野	下野	下野	下野	武蔵
北相馬郡	筑波郡内	高野郡	高野郡	高野郡	高野郡	高野郡	高野郡
信太郡内	信太郡内	信太郡内	信太郡内	信太郡内	信太郡内	信太郡内	信太郡内
江戶崎町	江戶崎町	江戶崎町	江戶崎町	江戶崎町	江戶崎町	江戶崎町	江戶崎町
舟島村	舟島村	舟島村	舟島村	舟島村	舟島村	舟島村	舟島村
沼里村	沼里村	沼里村	沼里村	沼里村	沼里村	沼里村	沼里村
安中村	安中村	安中村	安中村	安中村	安中村	安中村	安中村
浮島村	浮島村	浮島村	浮島村	浮島村	浮島村	浮島村	浮島村
君原村	君原村	君原村	君原村	君原村	君原村	君原村	君原村
阿見村	阿見村	阿見村	阿見村	阿見村	阿見村	阿見村	阿見村
鳩崎村	鳩崎村	鳩崎村	鳩崎村	鳩崎村	鳩崎村	鳩崎村	鳩崎村

民事訴訟法△參照法令

浦和										
川越			幸手			武蔵			越ヶ谷	
武蔵		下野	武蔵		下野	武蔵		下野	武蔵	
大里郡	比企郡内	入間郡	北葛飾郡内	南葛飾郡内	北葛飾郡内	中葛飾郡内	北葛飾郡内	北葛飾郡内	北葛飾郡内	南葛飾郡内
名栗村	秩父郡内	比企郡内	三狭島村	大越村	須影村	高柳村	須影村	北葛飾郡内	北葛飾郡内	南葛飾郡内
吾野村	秩父郡内	比企郡内	大桑村	加須村	志多見村	不助村	加須村	北葛飾郡内	北葛飾郡内	南葛飾郡内
峯野村	秩父郡内	比企郡内	加須村	加須村	志多見村	不助村	加須村	北葛飾郡内	北葛飾郡内	南葛飾郡内
男衾郡	秩父郡内	比企郡内	加須村	加須村	志多見村	不助村	加須村	北葛飾郡内	北葛飾郡内	南葛飾郡内
兒玉郡	秩父郡内	比企郡内	加須村	加須村	志多見村	不助村	加須村	北葛飾郡内	北葛飾郡内	南葛飾郡内
賀美郡	秩父郡内	比企郡内	加須村	加須村	志多見村	不助村	加須村	北葛飾郡内	北葛飾郡内	南葛飾郡内
横見郡	秩父郡内	比企郡内	加須村	加須村	志多見村	不助村	加須村	北葛飾郡内	北葛飾郡内	南葛飾郡内
伊草村	秩父郡内	比企郡内	加須村	加須村	志多見村	不助村	加須村	北葛飾郡内	北葛飾郡内	南葛飾郡内
伊草村	秩父郡内	比企郡内	加須村	加須村	志多見村	不助村	加須村	北葛飾郡内	北葛飾郡内	南葛飾郡内
伊草村	秩父郡内	比企郡内	加須村	加須村	志多見村	不助村	加須村	北葛飾郡内	北葛飾郡内	南葛飾郡内
伊草村	秩父郡内	比企郡内	加須村	加須村	志多見村	不助村	加須村	北葛飾郡内	北葛飾郡内	南葛飾郡内
伊草村	秩父郡内	比企郡内	加須村	加須村	志多見村	不助村	加須村	北葛飾郡内	北葛飾郡内	南葛飾郡内

靜										
岡吉										
滋	吉	下	沼	藤	靜	富	高			
松遠江	原駿河	田伊豆	津伊豆	枝遠江	岡駿河	岡上野	崎上野			
佐野郡 城東郡	山名郡 磐田郡 敷知郡 長上郡 濱名郡 引佐郡 龜玉郡	賀茂郡 下田町 南中津村 上河津村 稻取村 朝日村 竹麻村 南崎村 松崎村 南上村 下河津村	伊豆郡 熱海村 網代村 多賀村 中大見村 下大見村 上大見村 對馬村	駿河郡 中川根村 上川根村	志太郡 益津郡	靜岡市 有渡郡 安倍郡 菫原郡	北甘樂郡	西郡馬郡 碓氷郡 綠野郡 多胡郡 南甘樂郡	片岡郡 高崎町 中川町 東郷村 清里村 倉賀野町 會賀野町	岩鼻村 六郷村 上長野村 久留馬村 京ヶ島村 新高尾村 金古町

控										
前										
橋										
太	中之條	沼	前	大	熊					
田上野	上野	田上野	橋上野	宮武藏	谷武藏					
山田郡 色磨郡 新田郡 桐生町 境野村	吾妻郡 中之條町 澤田村	利根郡 北勢郡 吾妻郡 久賀村	山田郡 福岡村 大間々町	東群馬郡 西群馬郡 兩神村 下吉田村 浦山田村 三澤村 大宮町	秩父郡 秩父村 竹澤村 大野村 大河原村 機川村	比企郡 高坂村 大岡村 野本村 平村	北河原郡 成田村 星田村 荒木村 川俣村	那珂郡 北埼玉郡 上中條村 星宮村 須加村 羽生町	新田郡 共和村 太田村	大塚村 下忍村 屈巢村 眞名坂村 藤岡村 關根村
川内村 廣澤村 梅田村 相生村 菲川村 毛里田村	坂上村 伊參村 太田村 名久田村 岩島村	伊香保村 金島村 長尾村 古卷村 白郷井村 小野上村 高井村 草津村	伊香保村 總社町 金島村 長尾村 駒寄村 白郷井村 小野上村 高井村 草津村	横瀨村 白鳥村 大田村 野上村 長若村 小國村 小尾野村 上吉田村 倉尾村 三田村	芦ヶ久保村 大瀨村 高篠村 白川村 中谷村 原谷村 影野村 皆野村	玉川村 菅谷村 福田村 宮前村 七郷村 明覺村 八和田村 小川町 今宿村	共和村 太田村 大塚村 下忍村 屈巢村 眞名坂村 藤岡村 關根村	上中條村 星宮村 須加村 羽生町 共和村 太田村 大塚村 下忍村 屈巢村 眞名坂村 藤岡村 關根村	新田郡 共和村 太田村 大塚村 下忍村 屈巢村 眞名坂村 藤岡村 關根村	北河原郡 北河原村 長野村 岩根村

新						訴					
新	瀧三	新	岩村田	上田	伊那	飯田	飯田	伊那	上田	岩村田	新
後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後	後
道米仁舛小能熊	西南瀧原	西瀧原	新瀧原	中瀧原	飯田	飯田	飯田	飯田	飯田	飯田	飯田
上納夕瀧吉高森	味下五瀧	味下五瀧	味下五瀧	味下五瀧	味下五瀧	味下五瀧	味下五瀧	味下五瀧	味下五瀧	味下五瀧	味下五瀧
村津村村村村	村津村村村村	村津村村村村	村津村村村村	村津村村村村	村津村村村村	村津村村村村	村津村村村村	村津村村村村	村津村村村村	村津村村村村	村津村村村村
島共稻國秋三橫	島共稻國秋三橫	島共稻國秋三橫	島共稻國秋三橫	島共稻國秋三橫	島共稻國秋三橫	島共稻國秋三橫	島共稻國秋三橫	島共稻國秋三橫	島共稻國秋三橫	島共稻國秋三橫	島共稻國秋三橫
方和島上津方田	方和島上津方田	方和島上津方田	方和島上津方田	方和島上津方田	方和島上津方田	方和島上津方田	方和島上津方田	方和島上津方田	方和島上津方田	方和島上津方田	方和島上津方田
村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村
橫曲石打川地小	橫曲石打川地小	橫曲石打川地小	橫曲石打川地小	橫曲石打川地小	橫曲石打川地小	橫曲石打川地小	橫曲石打川地小	橫曲石打川地小	橫曲石打川地小	橫曲石打川地小	橫曲石打川地小
戸通瀨越前藏池	戸通瀨越前藏池	戸通瀨越前藏池	戸通瀨越前藏池	戸通瀨越前藏池	戸通瀨越前藏池	戸通瀨越前藏池	戸通瀨越前藏池	戸通瀨越前藏池	戸通瀨越前藏池	戸通瀨越前藏池	戸通瀨越前藏池
村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村
五中卷瀧木笈大	五中卷瀧木笈大	五中卷瀧木笈大	五中卷瀧木笈大	五中卷瀧木笈大	五中卷瀧木笈大	五中卷瀧木笈大	五中卷瀧木笈大	五中卷瀧木笈大	五中卷瀧木笈大	五中卷瀧木笈大	五中卷瀧木笈大
之合村前山砂關	之合村前山砂關	之合村前山砂關	之合村前山砂關	之合村前山砂關	之合村前山砂關	之合村前山砂關	之合村前山砂關	之合村前山砂關	之合村前山砂關	之合村前山砂關	之合村前山砂關
村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村
三和漆赤河粟東	三和漆赤河粟東	三和漆赤河粟東	三和漆赤河粟東	三和漆赤河粟東	三和漆赤河粟東	三和漆赤河粟東	三和漆赤河粟東	三和漆赤河粟東	三和漆赤河粟東	三和漆赤河粟東	三和漆赤河粟東
針納山塚西生太	針納山塚西生太	針納山塚西生太	針納山塚西生太	針納山塚西生太	針納山塚西生太	針納山塚西生太	針納山塚西生太	針納山塚西生太	針納山塚西生太	針納山塚西生太	針納山塚西生太
村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村
鏡吉曾西中燕	鏡吉曾西中燕	鏡吉曾西中燕	鏡吉曾西中燕	鏡吉曾西中燕	鏡吉曾西中燕	鏡吉曾西中燕	鏡吉曾西中燕	鏡吉曾西中燕	鏡吉曾西中燕	鏡吉曾西中燕	鏡吉曾西中燕
郷田根川野中川	郷田根川野中川	郷田根川野中川	郷田根川野中川	郷田根川野中川	郷田根川野中川	郷田根川野中川	郷田根川野中川	郷田根川野中川	郷田根川野中川	郷田根川野中川	郷田根川野中川
村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村	村村村村村
瀧加佐竹川柳	瀧加佐竹川柳	瀧加佐竹川柳	瀧加佐竹川柳	瀧加佐竹川柳	瀧加佐竹川柳	瀧加佐竹川柳	瀧加佐竹川柳	瀧加佐竹川柳	瀧加佐竹川柳	瀧加佐竹川柳	瀧加佐竹川柳
南奈渡野山柳	南奈渡野山柳	南奈渡野山柳	南奈渡野山柳	南奈渡野山柳	南奈渡野山柳	南奈渡野山柳	南奈渡野山柳	南奈渡野山柳	南奈渡野山柳	南奈渡野山柳	南奈渡野山柳
村居山町村	村居山町村	村居山町村	村居山町村	村居山町村	村居山町村	村居山町村	村居山町村	村居山町村	村居山町村	村居山町村	村居山町村

長						甲					
福	大	上	松	飯	長	谷	甲	甲	掛	掛	掛
島	町	諏	本	山	野	村	府	府	川	川	川
信	信	訪	信	信	信	甲	甲	甲	遠	遠	遠
濃	濃	信	濃	濃	濃	斐	斐	斐	江	江	江
田	北	諏	西	東	下	南	南	南	周	周	周
立	安	訪	筑	筑	水	都	都	都	智	智	智
村	曇	郡	摩	摩	内	留	留	留	郡	郡	郡
木	西	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
祖	筑	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
奈	安	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
川	曇	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
日	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
義	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
村	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
福	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
島	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
新	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
開	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
田	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
三	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
岳	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
村	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡

大											
京											
部											
木	園	宮	峰	稻	舞	大	池	茨	收	阪	大
津	部	津	山	知	鶴	坂	田	水	方	天	天
山城	丹	丹	丹	山	丹	攝	攝	攝	河	王	王
相樂郡	船井郡	與謝郡	中郡	丹波郡	丹波郡	豐島郡	島上郡	島上郡	交野郡	河内郡	河内郡
相樂郡	南桑田郡	北桑田郡	竹野郡	熊野郡	河守上村	河守下村	有路上村	河西村	東雲村	丸八江村	山良村
相樂郡	船井郡	與謝郡	中郡	丹波郡	丹波郡	豐島郡	島上郡	島上郡	交野郡	河内郡	河内郡
相樂郡	船井郡	與謝郡	中郡	丹波郡	丹波郡	豐島郡	島上郡	島上郡	交野郡	河内郡	河内郡

院										
伏	京	相	糸	高	六	柏	長	村	新	
見	部	川	魚	田	日	崎	岡	上	發	
山城	山	佐	川	越	町	越	越	越	田	
宇治郡	宇治郡	雜太郡	中頸城郡	中頸城郡	東頸城郡	南魚沼郡	北魚沼郡	北蒲原郡	東蒲原郡	
宇治郡	宇治郡	雜太郡	中頸城郡	中頸城郡	東頸城郡	南魚沼郡	北魚沼郡	北蒲原郡	東蒲原郡	
宇治郡	宇治郡	雜太郡	中頸城郡	中頸城郡	東頸城郡	南魚沼郡	北魚沼郡	北蒲原郡	東蒲原郡	
宇治郡	宇治郡	雜太郡	中頸城郡	中頸城郡	東頸城郡	南魚沼郡	北魚沼郡	北蒲原郡	東蒲原郡	

大津											
八幡近江	水口近江	大津近江	勝山美作	津山美作	笠岡備中	玉島備中	新見備中	高梁備中	片上備前	岡山備中	村岡但馬
蒲生郡	甲賀郡	滋賀郡 栗太郡 野洲郡	眞島郡 大庭郡	西北條郡 久米北條郡 久米南條郡 東北條郡 勝北郡 吉野郡 英田郡	小田郡 後月郡	淺口郡 窪屋郡 下道郡	哲多郡 新見村 菅生村 田治部村 豊永村 熊谷村 刑部村 上刑部村	阿賀郡 川上郡 賀陽郡 日美村 富山村 大和村	上房郡 阿賀郡 中井村 中津井村 上水田村 水田村 皆部村	和氣郡 磐梨郡	備前岡山市 御野郡 上道郡 津高郡 兒島郡 赤坂郡 邑久郡

坂																
神						奈										
戸						頁										
豊岡但馬	龍野播磨	社播磨	姫路播磨	洲本淡路	柏原丹波	筱山丹波	明石播磨	伊丹攝津	神戸攝津	五條大和	高田大和	松山大和	奈良大和	富田林河内	岸和田和泉	河内丹北
城崎郡	揖東郡	加東郡	姫路市	津名郡	水上郡	多紀郡	美嚨郡	川邊郡	八部郡	宇智郡	高市郡	宇陀郡	添上郡	志紀郡	南郡	丹北郡
氣多郡	揖西郡	加西郡	印南郡	三原郡				美嚨郡	菟原郡	吉野郡	葛上郡	葛下郡	添下郡	道明寺村	泉郡	天美村
出石郡	宍粟郡	多可郡	加古郡						武庫郡		忍海郡	忍海郡	山邊郡	道明寺村	日根郡	布忍村
養父郡	佐用郡		飾東郡						有馬郡		廣瀬郡	廣瀬郡	平群郡	道明寺村		松原村
美含郡	赤穂郡		飾西郡										式上郡	道明寺村		三宅村
朝來郡			神東郡										式下郡	道明寺村		恵我村
			神西郡										十市郡	道明寺村		

審											
訴											
和歌山		富山									
御坊	田邊	妙寺	和歌山	杉木	高岡	魚津	富山	輪島	高浪	七尾	大聖寺
紀伊	紀伊	紀伊	紀伊	新越中	越中	越中	越中	能登	能登	能登	加賀
御坊村	日高郡内 大島村	伊都郡内 長河村	和歌山郡内 中野志村 中野志村 上野志村 南野志村 長谷毛原村	礪波郡	高岡市 射水郡	下新川郡	富山郡 上新川郡 婦負郡	鳳至郡 珠洲郡	羽咋郡	鹿島郡	江沼郡
白崎村	上南郡村 高城村 清川村	下子村 名手村 狩宿村 上名手村 川原村 池田村	上岩出村 根來村 小倉村 丸樞村 山崎村 東貫志村								
衣奈村		麻生津村	北安樂川村 小川村 上野村 下野村 下神野村 下神野村								
船著村			北安樂川村 小川村 上野村 下野村 下神野村 下神野村								
早良村			北安樂川村 小川村 上野村 下野村 下神野村 下神野村								
野口村			北安樂川村 小川村 上野村 下野村 下神野村 下神野村								
矢内原村			北安樂川村 小川村 上野村 下野村 下神野村 下神野村								
西内原村			北安樂川村 小川村 上野村 下野村 下神野村 下神野村								

控											
福井											
金澤	小松	金澤	小濱	敦賀	大野	武生	三國	福井	長濱	彦根	今津
加賀	加賀	若狹	若狹	越前	越前	越前	越前	越前	近江	近江	近江
宮内村	里川村 未松村 小松町 美里町 安宅町 本折村	金澤市 石川郡 河北郡	草深村 砂川村	遠敷郡 大飯郡	敦賀郡	丹生郡内 南條郡	坂井郡	福井市 足羽郡 吉田郡	坂田郡 東淺井郡 伊香郡 西淺井郡	大上郡 愛知郡 神崎郡	津近江 高島郡
別宮村	古瀬村 長津村 粟津村 收江村 今江村					朝日村 志津村 越前村 吉川村 天川村 織山村 岡山村 上野村 吉野村 萩野村 常盤村 大虫村 殿下村 宮崎村					
河野村	粟津村 長津村 收江村 今江村										
吉原村	高田村 西尾村 白木村 大杉村										
尾口村	湯田村 金野村 千井村 寺井村										
白峰村	山崎村 新丸村 冲丸村 串丸村										
	江中村 浅井村 水津村 津島村										

●民事訴訟法△參照法令

院															
高松										山八幡濱伊豫					
半田	津島	一宮	名古屋	觀音寺	丸龜	三木	高松	宇和島	今治	西條	松	山八幡濱	伊豫	伊豫	伊豫
田尾張	島尾張	宮尾張	古屋尾張	寺讚岐	龜讚岐	松讚岐	松讚岐	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫
多知郡	海東郡	中島郡	名古屋	豊田郡	阿野郡	大内郡	阿野郡	東宇和郡	越智郡	宇摩郡	西宇和郡	八幡濱町	真火村	宮内村	三崎村
	海西郡	丹羽郡	東春日井郡	三野郡	坂出町	寒川郡	富田村	南宇和郡	野間郡	新居郡	周布郡	千丈村	志度村	山田村	香川郡
		葉栗郡	西春日井郡	金山村	那珂郡	多度郡	五名山	北宇和郡	桑村郡			伊方村	鴨部下庄村	山内村	山田郡
			愛知郡	西庄村	多度郡	多度郡	神前村	小豆郡				雙岩村	千足村	千足村	小豆郡
				林田村	多度郡	多度郡	石田村					三須村	粉所村	粉所村	小豆郡
				松山村	多度郡	多度郡	造田村					三須村	加茂村	加茂村	小豆郡
				王越村	多度郡	多度郡	津田村					四ツ濱村	加茂村	加茂村	小豆郡
				加茂村	多度郡	多度郡	長尾村					神松村	加茂村	加茂村	小豆郡
					多度郡	多度郡	津田村					神松村	加茂村	加茂村	小豆郡

德島															
高松										德島					
大洲	松山	中村	須崎	知赤	安藝	高知	川島	脇野	島岡	撫野	德島	新宮	新宮	新宮	新宮
伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫
西宇和郡	松山市	松山市	松山市	松山市	松山市	松山市	松山市	松山市	松山市	松山市	松山市	松山市	松山市	松山市	松山市
平野村	温泉郡	温泉郡	温泉郡	温泉郡	温泉郡	温泉郡	温泉郡	温泉郡	温泉郡	温泉郡	温泉郡	温泉郡	温泉郡	温泉郡	温泉郡
	伊豫郡	伊豫郡	伊豫郡	伊豫郡	伊豫郡	伊豫郡	伊豫郡	伊豫郡	伊豫郡	伊豫郡	伊豫郡	伊豫郡	伊豫郡	伊豫郡	伊豫郡
	和氣郡	和氣郡	和氣郡	和氣郡	和氣郡	和氣郡	和氣郡	和氣郡	和氣郡	和氣郡	和氣郡	和氣郡	和氣郡	和氣郡	和氣郡
	上浮穴郡	上浮穴郡	上浮穴郡	上浮穴郡	上浮穴郡	上浮穴郡	上浮穴郡	上浮穴郡	上浮穴郡	上浮穴郡	上浮穴郡	上浮穴郡	上浮穴郡	上浮穴郡	上浮穴郡
	下浮穴郡	下浮穴郡	下浮穴郡	下浮穴郡	下浮穴郡	下浮穴郡	下浮穴郡	下浮穴郡	下浮穴郡	下浮穴郡	下浮穴郡	下浮穴郡	下浮穴郡	下浮穴郡	下浮穴郡
	風早郡	風早郡	風早郡	風早郡	風早郡	風早郡	風早郡	風早郡	風早郡	風早郡	風早郡	風早郡	風早郡	風早郡	風早郡

名古屋									
岡崎三河	西尾三河	豐橋三河	新城三河	安濃津伊勢	松阪伊勢	四日市伊勢	龜山伊勢	上野伊賀	伊勢多氣郡
額田郡 西加茂郡 東加茂郡	尾張郡 西尾三河 尾張郡 西尾三河	尾張郡 西尾三河 尾張郡 西尾三河	尾張郡 西尾三河 尾張郡 西尾三河	尾張郡 西尾三河 尾張郡 西尾三河	尾張郡 西尾三河 尾張郡 西尾三河	尾張郡 西尾三河 尾張郡 西尾三河	尾張郡 西尾三河 尾張郡 西尾三河	尾張郡 西尾三河 尾張郡 西尾三河	尾張郡 西尾三河 尾張郡 西尾三河
中島郡 占部村	長久手郡 長久手村	長久手郡 長久手村	長久手郡 長久手村	長久手郡 長久手村	長久手郡 長久手村	長久手郡 長久手村	長久手郡 長久手村	長久手郡 長久手村	長久手郡 長久手村

民事訴訟法△參照法令

廣					院				
廣島	竹原	吳	廣島	岐阜	大垣	八幡	岐阜	木本	山田
備後	備前	備前	備前	備前	備前	備前	備前	備前	備前
備後 三次郡 三都郡 備前 三都郡	備前 竹原郡 竹原郡 竹原郡	備前 吳郡 吳郡 吳郡	備前 廣島郡 廣島郡 廣島郡	備前 岐阜郡 岐阜郡 岐阜郡	備前 大垣郡 大垣郡 大垣郡	備前 八幡郡 八幡郡 八幡郡	備前 岐阜郡 岐阜郡 岐阜郡	備前 木本郡 木本郡 木本郡	備前 山田郡 山田郡 山田郡
備後 三次郡 三都郡 備前 三都郡	備前 竹原郡 竹原郡 竹原郡	備前 吳郡 吳郡 吳郡	備前 廣島郡 廣島郡 廣島郡	備前 岐阜郡 岐阜郡 岐阜郡	備前 大垣郡 大垣郡 大垣郡	備前 八幡郡 八幡郡 八幡郡	備前 岐阜郡 岐阜郡 岐阜郡	備前 木本郡 木本郡 木本郡	備前 山田郡 山田郡 山田郡

島		控	
三	次	庄	尾
安藝	高田郡	原備後	道備後
高野山村 口北村 口南村	三上郡 奴可郡	山内東村 山内西村 山内北村 比和村	御調郡 世羅郡
	沼隈郡 安那郡	深津郡 安那郡	沼隈郡 安那郡
	神石郡 甲奴郡 芦田郡 品治郡	千手村 郷分村 神島村 葛戸村	神石郡 甲奴郡 芦田郡 品治郡
	吉敷郡 佐波郡		
美濃郡	山	山口	周防
熊毛郡 八代村	美濃郡 八代村		
都濃郡			
玖珂郡 内	玖珂郡 内		
小瀬川村 麻里布村 深須村 米川村	玖珂郡 内		
山内郡 山内郡	山内郡 山内郡		
大島郡 熊毛郡 伊保庄南村 室津村 上ノ関村 佐賀村 大野村	大島郡 熊毛郡 伊保庄南村 室津村 上ノ関村 佐賀村 大野村		
伊保庄北村 伊保庄南村			
平生村 會根村 麻里布村 室津村 上ノ関村 佐賀村 大野村			
三輪村 岩田村 室積村 高水村			
柳井津 周防 玖珂郡 内			

山		院	
萩	萩	今	今
赤間關長門	赤間關長門	大	大
船	船	益	益
松	松	西	西
木	木	烏	烏
長門	長門	取	取
島	島	吉	吉
		伯	伯
		河	河
		村	村
		郡	郡
		久	久
		米	米
		郡	郡
		八	八
		橋	橋
		郡	郡

民事訴訟法△参照法令

長																
佐賀						長崎										
久留米	飯塚	甘木	福岡	伊萬里	唐津	武雄	佐賀	藤原	福江	武生	平戶	島原	大村	長崎	溝口	米子
筑後	筑前	筑前	筑前	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	豐前	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前
久留米市	三潞郡	上座郡	下座郡	喜麻郡	鞍手郡	早良郡	粕屋郡	怡土郡	那珂郡	崇徳郡	志摩郡	席田郡	西松浦郡	南高來郡	東彼杵郡	西彼杵郡
三潞郡	山本郡	御井郡	竹野郡	御原郡	生葉郡											

民事訴訟法△參照法令

崎																				
福岡						長崎														
竹田	佐伯	臼杵	大分	行車	小倉	柳河	福岡	伊萬里	唐津	武雄	佐賀	藤原	福江	武生	平戶	島原	大村	長崎	溝口	米子
筑後	筑後	筑後	筑後	筑前	筑前	筑後	筑後	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	豐前	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前
直入郡	大野郡	大野郡	大野郡	大野郡	大野郡	大野郡	大野郡	大野郡	大野郡	大野郡	大野郡	大野郡	大野郡	大野郡	大野郡	大野郡	大野郡	大野郡	大野郡	大野郡
菅尾村	長谷川村	上緒方村	新田村	白山村	合川村	牧口村	大野村	百枝村	三重村	新田村	白山村	合川村	牧口村	大野村	菅尾村	長谷川村	上緒方村	新田村	白山村	合川村
大野村	菅尾村	長谷川村	上緒方村	新田村	白山村	合川村	牧口村	大野村	菅尾村	長谷川村	上緒方村	新田村	白山村	合川村	牧口村	大野村	菅尾村	長谷川村	上緒方村	新田村

熊										
木										
天	人	高	山	八	宮	御	三			
草肥後	吉肥後	瀬肥後	鹿肥後	代肥後	地肥後	船肥後	角肥後			
天草郡内 水戸村	球磨郡 宮田村 下浦村 上浦村	玉名郡 瀬田村 下浦村 上浦村	山鹿郡 山本郡 菊池郡	八代郡 葦北郡	阿蘇郡内 黒川村 馬見原町 長瀬村 上益城郡内 朝日村	下益城郡内 松尾町 隈庄町 西砥用村	飯野町 七瀬村 豊秋村 白糸村	上益城郡内 登立村	宇土郡内 下益城郡内	天草郡内 守宮村
手野村	下浦村 上浦村	下浦村 上浦村			中野村 波野村 柏木村 久木村	海東村 豊野村 豊野村	飯野町 津原村 小坂村 瀧川村	杉合村	杉合村	維和村
城河原村	下浦村 上浦村	下浦村 上浦村			野産古 野尻村	豊小川 川村	高木村 大川村 龍野村 中島村	中村	中村	湯島村
龜場村	下浦村 上浦村	下浦村 上浦村			草南板 ヶ小梨 矢國村	河江村 杉上村	六島村 上島村 瀧田村 下瀧村			
中田村	下浦村 上浦村	下浦村 上浦村			白北山 水小田 村國村	豊野郡 田村	宮内村 木山村 瀧尾町			
宮岡村	下浦村 上浦村	下浦村 上浦村			色菅尾 見石村	東砥用村	御岳村 水乙甲 越佐村			

控										
大										
分										
熊	豆	玉			中	杵				
本肥後	田豊後	豊前	津豊後	津豊前	豊後					
上益城郡内 白水村	阿蘇郡内 山内村 錦野村	日田郡 致珠郡 北馬城村	東國東郡内 伊美村	速見郡内 立石村	西國東郡内 玉津村 美和村 三浦村	津房村 雨川村 系川村 天津村	下毛郡内 宇佐郡内	東國東郡内 富來村 上東村	速見郡内 朝日村	西國東郡内 朝田村
			上伊美村 竹田津村 熊毛村		高田町 草田村	柳佐町 東院村 高日市村	上國崎村 西武蔵村	御越村 南端村	田原村	
					三吳崎村	和問村	朝豐崎村	北杵築村	西大野村 今市村	
					西眞玉村	院内村	西安岐村	日出町	士師村	
					中眞玉村	南院内村	安岐村	八坂町	中井田村	
					上眞玉村	西馬城村	南安岐村	川崎村	井田村	
					白野村	明治村	旭日村	東山香村		
						龍王村	南安岐村	藤原村		
							武蔵村	中山香村		
							奈狩江村	大神村		

朕民事訴訟費用法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

法律第六十四號

明治二十三年八月十五日

民事訴訟費用法

- 第一條 民事訴訟法ノ規定ニ於ケル訴訟費用ハ以下數條ノ規定ニ從ヒ之ヲ算定ス
- 第二條 訴狀其他總テ書類ノ書記料ハ半枚十二行二十字詰ニ付キ金二錢五厘トス但半枚ニ滿タサルモノモ亦同シ
- 圖面ハ葉ニ付金十錢トス但別ニ測量ヲ要シタルトキハ其測量費ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル
- 第三條 翻譯料ハ半枚十二行二十字詰ニ付金五十錢トス但半枚ニ滿タサルモノモ亦同シ
- 第四條 民事訴訟用印紙法ニ從ヒ貼用シタル印紙ノ費額ハ其代價ニ依ル
- 第五條 執達吏ノ手數料及ヒ立替金ハ執達吏手數料規則ノ規定ニ從フ
- 第六條 郵便料、電信料及ヒ運送料ハ其實費ニ依ル
- 第七條 官報、公報及ヒ新聞紙ヲ以テ公告シタル公告料ハ各其定價ニ依ル
- 第八條 民事訴訟法第二百二十七條ノ規定ニ從ヒ辯護士ノ附添ヲ命シタルトキハ其報酬ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル
- 第九條 當事者ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金五十錢トス但滞在費ヲ給スル場合ニ於テハ此日當ヲ二十五錢トス
- 第十條 證人ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金五十錢トス但滞在費ヲ給スル場合ニ於テハ此日當ヲ給セス
- 第十一條 鑑定人及ヒ通事ノ日當一度ニ付金五十錢乃至五圓ノ範圍内ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル
- 第十二條 鑑定ヲ爲スニ付キ別ニ支出シタル費用ハ其實費ニ依ル
- 第十三條 當事者ノ滞在費ハ滿八里以外ノ地ヨリ來リ滞在スルトキハ一日金二十五錢トス證人、鑑定人及ヒ通事ノ滞在費ハ一日金五十錢トス
- 第十四條 當事者、證人、鑑定人及ヒ通事ノ旅費ハ海陸滿一里毎ニ付キ金十錢トス通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス
- 第十五條 外國ニ在ル當事者ノ旅費ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル
- 第十六條 判事及ヒ裁判所書記檢證ノ爲メ實地臨檢ヲ爲スニ付テノ旅費及ヒ滞在費ハ證人ニ準ス
- 第十七條 本法ニ定メサル必要ノ費用ハ其實費ニ依ル
- 第十八條 強制執行及ヒ非訟事件ニ關ル費用ハ執達吏手數料規則ニ定メタルモノヲ除ク外前數條ノ規定ヲ準用シテ之ヲ算定ス
- 第十九條 強制執行又ハ非訟事件ニ關シテ保管人若クハ管理人ヲ任命シタルトキハ其費用ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

朕民事訴訟用印紙法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

民事訴訟法△參照法令

執達吏手數料規則ハ明治二十三年七月二十五日法律第五十二號參看

法律第六十五號

明治廿三年 八月十五日

民事訴訟用印紙法

第一條 民事訴訟ノ書類ニハ以下數條ノ規定ニ從ヒ其正本ニ印紙ヲ貼用ス可シ但裁判所書記ニ口述シテ調書ヲ作ラシメタルトキハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第二條 財産權上ノ請求ニ係ル第一審ノ訴狀ニハ訴訟物價額ニ應シテ左ノ區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

訴訟物ノ價額金五圓マテ	二十錢
同 十圓マテ	三十錢
同 二十圓マテ	六十錢
同 五十圓マテ	一圓五十錢
同 七十五圓マテ	二圓二十錢
同 百圓マテ	三圓
同 二百五十圓マテ	六圓五十錢
同 五百圓マテ	十圓
同 七百五十圓マテ	十三圓
同 千圓マテ	十五圓
同 二千五百圓マテ	二十圓
同 五千圓マテ	二十五圓
同 五千圓以上八千圓ニ達スル毎二圓ヲ加フ	

訴訟物ノ價額ヲ算定スルニハ民事訴訟法第三條乃至第六條ノ規定ニ從フ

第三條 財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ付テハ其訴訟物ノ價額百圓ト看做シ印紙ヲ貼用ス可シ

第四條 財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ト其訴訟ニ由テ生スル財産權上ノ訴訟ト併合スルトキハ其多額ナル一方ノ訴訟物ノ價額ニ依リ印紙ヲ貼用ス可シ

第四條 本訴ト反訴ト其目的カ同一ノ訴訟物ナルトキハ反訴ノ訴狀ニ印紙ヲ貼用スルヲ要セス

第五條 控訴狀ニハ第二條ノ規定ニ從ヒ其半額上告狀ニハ其全額ノ印紙ヲ加貼ス可シ

第六條 左ニ掲グル書類ニハ五十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第一 抗告

第二 故障

第三 證據調ノ申立

第四 假差押及ヒ假處分ノ申請

第五 判決ノ送達アラシメテ求ムル申立

第六 執行力アル正本ヲ求ムル申立但此正本ノ數通ヲ求ムルトキハ其一通毎ニ五十錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ

第七條 和解及ヒ督促手續ニ付キ民事訴訟法第三百八十一條第三項及ヒ第三百九十一條ノ規定ニ依リ訴力區裁判所ニ繫屬スルトキハ第二條第三條ノ規定ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

第八條 再審ヲ求ムルノ訴狀ニハ其訴ヲ爲ス可キ裁判所ノ審級ニ依リ相當ノ印紙ヲ

民事訴訟法△參照法令

貼用ス可シ

第九條 原状回復ノ申立ニハ其書面ヲ差出ス可キ裁判所ノ審級ニ依リ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十條 答辯書其他前數條ニ掲ケサル申立及ヒ申請ニハ二十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十一條 民事訴訟法第九十七條第一號ノ場合ノ外此法律ニ從ヒ印紙ヲ貼用セサル民事ノ訴訟ノ書類ハ其効ナキモノトス但印紙ヲ貼用セス又ハ貼用スルモ不足アルトキハ裁判所ハ相當印紙ヲ貼用セシメ之ヲ有効ナラシムルヲ得

第十二條 印紙ノ種類及ヒ貼用方ハ明治十七年第四號布達ニ依ル

第十三條 印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ賣買スルコトヲ許サス

第十四條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ之ヲ買取シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス

第十五條 前條ノ規定ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯、加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用シス

第十六條 第六條第十條乃至第十二條ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

朕判事懲戒法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第六十八號

明治二十三年 八月二十日

明治十七年四月... 年二月十七... 號布達... 用紙類... 定價... 方今... 印紙類... 五種... 以布... 印紙類... 紙類... 定價... 及之... 紙類... 定價... 左通... 紙類... 定價... 色紙... 定價... 色紙... 定價... 同紙... 定價... 茶色... 定價... 同紙... 定價...

判事懲戒法

第一章 總則

第一條 凡ソ判事ヲ懲戒スルハ左ノ場合ニ於テ懲戒裁判所ノ裁判ヲ以テスヘシ

第一 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

第二 官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ

第二章 懲罰

第二條 懲罰ハ左ノ如シ

第一 譴責

第二 減俸

第三 轉所

第四 停職

第五 免職

第三條 前條何レノ懲罰ヲ適用スヘキヤ否ハ所犯ノ輕重ニ從ヒ懲戒裁判所之ヲ定ムヘシ

懲戒裁判所ハ懲罰ノ適用ヲ定ムルニ當リ平生ノ行狀ヲ斟酌スルコトヲ得

第四條 減俸ハ一月以上一年以下年俸月割額ノ三分ノ一以內ヲ減ス

第五條 轉所ハ他ノ裁判所若ハ他ノ職ニ轉セシム但シ情狀ニ因リ減俸ヲ併セ科スルコトヲ得

第六條 停職ハ三月以上一年以下職務ノ執行ヲ停止ス

停職中ハ俸給ヲ給セス

第七條 免職ノ言渡ヲ受ケタル者ハ現任ノ官ヲ失ヒ及恩給ヲ受クルノ權ヲ失フ

第三章 懲戒裁判所

民事訴訟法△參照法令

第八條 懲戒裁判所ハ各控訴院及大審院ニ之ヲ置ク

第九條 控訴院ニ於ケル懲戒裁判所ハ控訴院長ヲ加ヘ其院ノ判事五人ヲ以テ組立テ院長ヲ以テ長トス

大審院ニ於ケル懲戒裁判所ハ大審院長ヲ加ヘ其ノ院ノ判事七人ヲ以テ組立テ院長ヲ以テ長トス

第十條 控訴院長及大審院長ハ每年部長ト協議シ前以テ懲戒裁判所ノ判事ヲ定メ並ニ裁判所長判事差支アルトキノ代理順序ヲ定ム

第十一條 懲戒裁判所ノ判事忌避回避ニ付テハ治罪法ノ規程ヲ準用ス

第十二條 控訴院ニ於ケル懲戒裁判所ノ判事ハ檢事ノ職務ハ檢事長之ヲ行ヒ大審院ニ於ケル懲戒裁判所ノ判事ハ檢事總長之ヲ行フ

第十三條 控訴院ニ於ケル懲戒裁判所長ハ其院ノ裁判所書記ノ中ヨリ懲戒裁判所ノ書記ヲ命シ大審院ニ於ケル懲戒裁判所長ハ其ノ院ノ裁判所書記ノ中ヨリ懲戒裁判所ノ書記ヲ命ス

第十四條 控訴院ニ於ケル懲戒裁判所ハ院長及部長ヲ除ク外其ノ院ノ判事及其ノ管轄區域内ノ總テノ下級裁判所ノ判事ニ對スル懲戒事件ヲ管轄ス

第十五條 大審院ニ於ケル懲戒裁判所ハ左ノ事件ヲ管轄ス
第一 第一審ニシテ終審トシテ大審院ノ判事、控訴院長及控訴院部長ニ對スル懲戒事件

第二 控訴院ニ於ケル懲戒裁判所ノ裁判ニ對スル抗告及控訴

第十六條 懲戒裁判所ノ管轄ハ所犯ノ地ニ拘ラス裁判手續開始ノトキ判事ノ奉職スル裁判所ニ依テ定マルモノトス

第四章 裁判手續

第十七條 懲戒裁判所ハ檢事ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ懲戒裁判ヲ開始スヘキヤ否ヲ決定ス但シ職權ヲ以テスル場合ニ於テハ檢事ノ意見ヲ聽クヘシ

第十八條 檢事ハ裁判手續ノ開始ヲ拒ミタル懲戒裁判所ノ決定ニ對シテハ七日ノ期間内ニ抗告裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第十九條 抗告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キタル後抗告ヲ裁判ス若シ抗告ヲ正當ナリト認メタルトキハ裁判手續開始ノ決定ヲ爲シ管轄懲戒裁判所ヲシテ其後ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第二十條 開始決定ニハ懲戒スヘキ所爲及證據ヲ開示スヘシ

第二十一條 開始決定ハ檢事及被告ニ送達スヘシ

第二十二條 懲戒裁判所ニ於テ下調ヲ必要ナリト決定スルトキハ懲戒裁判所長ハ懲戒裁判ヲ開始シタル院ノ判事ハ管轄區域内ノ地方裁判所ノ判事ニ下調ヲ命スヘシ

第二十三條 下調ノ命ヲ受ケタル判事ハ必要ナル證據ヲ集取スヘシ
受命判事ハ被告ヲ呼出シテ事實ヲ陳述セシムルコトヲ得

被告ハ代理人ヲシテ代理セシムルコトヲ得
證人ハ治罪法ノ規程ニ從ヒ之ヲ訊問スヘシ

第二十四條 受命判事ハ證人訊問其ノ他證據集取ヲ他ノ裁判所ノ判事ニ囑託スルコトヲ得

第二十五條 受命判事ハ下調結了ノ後調書及一切ノ證據ヲ懲戒裁判所長ニ差出シ裁判所長ハ二十四時内ニ檢事ニ之ヲ送付スヘシ

第二十六條 檢事ハ三日内ニ意見ヲ付シ記録ヲ懲戒裁判所長ニ還付スヘシ

第二十七條 懲戒裁判所ハ下調ヲ十分ナリト思料スルトキハ口頭辯論ヲ爲スノ決定

ヲ爲シ又ハ免訴ノ判決ヲ爲スヘシ
免訴ノ理由ナキモ現時裁判ニ著手スルコトヲ得サルトキハ訴追停止ノ決定ヲ爲ス
ヘシ

第二十八條 前條ノ裁判ハ檢事及被告ニ送達スヘシ

第二十九條 懲戒裁判所長ハ口頭辯論ノ期日ヲ定メ被告ヲ呼出スヘシ

第三十條 辯論ハ之ヲ公行セス

第三十一條 口頭辯論ハ裁判所開始決定ヲ朗讀スルヲ以テ始マルモノトス

裁判長ハ先ツ被告ヲ審訊シ次テ證據調ヲ爲シ檢事及被告ヲシテ證據ノ結果ニ付辯
論ヲ爲サシメ被告ニ最終ノ發言ヲ許スヘシ

第三十二條 懲戒裁判所ハ被告若ハ檢事ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ更ニ證據ヲ提
出セシムルコトヲ適當ナリトスルトキハ之カ爲メ必要ナル命令ヲ發シ且辯論ヲ他
日ニ延期スルコトヲ得

第三十三條 被告ハ他人ヲシテ辯護セシメ又ハ代理人ヲ用キルコトヲ得

第三十四條 懲戒裁判所ハ事件ノ辯論既ニ十分ナリトスルトキハ之ヲ終結シ評議判
決スヘシ

第三十五條 判決ハ即時ニ之ヲ言渡ス若シ即時ニ之ヲ言渡スコト能ハサルトキハ七
日內ニ判決ヲ被告及檢事ニ送達スヘシ

第三十六條 被告又ハ代理人辯論期日ニ出頭セスト雖判決ヲ言渡スコトヲ得

第三十七條 評議及言渡ニ關シテハ裁判所構成法ノ規程ニ從ヒ證據ノ判斷ニ關シテ
ハ治罪法ノ規程ニ從フ

第三十八條 被告及檢事ハ十四日ノ期間內ニ控訴ノ申立ヲ爲スヲ得但シ其ノ期間
ハ判決言渡ヨリ起算ス若シ被告出頭セサルハ判決ノ送達アリタルヨリ起算ス

第三十九條 控訴ノ申立ハ判決ヲ受ケタル懲戒裁判所ニ之ヲ爲スヘシ

控訴狀ハ控訴ノ申立ヲ爲シタルヨリ十四日ノ期間內ニ之ヲ差出スヘシ

第四十條 懲戒裁判所ハ控訴ノ申立及控訴狀ノ謄本ヲ對手人ニ送達スヘシ

對手人ハ送達ヲ受ケタルヨリ十四日ノ期間內ニ答辯書ヲ差出スコトヲ得

第四十一條 懲戒裁判所ハ前條ノ期間經過シタル後其ノ書類ヲ控訴裁判所ニ送付ス
ヘシ

控訴裁判所長ハ口頭辯論ノ期日ヲ定メ被告ヲ呼出スヘシ

第四十二條 控訴裁判所ハ第一審ニ於テ申出テサル證據ヲ提出シタルトキハ之ヲ取
調フヘシ若シ第一審ニ於テ訊問シタル證人ノ再訊問ヲ申立テタルトキハ其ノ重要
ノ點ニ於テ陳述ヲ異ニシ又ハ新ナル重要ノ事實ヲ證言セントノ推測十分ナルトキ

ニ限り之ヲ許ス
職權ヲ以テスル訊問ハ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得

第四十三條 第二審ニ於ケル裁判手續ハ第三十條乃至第三十七條ノ規程ヲ適用ス

第四十四條 控訴ノ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却シ其ノ費用ヲ控訴人
ニ負擔セシムヘシ

控訴ノ理由アリトスルトキハ第一審判決言渡ヲ取消シ控訴裁判所更ニ判決ヲ爲シ
且其ノ費用ニ付裁判ヲ爲スヘシ
控訴完結ノ後其ノ記録ハ第二審ニ於テ爲シタル判決ノ認證アル謄本ト共ニ原裁判
所ニ之ヲ還付スヘシ

第四十五條 調書ノ調製期間ノ計算及書類ノ送達ニ付テハ治罪法ノ規程ニ從フ

懲戒裁判所手續ノ費用ハ刑事裁判費用ニ關ル規程ニ從フ

第四十六條 懲戒裁判所ノ裁判ハ確定ノ後ニ非サレハ之ヲ執行スルコトヲ得ス

第四十七條 懲戒裁判所確定シタルトキハ懲戒裁判所長ハ司法大臣ニ事件ノ情况ヲ報告シ且判決ノ謄本ヲ差出スヘシ

第四十八條 懲戒裁判所減俸轉所若ハ停職ノ裁判ヲ言渡シタルトキハ司法大臣其ノ執行ノ手續ヲ爲ス

第五章 職務停止

第四十九條 判事ハ左ノ場合ニ於テハ當然職務ヲ停止セララルモノトス

第一 刑事裁判手續ニ於テ勾留セラレタルトキ

第二 刑事裁判ニ依テ官職ノ喪失ニ該ル刑ノ言渡ヲ受ケタルトキ

第三 懲戒裁判ニ依テ免職ノ言渡ヲ受ケタルトキ

第五十條 刑事裁判ニ依テ拘留ノ刑ノ確定裁判ヲ受ケタルトキハ其ノ刑期ノ殘ルマテ當然職務ヲ停止セララルモノトス

第五十一條 懲戒裁判所ハ懲戒事件ノ轉所停職若ハ免職ニ該當スルモノト思料スルトキハ何時ニテモ職權ヲ以テ又ハ檢事ノ申立ニ因リ懲戒裁判手續結了ニ至ルマテ被告ノ職務ヲ停止スルコトヲ決定スルヲ得但シ職權ヲ以テ決定ヲ爲ストキハ檢事ノ意見ヲ聽クヘシ

刑事裁判手續中何レノ場合ニ於テモ懲戒裁判所ハ其ノ手續結了ニ至ルマテ被告ノ職務ヲ停止スルコトヲ決定スルヲ得

第五十二條 懲戒裁判所ノ決定ニ因リ又ハ當然職務ヲ停止セラレタル後其ノ判事ノ爲シタル職務上ノ行爲ハ無効トス

第五十三條 被告ハ職務停止ノ決定ニ對シ上訴ヲ爲スコトヲ得

第六章 懲戒裁判手續ト刑事裁判手續トノ關係

第五十四條 刑事裁判手續中ハ同事件ニ付被告ニ對シ懲戒裁判手續ヲ開始スルコト

ナ得ス

懲戒裁判所ニ於テ判決ノ言渡前同事件ニ付被告ニ對シ刑事訴追ノ始マリタルトキ

ハ其事件ノ判決ヲ終ルマテ懲戒裁判手續ヲ停止スヘシ

第五十五條 刑事裁判ニ依テ法律ニ觸レサルニ因リ免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタルトキト雖同一ノ所爲ニ付懲戒裁判手續ニ於テ仍ホ訴追スルヲ妨ケス

刑事裁判ニ依テ官職ノ喪失ヲ起ササル刑ノ言渡ヲ受ケタルトキハ懲戒裁判手續ニ於テ仍ホ訴追スルコトヲ得

第七章 補則

第五十六條 懲戒スヘキ所爲ハ本法實施前ニ關ルモノト雖本法ニ從ヒ之ヲ訴追ス

第五十七條 此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行ス

朕家資分散法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

法律第六十九號 明治二十三年八月二十日

家資分散法

第一條 民事訴訟法ノ強制執行處分ニ因リ義務ヲ辨濟スル資力ナキ債務者ニ對シテ

ハ管轄裁判所ハ職權ニ因リ又ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ家資分散者タルノ宣告ヲ爲ス可シ

右ノ決定ハ口頭辯論ヲ要セスシテ之ヲ爲スコトヲ得

此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

民事訴訟法△參照法令

二百五十一

第二條 前條ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
 第三條 第一條ノ宣告ハ裁判所及市町村ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ公告ス可シ
 第四條 家資分散者ハ其宣告ヲ受ケタル日ヨリ選舉權及被選舉權ヲ失フ
 第五條 商法及本法施行以後ニ於テ從前ノ法律中身代限處分ヲ受ケタル者ニ對シ公
 權ノ喪失ヲ定メタル條項ハ破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者ニ對シ効力ヲ有
 ス

朕裁判上代位法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一日ヨリ施
 行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

法律第九十三號 明治二十三年
 十月三日

裁判上代位法

第一條 民法財産編第三百三十九條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ屬スル訴權ヲ行ハント
 スル債權者ハ先ツ債務者ニ其行使ヲ合式ニ催告スルコトヲ要ス
 債務者右催告ヲ受ケタル後ハ權利ヲ讓渡スコトヲ得ス
 第二條 債務者前條ノ催告ヨリ七日内ニ被告ト爲ル可キ第三者ニ對シテ訴ヲ提起セ
 サルトキハ債權者ハ債務者ノ住所地ノ裁判所ニ代位ノ申立ヲ爲スコトヲ得但催告
 書ノ謄本ヲ差出ス可シ
 第三條 代位ノ申請ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス
 第一 債權者、債務者、被告ト爲ル可キ第三者及ヒ裁判所ノ表示

第二 代位申請ノ原因タル債權ノ表示

第三 訴訟物ノ表示

第四條 裁判所ハ申請ニ付キ債務者ヲ審訊セスシテ決定ヲ爲スコトヲ得
 右申請ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

朕民事訴訟法ノ補則トシテ婚姻事件養子縁組事件及ヒ禁治産事件ニ關スル訴訟規則
 ナ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ
 命ス

御名 御璽

法律第百四號 明治二十三年
 十月八日

婚姻事件養子縁組事件及ヒ禁治産事件ニ關スル訴訟規則

第一章 婚姻事件及ヒ養子縁組事件ノ訴訟手續

第一條 婚姻ノ無効、離婚又ハ同居ヲ目的トスル訴訟ハ夫カ普通裁判籍ヲ有スル地
 ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス
 縁組ノ無効又ハ離縁ヲ目的トスル訴訟ハ養子ヲ爲シタル者カ普通裁判籍ヲ有スル
 地ノ地方裁判所ニ專屬ス
 婚姻又ハ縁組ノ不成立ニ關スル訴訟ハ被告カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ地方裁判所
 ニ專屬ス
 第二條 婚姻事件及ヒ縁組事件ニ付テハ檢事ハ口頭辯論ニ立會フノ外受命判事若ク
 ハ受託判事ノ面前ニ於テ爲ス審問ニモ亦立會フコトヲ得檢事ニハ職權ヲ以テ總テ
 ノ期日ヲ通ス可シ

●民事訴訟法△參照法令

檢事ハ婚姻又ハ縁組ヲ維持スル爲メ新ナル事實及ヒ證據方法ヲ提出スルコトヲ得
 調書ニハ檢事ノ氏名及ヒ其申立ヲ記載ス可シ
 第三條 婚姻ノ不成立、無効、離婚及ヒ同居ノ訴ハ之ヲ併合スルコトヲ得縁組ノ不
 成立、無効及ヒ縁組ノ訴モ亦同シ
 婿養子縁組ノ場合ニ於テハ婚姻ノ不成立、無効、離婚又ハ同居ノ訴ニ縁組ノ不成
 立、無効又ハ縁組ノ訴ヲ併合スルコトヲ得
 本條ノ訴ニ他ノ訴ヲ併合シ及ヒ他ノ種類ノ反訴ヲ提起スルコトヲ得但本條ノ訴
 ノ原因タル事實ヨリ生スル損害賠償及ヒ養料ノ請求ニ付テハ此限ニ在ラス
 第四條 判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結ニ至ルマテハ訴ニ於テ提出シタル以外ノ理
 由ヲ主張スルコトヲ得
 第五條 婚姻ノ無効若クハ離婚又ハ縁組ノ無効若クハ縁組ノ訴ニ付キ棄却ノ言渡ヲ
 受ケタル原告ハ前訴訟ニ於テ又ハ訴ノ併合ニ因リ主張スルヲ得ヘカリシ事實ヲ獨
 立ナル訴ノ理由トシテ主張スルコトヲ得ス被告ニ在テハ反訴ノ理由ト爲スヲ得ヘ
 カリシ事實ニ付テモ亦同シ
 第六條 民事訴訟法第百十一條第二項第三項第二百十條及ヒ第三百三十五條乃至第
 三百四十一條ノ規定ハ之ヲ適用セス
 第七條 口頭辯論ノ期日ニ被告力出頭セサルトキハ原告ノ申立ニ因リ新期日ヲ定ム
 可シ
 被告ノ在廷セサル場合ニ於テ期日ヲ定メタルトキハ其都度被告ヲ呼出ス可シ
 闕席判決ハ本條ノ手續ノ効アラサルトキニ限り被告ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得
 第八條 裁判所ハ原告若クハ被告ノ自身出頭ヲ命シテ其原告若クハ被告又ハ其相手
 方若クハ檢事ノ主張シタル事實ニ付キ原告若クハ被告ヲ審訊スルコトヲ得

審訊ヲ受ク可キ原告若クハ被告力受訴裁判所ニ出頭スル能ハサルトキ又ハ受訴裁
 判所ノ所在地ヨリ遠隔ノ地ニ在ルトキハ受命判事若クハ受託判事ニ依リ審訊ヲ爲
 スコトヲ得
 出頭セサル原告若クハ被告ニ對シテ審訊期日ニ出頭セサル證人ニ對スル規定ヲ適
 用ス
 第九條 和諧ノ調フ可キ見込アルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ離婚又ハ縁組ノ訴ニ關
 スル手續ヲ長グトモ一介年間中止スルコトヲ得
 第十條 裁判所ハ婚姻又ハ縁組ヲ維持スル爲メ當事者ノ提出セサル事實ヲ斟酌シ
 且職權ヲ以テ證據調ヲ爲スコトヲ得但裁判前ニ當事者ヲ審訊ス可シ
 第十一條 婚姻及ヒ縁組ノ不成立若クハ無効又ハ縁組若クハ縁組ヲ言渡ス判決ハ職
 權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達ス可シ
 第十二條 婚姻件及ヒ縁組事件ノ判決ニ付テハ假執行ノ宣言ヲ付スルコトヲ得ス
 第十三條 假處分ニ關シ殊ニ配偶者ノ一方又ハ養子力住家ヲ去ルノ許可及ヒ養料ノ
 供給ヲ申立テタル場合ニ於テハ民事訴訟法第七百五十六條乃至第七百六十三條ノ
 規定ヲ準用ス
 第十四條 婚姻及ヒ縁組不成立若クハ無効又ハ離婚若クハ縁組ヲ言渡シタル判決確
 定シタルトキハ裁判所ノ揭示板ニ揭示シテ之ヲ公告ス可シ
 第十五條 民法ノ規定ニ從ヒ檢事ノ職權ヲ以テ起スコトヲ得ヘキ無効ノ訴ニ付テハ
 以下數條ニ定メタル特別ノ規定ニ從フ
 第十六條 檢事又ハ第三者ヨリ訴ヲ起ストキハ夫婦又ハ養親子ヲ以テ相手方ト爲ス
 夫婦又ハ養親子ノ一方ヨリ訴ヲ起ストキハ他ノ一方ヲ以テ相手方ト爲ス
 第十七條 檢事ハ自ら訴ヲ起ササルト雖モ訴訟ヲ追行シ殊ニ獨立シテ申立ヲ爲シ及

民事訴訟法△參照法令

ヒ上訴ヲ爲スコトヲ得

第十八條 檢事上訴ヲ爲シタルトキハ上訴手續ニ於テ前審ノ當事者雙方ヲ相手方ト看做ス

檢事カ訴訟人タル場合ニ於テハ當事者ノ一方カ上訴ヲ爲シタルトキハ上訴手續ニ於テ他ノ一方ト檢事トヲ相手方ト看做ス

第十九條 訴訟人タル檢事カ敗訴スル場合ニ於テハ民事訴訟法第一編第二章第五節ノ規定ニ從ヒ勝訴者タル相手方ニ生シタル費用ハ國庫ノ負擔トス

第二章 禁治產事件ノ訴訟手續

第二十條 禁治產ノ申立ハ治產ヲ禁セラル可キ者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第二十一條 申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得其申立ノ理由タル事實及ヒ證據方法ノ表示ヲ包含ス可シ

第二十二條 裁判所ハ申立ニ表示シタル事實及ヒ證據方法ニ依リ職權ヲ以テ心神喪失ノ常況ニ在ルヤ否ヲ定ムル爲メニ必要ナル探知ヲ爲シ且適當トスル證據方法ヲ調フ可シ

裁判所ハ訴訟手續ヲ開始スルノ前診斷書ノ提出ヲ命スルコトヲ得

檢事ハ總テノ場合ニ於テ申立ヲ爲シテ訴訟手續ヲ追行スルコトヲ得

證人及ヒ鑑定人ノ訊問及ヒ宣誓ニ付テハ民事訴訟法第二編第一章第六節及ヒ第七節ノ規定ヲ適用ス

第二十三條 裁判所ハ公開セサル法廷ニ於テ一人又ハ數人ノ鑑定人ノ立會ヲ以テ治產ヲ禁セラル可キ者ヲ訊問ス可シ此訊問ハ受託判事ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

右訊問ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ實施シ難ク又ハ裁判ノ爲メニ必要ナラス又ハ治產ヲ禁セラル可キ者ノ健康ニ害アリトスルトキハ之ヲ爲ササルコトヲ得

第二十四條 禁治產ノ宣言ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

右宣言ハ豫メ治產ヲ禁セラル可キ者ノ心神喪失ノ常況ニ付キ一人又ハ數人ノ鑑定人ヲ訊問シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十五條 裁判所ハ治產ヲ禁セラル可キ者ノ身體ノ監護又ハ財産ノ保存ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第二十六條 訴訟手續ノ費用ハ治產ヲ禁シタル場合ニ於テハ禁治產者之ヲ負擔シ其他ノ場合ニ於テハ禁治產ノ申立ヲ爲シタル者之ヲ負擔ス可シ但檢事カ申立ヲ爲シタルトキハ國庫之ヲ負擔ス

第二十七條 禁治產ニ付キ爲シタル決定ハ職權ヲ以テ申立人及ヒ檢事ニ之ヲ送達ス可シ

第二十八條 禁治產ヲ宣言スル決定ハ法律上ノ後見人アルトキハ其後見人ニ職權ヲ以テ之ヲ通知ス可シ

第二十九條 申立人及ヒ檢事ハ禁治產ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

抗告裁判所ノ訴訟手續ニハ第二十二條ノ規定ヲ準用ス

第三十條 禁治產ヲ宣言スル決定ニ對シテハ一个月ノ期間内ニ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得

訴ヲ起スノ權利ハ禁治產者、其後見人及ヒ民法ノ規定ニ從ヒ禁治產ノ申立ヲ爲スノ權ヲ有スル者ニ屬ス

民事訴訟法△參照法令

ハ後見人ノ選定ヲ以テ始マリ又法律上ノ後見ノ場合ニ於テハ其決定ヲ法律上ノ後見人ニ通知スルヲ以テ始マル

第三十一條 訴ハ區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三十二條 禁治産ニ對シテ不服ヲ申立ル訴ニハ他ノ訴ヲ併合スルコトヲ得ス
反訴ハ之ヲ爲スコトヲ許サス

第三十三條 禁治産者カ訴ヲ起サントスルコトキハ其申立ニ因リ受訴裁判所ノ裁判長ハ訴訟代理人トシテ辯護士ヲ之ニ附添ハシム可シ

第三十四條 第六條及ヒ第七條ノ規定ハ本章ニモ之ヲ準用ス

第三十五條 第二十三條第二項ノ規定ハ不服申立ノ訴ニ付テノ訴訟手續ニ之ヲ準用ス

裁判所ハ區裁判所ニ於テ爲シタル鑑定ヲ十分ナリト認ムルトキハ鑑定人ノ訊問ヲ爲ササルコトヲ得

第三十六條 不服申立ノ訴ヲ理由アリトスルトキハ禁治産ヲ宣言シタル決定ヲ取消ス可シ

然レトモ此取消ノ判決ハ後見人ノ既ニ爲シタル行爲ノ効力ニ影響ヲ及ボサス

第三十七條 不服申立ノ訴ニ關スル訴訟費用ニ付テハ第二十六條ノ規定ヲ準用ス

第三十八條 受訴裁判所ハ禁治産事件ニ付キ爲シタル總テノ終局判決ヲ區裁判所ニ通知ス可シ

第三十九條 禁治産ノ解止ニ付テハ左ノ特別ナル規則ヲ除クノ外本章ノ規定ヲ準用ス

第二十二條第二項ハ浪費者ニ之ヲ適用セズ
又同條第三項、第三十五條、第三十三條及ヒ檢事ニ關スル規定ハ總テノ準禁治産者

ニ之ヲ適用セズ

準禁治産ヲ解止スル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

朕茲ニ判事檢事官等俸給令ヲ裁可ス

御名 御璽

勅令第百五十八號 明治二十三年 八月二日

判事檢事官等俸給令

第一條 判事檢事ノ官等年俸ハ別表定ムル所ニ依ル

第二條 判事檢事ノ各職ニ付其人員官等年俸ヲ限定スルコト左ノ如シ

大審院

長 一人

勅任一等

年俸五千圓

部長

三人

但特ニ年俸五千五百圓ヲ給スルコトアルヘシ

勅任一等二等

年俸四千五百圓四千圓

判事

二十七人

勅任二等乃至奏任二等

年俸三千五百圓乃至八百圓

大審院檢事局

檢事總長

一人

勅任一等

年俸五千圓又ハ四千五百圓

檢事

五人

●民事訴訟法△參照法令

二百五十九

控訴院	勅任二等乃至奏任二等	年俸三千五百圓乃至千八百圓
長	東京 勅任一等	七 人
	大阪 勅任二等	年俸四千五百圓
部	其他勅任二等	年俸四千圓三千五百圓
長	奏任一等二等	十五 人
判	奏任三等四等	年俸二千六百圓乃至八百圓
事	控訴院檢事局	八十五 人
	檢事長	年俸千六百圓乃至千圓
	勅任二等	七 人
檢	奏任一等乃至四等	年俸 ^豫 四千圓 其他三千五百圓三千圓
事	地方裁判所	二十 人
	長	年俸二千四百圓乃至千圓
地方	東京 奏任二等	四十八 人
裁判	大阪 奏任一等	年俸二千六百圓
所	其他奏任一等乃至三等	年俸二千四百圓乃至千六百圓
	部長	九 十 人
	奏任三等四等	年俸千四百圓乃至千圓
判		四百十五 人
事		

地方	奏任四等乃至六等	年俸九百圓乃至五百圓
裁判	所檢事局	
所	檢事正	四十八 人
	東京 奏任一等	年俸二千四百圓
	大阪 奏任二等	年俸二千二百圓乃至千圓
	其他奏任二等乃至四等	百二十五 人
檢	奏任四等乃至六等	年俸千圓乃至五百圓
事	區裁判所	八百四十 人
	判 事	年俸九百圓乃至五百圓
	區裁判所檢事局	二百七十五 人
	檢 事	
	奏任四等乃至六等	年俸九百圓乃至五百圓
	第三條 豫備判事ハ其人員ヲ三十五人トシ豫備檢事ハ其人員ヲ十五人トス	
	豫備判事豫備檢事ハ奏任六等ニ叙シ年俸四百圓ヲ給ス	
	司法官試補ハ其人員ヲ百十人トス	
	司法官試補ハ其待遇ヲ奏任トス年俸三百圓以下ヲ給ス	
	第四條 第二條ノ各職中年俸ニ等差アルモノハ每俸平等ニ其人員ヲ定ム但端數ノ人	
	員ヲ生スルトキハ最下級ヨリ漸次上級ノ人員ニ併合ス	
	第五條 裁判所構成法第六十二條ニ依リ新任スル判事又ハ檢事ニシテ直チニ補職ス	
	ル者ハ奏任六等ニ叙シ年俸五百圓ヲ給ス豫備判事又ハ豫備檢事ニシテ補職スル者	
	モ亦同シ	

民事訴訟法△參照法令

第九條 試驗委員長及試驗委員ハ地方裁判所及區裁判所ノ判事檢事ノ中ヨリ試驗舉行毎ニ司法大臣之ヲ命ス

第十條 控訴院長ハ試驗ヲ受クヘキ修習者ノ名簿ヲ試驗委員長ニ送付スヘシ
前項ノ送付アリタルトキハ試驗委員長ハ試驗期日ヲ定メ之ヲ修習者ニ告知スヘシ

第十一條 試驗ハ筆記口述ノ二様トス

第十二條 試驗ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ
第一 民事訴訟法及治罪法ノ中書類送達及執行ニ關ル規程
第二 執達吏ニ關ル諸規則
第三 算術(加減乗除分數比例)
第四 讀書筆寫

第十三條 筆記試驗問題ノ答案ハ裁判所ノ官吏監督シテ之ヲ作ラシム
試驗委員長ハ受験者ノ申立アルトキハ區裁判所ニ於テ筆記試驗問題ノ答案ヲ作ラシムルコトヲ得

第十四條 受験者ノ及第落第及及第者ノ優劣ハ筆記試驗口述試驗ノ成績ニ對スル委員過半數ノ意見ニ從テ之ヲ決ス
及第落第ニ付テノ意見數相半スルトキハ落第ト看做スヘシ

第十五條 試驗ニ及第シタル者ニハ試驗委員長及試驗委員ノ連署シタル及第證書ヲ授與ス

第十六條 試驗ニ落第シタル者ハ更ニ三箇月以上修習ヲ爲スニ非サレハ再ヒ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第十七條 不正ノ方法ヲ以テ及第企テタル者ハ再ヒ試驗ヲ受クルコトヲ得ス其及

第シタル者ハ及第ノ効ナキモノトス

第十八條 試驗委員ハ試驗ノ問題及成績ヲ記錄ニ記載スヘシ

第十九條 試驗委員長ハ及第者ノ氏名及其試驗成績ヲ控訴院長ニ報告スヘシ

第二十條 左ニ掲クル者ハ試驗ヲ要セス執達吏ニ任セラルルコトヲ得
第一 官立府縣立中學校又ハ之ト同等ナル官立府縣立學校、司法省舊法學校又ハ帝國大學ノ監督ヲ受ケタル舊私立法學校及文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ有スル者
第二 裁判所書記ノ登用試驗ニ及第シタル者
第三 判任官以上ノ職ヲ現ニ奉シ又ハ曾テ奉シタル者
第四 陸軍下士ニシテ文官奉職ヲ請願スルコトヲ得ル者

第二十一條 第三條乃至第六條ノ規程ハ前條ニ掲ケタル者ニモ亦之ヲ適用ス
前條第四ニ該ル者ハ職務修習ノ願書ニ修習ヲ爲サントスル區裁判所ヲ記載シ陸軍大臣ヲ經由シテ司法大臣ニ差出スヘシ司法大臣ハ願書ヲ管轄控訴院長ニ送付スヘシ

第二十二條 試驗及第者及第二十條ニ掲ケタル者ニシテ職務修習ヲ終リタル者ノ任補ハ執達吏ノ缺員アルヲ待テ控訴院長之ヲ攝行ス

第二十三條 執達吏ニ任セラレタル者ハ任補ノ日ヨリ三十日內ニ保證金ヲ管轄地方裁判所ニ納ムヘシ若シ其期間內ニ保證金ヲ差出ササルトキハ職務ヲ罷免ス
保證金ハ五百圓以下ニ於テ土地ノ情況ニ從ヒ控訴院長之ヲ定ム
保證金ハ相當ノ價格アル公債證書若ハ日本銀行株券ヲ以テ之ニ代ユルコトヲ得

第二十四條 執達吏保證金ヲ納メタルトキハ裁判所ハ官印ヲ交付ス
執達吏ハ官印ノ交付ヲ得タル後ニ非サレハ職務ヲ行フコトヲ得ス

附則
第二十五條 本則實施ノ際ハ職務修習ヲ要セス試驗及任補ヲ行フコトヲ得

司法省令第三號 明治二十三年 八月十五日

明治二十三年(二月)法律第六號裁判所構成法第卅一條ニ依リ地方裁判所支部及其管轄左表甲乙號ノ通相定メ甲號支部ニ於テハ重罪公判及民事第二審ヲ除ク外地方裁判所ノ裁判權ニ屬スル事務乙號支部ニ於テハ豫審ヲ要スルモノヲ除ク外地方裁判所裁判權ニ屬スル刑事第一審ノ事務ヲ取扱ハシム
但本令ハ明治二十三年十一月一日ヨリ實施ス

支部	管轄區	裁判所
八王子	八王子	
八日市場	八日市場	佐原
木更津	木更津	北條
土浦	土浦	麻生 龍ヶ崎
下妻	下妻	
栃木	栃木	佐野
熊谷	熊谷	大宮
高崎	高崎	富岡
濱松	濱松	掛川

松本	松本	上諏訪	大町	福島
飯田	飯田	伊奈		
上田	上田	岩村田		
新發田	新發田	村上	六日町	
長岡	長岡	柏崎		
高田	高田	糸魚川		
相川	相川			
宮津	宮津	峰山	福知山	舞鶴
洲本	洲本			
姫路	姫路	社	龍野	
豐岡	豐岡	村岡		
津山	津山	勝山		
彦根	彦根	長濱		
小濱	小濱	敦賀		
七尾	七尾	高濱	輪島	
田邊	田邊	御坊	新宮	
脇町	脇町	川島		

民事訴訟法△参照法令

天	大	石	白	平	若	米	酒	鶴	磐	大	弘	八	支	沼	谷	園	篠
草	島	卷	河	平	松	澤	田	岡	井	曲	前	戶	部	津	村	部	山
天	大	石	白	平	若	米	酒	鶴	磐	大	弘	八	管	沼	谷	園	篠
草	島	卷	河	平	松	澤	田	岡	井	曲	前	戶	轄	津	村	部	山
		登			田	長			水	橫	參		區	下		柏	
		米			島	井			澤	手	澤		裁	田		原	
		氣									五		判	吉			
		仙									所		所	原			
		沼															

●民事訴訟法△參照法令

中	宇	岡	山	高	尾	赤	濱	西	米	平	福	嚴	久	小	中	豆
村	和	崎	田	山	道	間	田	鄉	子	戶	江	原	留	倉	津	田
中	島	崎	山	山	道	關	田	鄉	子	戶	江	原	留	倉	津	田
村	島	崎	山	山	道	關	田	鄉	子	戶	江	原	留	倉	津	田
		西	木		福	船	大		溝	武			福	行	玉	
		尾	本		山	木	森		口	生			島	毒	津	
		豐					益			水			柳			
		城					田						河			

横 濱										所 判 裁		
										本 所		
下 板 橋 武 藏	日 暮 里 武 藏	小 松 川 武 藏	新 宿 武 藏	武 藏	武 藏	武 藏	武 藏	武 藏	武 藏	武 藏	武 藏	武 藏
岩淵町	上板橋村	王子村	南葛飾郡内	南葛飾郡内	南葛飾郡内	南葛飾郡内	南葛飾郡内	南葛飾郡内	南葛飾郡内	南葛飾郡内	南葛飾郡内	南葛飾郡内
志村	赤塚村	瀨野川村	奥戸村	金町村	船堀村	平井村	龜戸村	龜戸村	龜戸村	龜戸村	龜戸村	龜戸村
築鴨村	上練馬村	築鴨町	水元村	松江村	砂村	砂村	砂村	砂村	砂村	砂村	砂村	砂村
長崎村	下練馬村	尾久村	龜青村	小松川村	小松川村	小松川村	小松川村	小松川村	小松川村	小松川村	小松川村	小松川村
高田村	中新井村	尾久村	小岩村	大木村	大木村	大木村	大木村	大木村	大木村	大木村	大木村	大木村
板橋町	石神井村	尾久村	新宿村	大島村	大島村	大島村	大島村	大島村	大島村	大島村	大島村	大島村

地 方 裁									
八 王 子									
藤 澤 相 摸	三 崎 相 摸	大 磯 相 摸	厚 木 相 摸	會 屋 相 摸	松 田 惣 領 相 摸	小 野 路 武 藏	青 梅 武 藏	小 野 路 武 藏	青 梅 武 藏
高 原 郡 内	三 浦 郡 内	大 磯 郡 内	厚 木 郡 内	會 屋 郡 内	松 田 郡 内	小 野 郡 内	青 島 郡 内	小 野 郡 内	青 島 郡 内
松林村	横須賀町	磯須賀町	成瀬村	比々多村	西奈野村	加生村	箱根ヶ崎村	箱根ヶ崎村	箱根ヶ崎村
鶴嶺村	六會村	六會村	雁間村	北奈野村	北奈野村	小宮村	小會木村	小會木村	小會木村
寒川村	藤澤大坂町	藤澤大坂町	金山村	東奈野村	東奈野村	淺川村	殿ヶ谷村	殿ヶ谷村	殿ヶ谷村
小出村	鶴見村	鶴見村	太田村	大山町	大山町	元八王子村	調布村	調布村	調布村
御所見村	茅ヶ崎村	茅ヶ崎村	豊田村	大根村	大根村	日野宿	長岡村	長岡村	長岡村
御所見村	茅ヶ崎村	茅ヶ崎村	豊田村	大根村	大根村	日野宿	長岡村	長岡村	長岡村

民事訴訟法△参照法令

裁 方									
龍ヶ崎		麻生			北條		谷田部		石岡
江戸		矢田	宮中	玉造	常陸	常陸	常陸	常陸	常陸
河内郡内	信太郡内	河内郡内	鹿島郡内	鹿島郡内	行方郡内	行方郡内	筑波郡内	筑波郡内	新治郡内
木原村	君賀村	大宮村	豊津村	手賀村	香登村	小田村	豊村	七會村	中家村
舟島村	沼里村	八原村	豊郷村	武田村	八代村	山ノ莊村	島名村	玉川村	東村
安中村	奥野村	源清田村	波野村	秋津村	潮來町	菅間村	鹿島村	高濱町	
浮島村	君原村	長久村	中野村	立花村	津知村	筑波町	十和村	關川村	
	阿見村	柴崎村	大同村	現原村	小高村	田井村	福岡村	志筑村	

地 戸 水									
土		太田			鉾田		茨城		笠間
浦		大津	高萩	大宮	大子	常陸	常陸	常陸	常陸
信太郡内	新治郡内	多賀郡内	多賀郡内	那珂郡内	久慈郡内	久慈郡内	久慈郡内	久慈郡内	久慈郡内
佐賀村	大津町	河原上村	八里村	賀美村	依上村	金砂村	沼前村	新宮村	平磯村
志土庫村	關本村	關分村	上野村	天下野村	黒澤村	上小川村	大谷村	上島村	川柳村
安飾村	關南村	南中郷村	大賀村	中里村	佐原村	世矢村	勝田村	白鳥村	國田村
牛渡村	華川村	日高村	小瀨村	諸富野村	河内村	坂本村	中野村	誠訪村	芳野村
美野村	北中郷村	豊前村	野口村	生瀨村	築和村	東小郷村	前多村	徳宿村	木崎村

岡									
津					藤				
津					枝				
熱	伊	田	三	御	島	德	藤	枝	藤
海伊豆	東伊豆	中伊豆	鳥伊豆	廣駿河	駿河	遠江	山	駿河	駿河
賀茂郡内	賀茂郡内	田方郡内	田方郡内	駿河郡内	駿河郡内	遠江郡内	德山郡内	志太郡内	志太郡内
網代村	宇佐美村	上狩野村	北浦村	高根村	大津村	中川根村	笹間村	相川村	藤原村
多賀村	小室村	下狩野村	北浦村	須山	大津村	東川根村	吉永村	吉永村	朝興村
	中大見村	中狩野村	北浦村	北郷村	大長村	大洲村	大洲村	和田村	朝興村
	對馬村	北狩野村	西豆村	足柄村	大洲村	伊久身村	伊久身村	和田村	朝興村
			江間村	富土岡村	大洲村	伊久身村	伊久身村	和田村	朝興村

靜					所				
靜					富				
岡					岡				
蒲	江	玉	藤	藤	下	吉	神	藤	藤
原駿河	尻駿河	川駿河	駿河	駿河	仁田上野	井上野	川上野	岡上野	岡上野
益津郡	庵原郡内	庵原郡内	庵原郡内	庵原郡内	北甘樂郡内	北甘樂郡内	多胡郡内	多胡郡内	多胡郡内
松野村	三保村	高部村	大河内村	大河内村	西牧村	多胡村	入野村	入野村	入野村
蒲原町	清水町	小島村	梅ヶ島村	梅ヶ島村	下仁田町	尾澤村	吉田村	吉田村	吉田村
由比町	入江町	兩河内村	井川村	井川村	尾澤村	吉田村	吉田村	吉田村	吉田村
内房村	有度村	庵原村	袖師村	袖師村	尾澤村	吉田村	吉田村	吉田村	吉田村
		大里村	長田村	長田村	尾澤村	吉田村	吉田村	吉田村	吉田村
		南藤機村	北藤機村	北藤機村	尾澤村	吉田村	吉田村	吉田村	吉田村
		清澤村	美和村	美和村	尾澤村	吉田村	吉田村	吉田村	吉田村
		大里村	長田村	長田村	尾澤村	吉田村	吉田村	吉田村	吉田村
		南藤機村	北藤機村	北藤機村	尾澤村	吉田村	吉田村	吉田村	吉田村
		清澤村	美和村	美和村	尾澤村	吉田村	吉田村	吉田村	吉田村

